



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

ESTIMA



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	32
お子さまの安全のために	40
子供専用シート	41
チャイルドシートの 取り付け	49
排気ガスに対する注意	56
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	57
オートアラーム	58

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーション ディスプレイ	68

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	72
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
フロントドア	75
スライドドア	80
バックドア	91
スマートエントリー& スタートシステム	101
3-3. シートの調整	
フロントシート	106
セカンドシート	108
サードシート	113
ヘッドレスト	126
シートアレンジ	130
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	136
インナーミラー	138
ドアミラー	139
補助確認装置	142
3-5. ドアガラス	
・ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	143
大型ムーンルーフ	146

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	150
荷物を積むときの注意	158

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	159
オートマチック トランスミッション	164
方向指示レバー	169
パーキングブレーキ	170

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	171
フォグランプスイッチ	176
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	177
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	179

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	181
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

4WD オートモード	185
クルーズコントロール	186
レーダークルーズ コントロール	190
LKA（レーンキーピング アシスト）	200
クリアランスソナー	208
運転を補助する装置	214
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	219

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	225
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの 使い方

フロントエアコン	230
リヤエアコン	238
リヤクーラー	241
快適温熱シート	243

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	245
・フロントパーソナルランプ ／フロントルームランプ	246
・リヤパーソナルランプ	246

5-3. 収納装備

収納装備一覧	248
・グローブボックス	249
・小物入れ	249
・カップホルダー	251
・ボトルホルダー	252
・ロングスライド コンソール	253
ラゲージルーム内装備	255
・デッキフック	255
・停止表示板 収納スペース	255
・デッキボード	257

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	258
・サンバイザー	258
・後席確認ミラー	259
・時計	260
・アクセサリースOCKET ／アクセサリコンセント	261
・アームレスト	263
・買い物フック	264
・アシストグリップ	265
・ステアリングスイッチ	266
ETC システム	267

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	288
内装の手入れ	291

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	294
ガレージジャッキ	296
ウォッシャー液の補充	297
タイヤについて	298
タイヤの交換	301
エアコンフィルターの交換	311
電子キーの電池交換	314
ヒューズの点検・交換	316
電球（バルブ）の交換	319

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	344
非常点滅灯 （ハザードランプ）	345
発炎筒	346
車両を緊急停止するには	348

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	349
警告灯がついたときは	355
警告メッセージが 表示されたときは	360
パンクしたときは	367
エンジンが 始動できないときは	379
シフトレバーが シフトできないときは	381
電子キーが正常に 働かないときは	382
バッテリーが あがったときは	384
オーバーヒートしたときは	388
スタックしたときは	391

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量など）
.....394

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....402

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目406

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）..... 408
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）..... 411
アルファベット順さくいん 413
五十音順さくいん 414

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ・ エンジンの回転数
- ・ 車速
- ・ トランスミッションのシフトポジション
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ エアバッグ作動に関する情報
- ・ エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意がある場合
- ・ 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



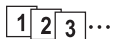
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

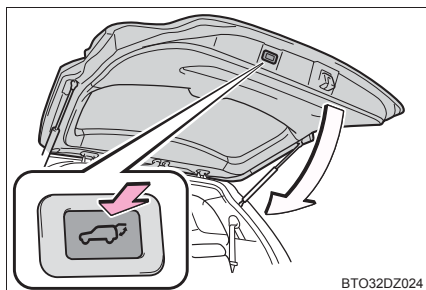
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

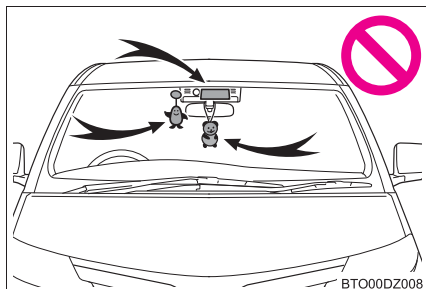
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



BTO32DZ024

➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



BTO00DZ008



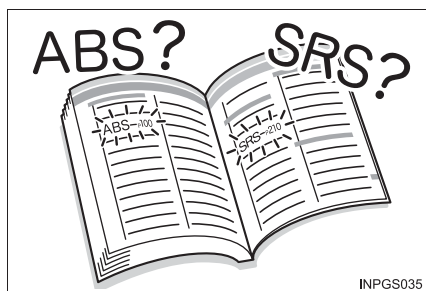
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん414
- ・ アルファベット順
さくいん413



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



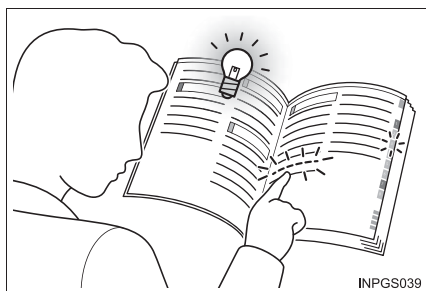
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)408
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)411



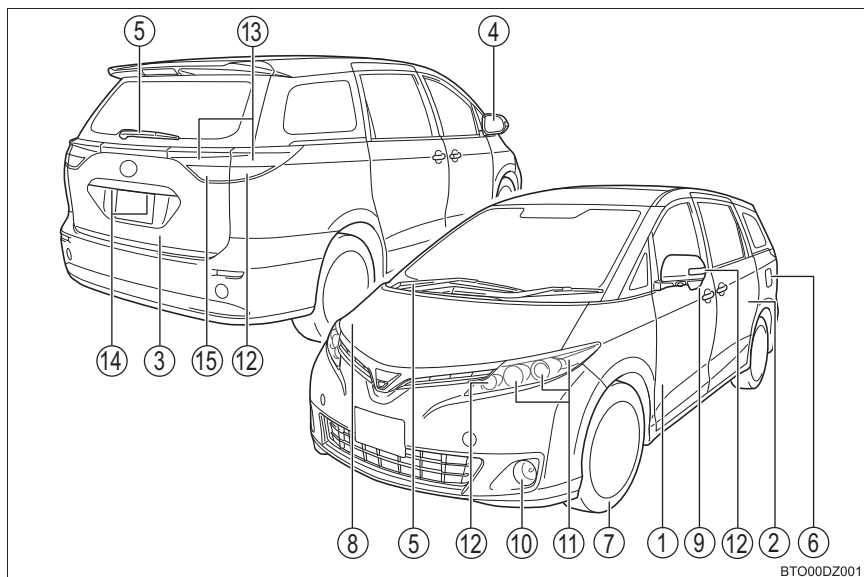
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



BTO00DZ001

バンパー、グリルなどの形状は、グレードなどで異なります。

- ① フロントドア P. 75
 - 施錠／解錠 P. 75
 - ドアガラスの開閉 P. 143
 - メカニカルキーでの施錠／解錠 P. 382
 - 警告メッセージ★ P. 362
- ② スライドドア P. 80
 - 施錠／解錠 P. 80
 - ドアガラスの開閉 P. 143
 - 警告メッセージ★ P. 362
- ③ バックドア P. 91
 - 施錠／解錠 P. 91
 - 車内から開ける★ P. 92
 - 車外から開ける P. 92
 - 警告メッセージ★ P. 362

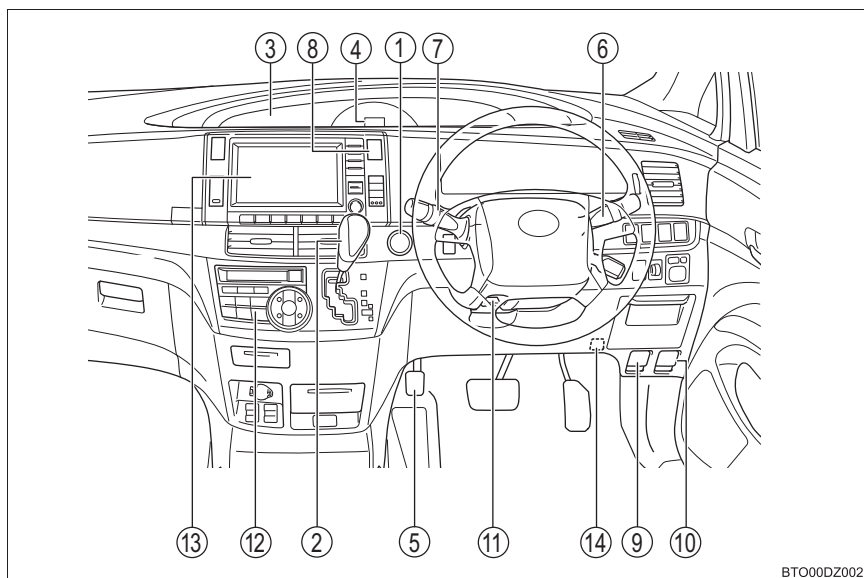
- ④ ドアミラーP. 139
 - 鏡面の角度調整P. 139
 - ミラーの格納P. 139
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★P. 233
- ⑤ ワイパーP. 177, 179
 - 冬季の注意P. 225
 - 凍結防止（熱線式ウインドシールドデアイサー）★P. 234
- ⑥ 給油口P. 181
 - 給油方法P. 181
 - 燃料の種類・燃料タンク容量P. 394
- ⑦ タイヤP. 298
 - サイズ・空気圧P. 399
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 225
 - 点検・ローテーションP. 298
 - パンク時の対処P. 367
- ⑧ ボンネットP. 294
 - 開け方P. 294
 - エンジンオイルP. 395
 - オーバーヒート時の対処P. 388
- ⑨ 補助確認装置★P. 142

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 319, ワット数：P. 400）

- ⑩ フロントフォグランプP. 176
- ⑪ ヘッドランプ・車幅灯P. 171
- ⑫ 方向指示灯P. 169
- ⑬ 尾灯P. 171
- ⑭ 番号灯P. 171
- ⑮ 後退灯
 - シフトポジションを R にするP. 164

■ インストルメントパネル

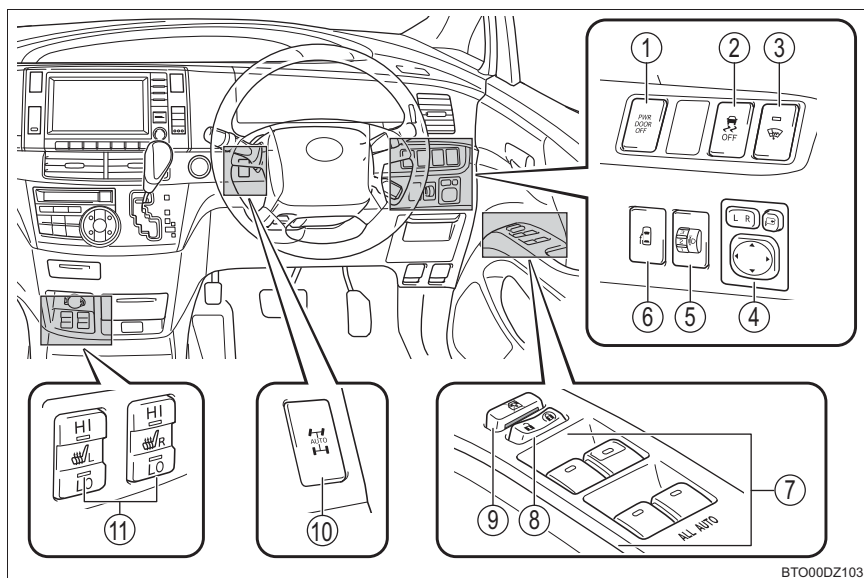


BTO00DZ002

- ① エンジンスイッチP. 159
 エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえP. 159
 エンジンの緊急停止P. 348
 エンジンが始動できないときの対処P. 379
 警告灯P. 359
 警告メッセージ★P. 365
- ② シフトレバーP. 164
 シフトポジションの切りかえP. 165
 けん引時の注意P. 349
 シフトレバーが動かないときの対処P. 381
- ③ メーターP. 66
 明るさの調整★P. 67
 警告灯／表示灯P. 62
 警告灯点灯時の対処P. 355

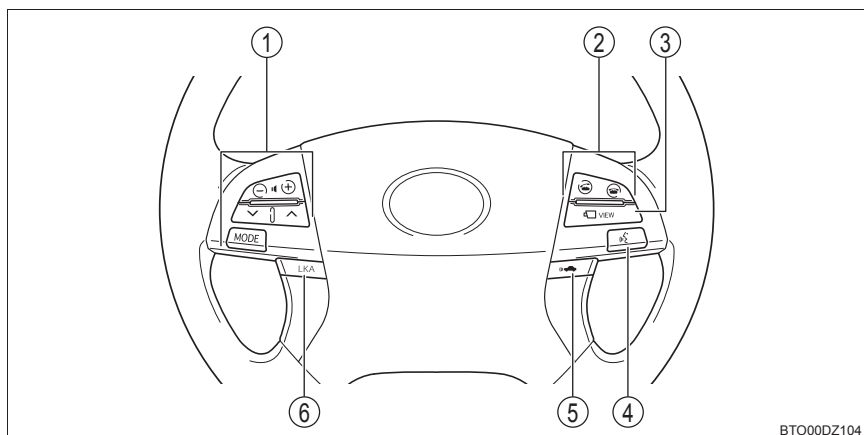
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ★.....P. 68
 - 表示内容.....P. 68
 - 警告メッセージ表示時の対処.....P. 360
- ⑤ パーキングブレーキ.....P. 170
 - かける・解除する.....P. 170
 - 冬季の注意.....P. 226
 - 警告ブザー・警告メッセージ★.....P. 355, 362
- ⑥ 方向指示レバー.....P. 169
 - ランプスイッチ.....P. 171
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯.....P. 171
 - フロントフォグランプ.....P. 176
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ.....P. 177, 179
 - 使い方.....P. 177, 179
 - ウォッシャー液の補充.....P. 297
- ⑧ 非常点滅灯スイッチ.....P. 345
- ⑨ ボンネット解除レバー.....P. 294
- ⑩ 給油扉オープナー.....P. 183
- ⑪ ハンドル位置調整レバー.....P. 136
 - 調整方法.....P. 136
- ⑫ フロントエアコン.....P. 230
 - 調整方法.....P. 230
 - リヤウインドウガラスの曇り取り
(リヤウインドウデフォッガー).....P. 233
- ⑬ ナビゲーションシステム★※
- ⑭ プリクラッシュブレーキ OFF スwitch★.....P. 220

■ スイッチ類



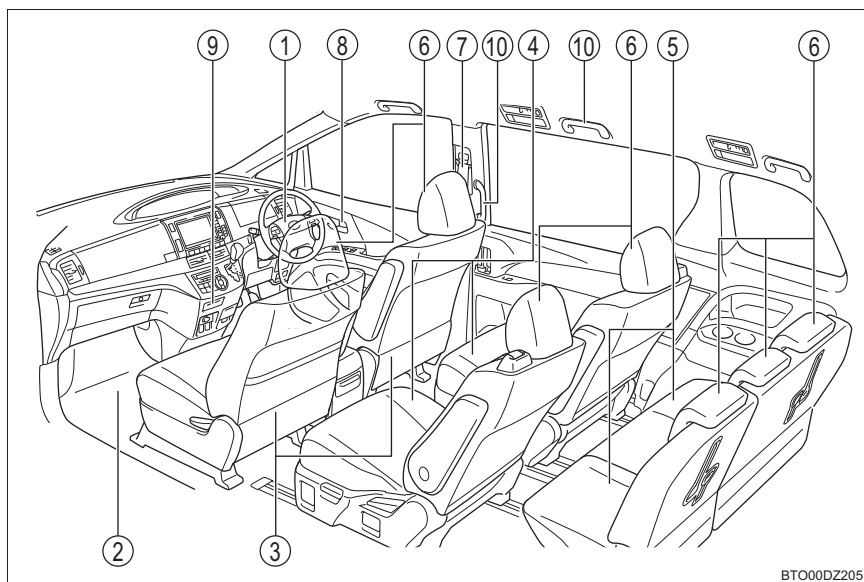
BT000DZ103

- ① パワースライドドア／パワーバックドア メインスイッチ.....P. 82
- ② VSC OFF スイッチP. 215
- ③ 熱線式ウインドシールドデアイサースイッチ★P. 234
- ④ ドアミラースイッチP. 139
- ⑤ 手動光軸調整ダイヤル★P. 173
- ⑥ 助手席側パワースライドドアスイッチ★.....P. 82
- ⑦ パワーウインドウスイッチP. 143
- ⑧ ドアロックスイッチP. 77
- ⑨ ウインドウロックスイッチP. 143
- ⑩ 4WD オートモードスイッチ★.....P. 185
- ⑪ 快適温熱シートスイッチ★.....P. 243

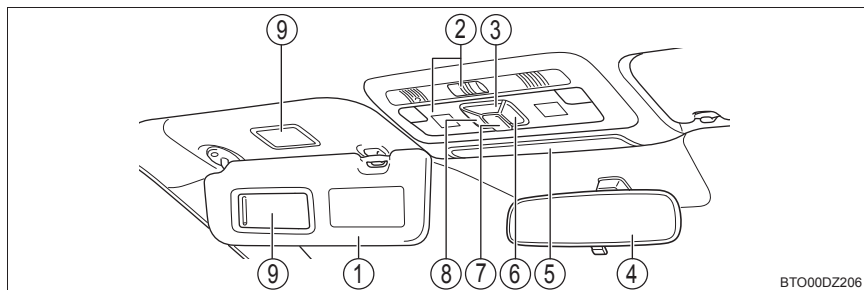


- ① オーディオスイッチP. 266
- ② 電話スイッチ★※
- ③ パノラミックビューモニターメインスイッチ★※
- ④ トークスイッチ★※
- ⑤ 車間距離切りかえスイッチ★P. 192
- ⑥ LKA（レーンキーピングアシスト）スイッチ★P. 201

■ 室内



- | | |
|-------------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 32 |
| ② フロアマット | P. 22 |
| ③ フロントシート | P. 106 |
| ④ セカンドシート | P. 108 |
| ⑤ サードシート | P. 113 |
| ⑥ ヘッドレスト | P. 126 |
| ⑦ シートベルト | P. 26 |
| ⑧ ロックレバー | P. 77 |
| ⑨ カップホルダー | P. 251 |
| ⑩ アシストグリップ | P. 265 |

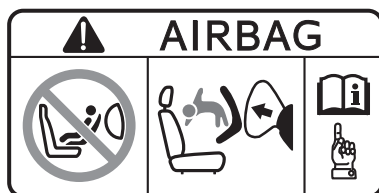


BTO00DZ206

- ① サンバイザー※P. 258
- ② 室内灯.....P. 246
- ③ パワーバックドアスイッチ★P. 92
- ④ インナーミラー.....P. 138
- ⑤ 後席確認ミラー★P. 259
- ⑥ 運転席パワースライドドアスイッチ★P. 82
- ⑦ リヤサンシェードスイッチ★P. 146
- ⑧ 助手席パワースライドドアスイッチ★P. 82
- ⑨ バニティミラー／バニティミラーランプP. 258

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P. 54）



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	32
お子さまの安全のために	40
子供専用シート.....	41
チャイルドシートの 取り付け.....	49
排気ガスに対する注意	56

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム.....	57
オートアラーム.....	58

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

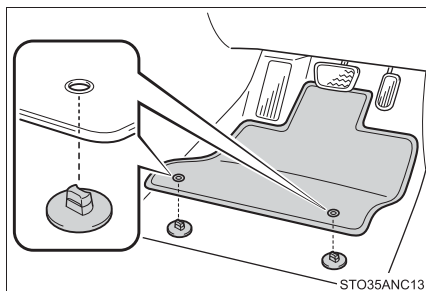
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

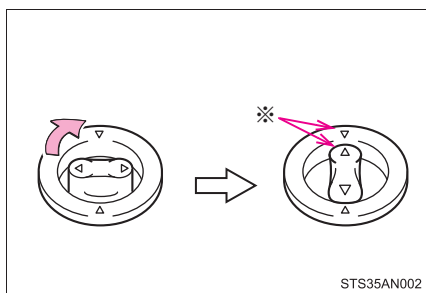
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

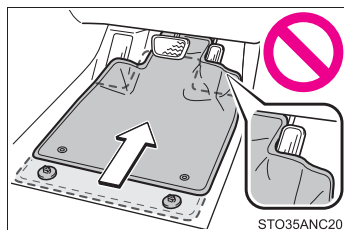
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になるほか、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

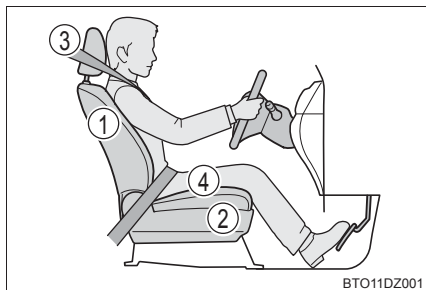


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 106）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 106）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 126）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 41）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 138, 139）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

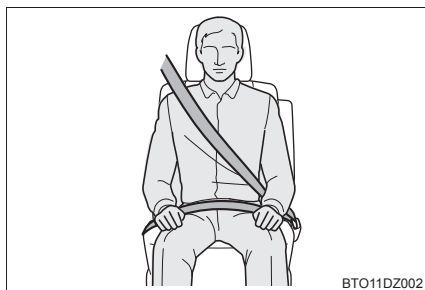
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

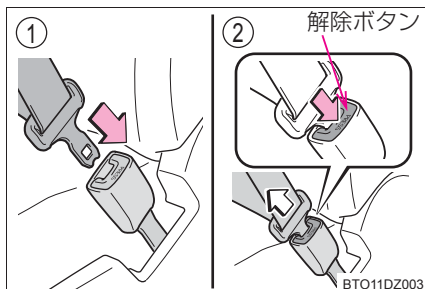
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



BTO11DZ002

3点式シートベルトの着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

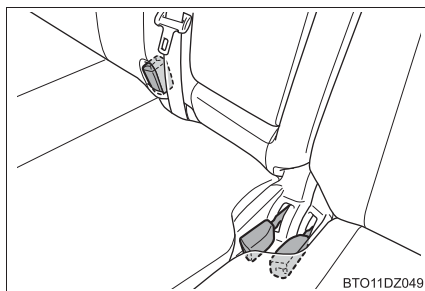
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートを保クルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



BTO11DZ003

■ セカンドシート中央席シートベルトを格納するときは（8人乗り車）

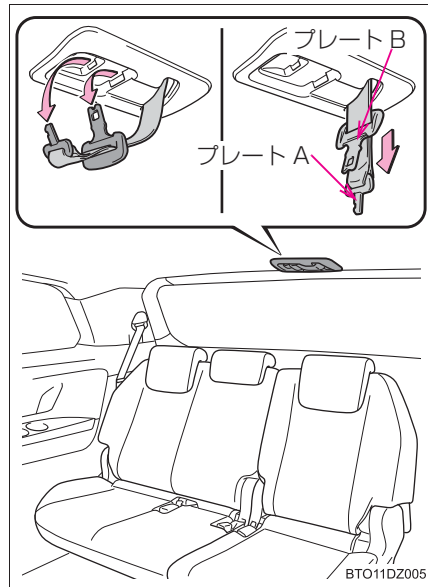
図のようにバックルを格納する



BTO11DZ049

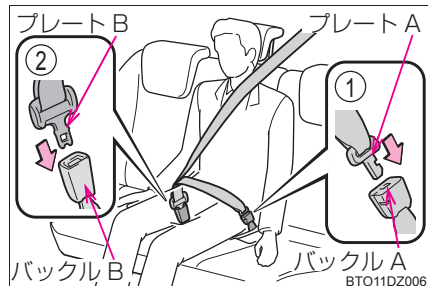
分離格納式シートベルトの着け方（サードシート中央席）

1 プレートを取り出す



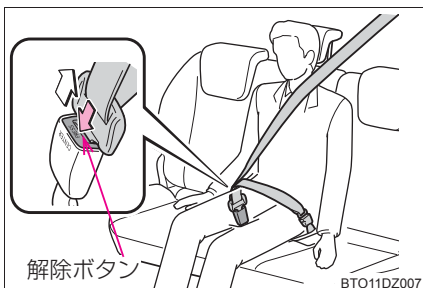
2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

- ① プレート A、バックル A
- ② プレート B、バックル B



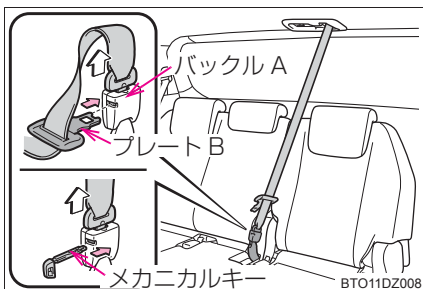
分離格納式シートベルトのはずし方・格納のしかた (サードシート中央席)

- 1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



- 2 バックル A に、プレート B やメカニカルキー (→P. 72) を挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

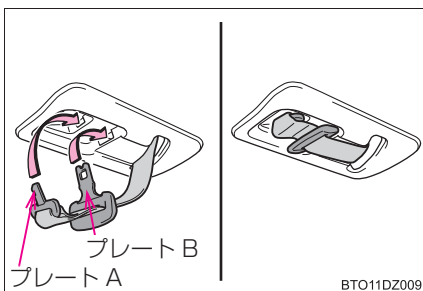


- 3 プレート A、B をホルダーに格納する

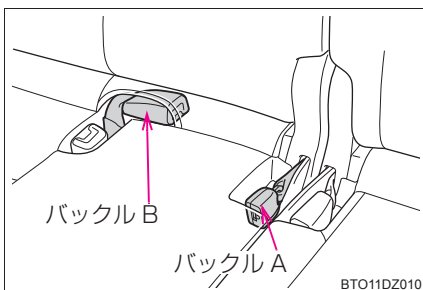
ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

- ・ もともにもどすときは、それぞれのホルダーにプレートを挿し込みます。

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。



- 4 中央席シートベルトのバックル A、バックル B をポケットに格納する



シートベルトの高さ調節（フロント席）

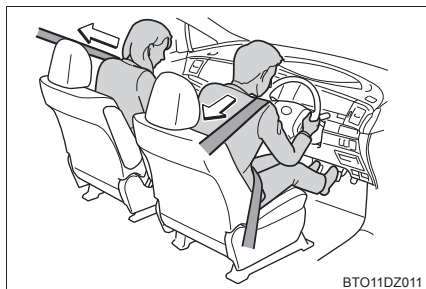
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



ブリクラッシュシートベルト （ブリクラッシュシートベルト装着車のフロント席）

衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取ります。（→P. 219）

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P. 41）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

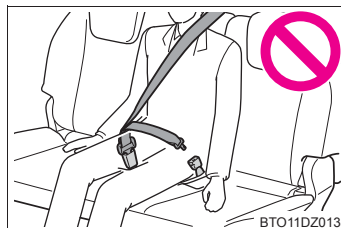
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する

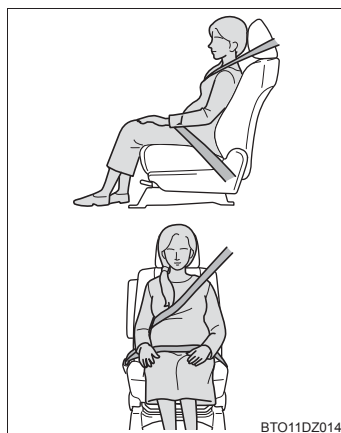


■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 26）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席）

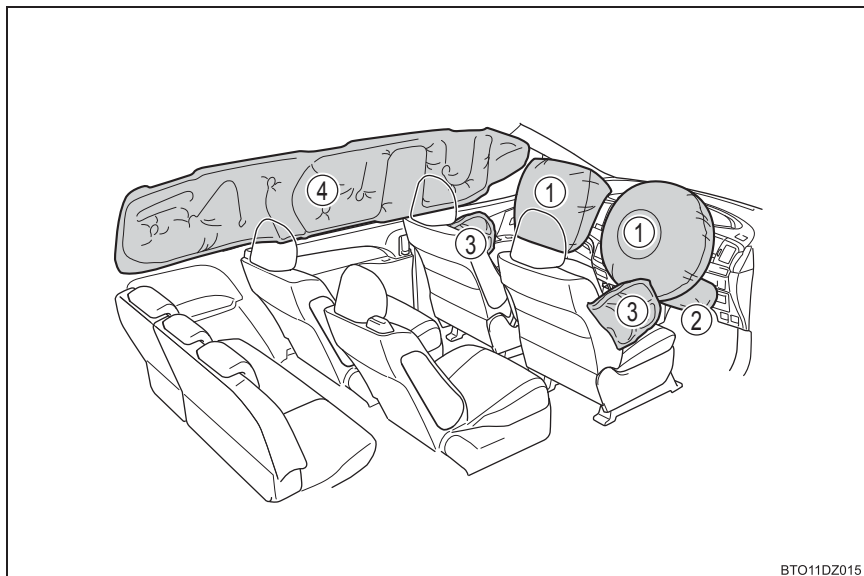
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ★
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ★
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ★
(フロント席とセカンドシート、サードシート外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

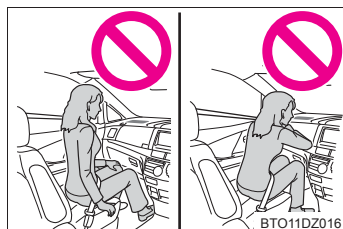
警告

■ SRS エアバッグについて

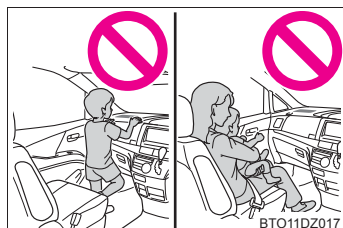
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子様が小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 41)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

■SRS エアバッグについて

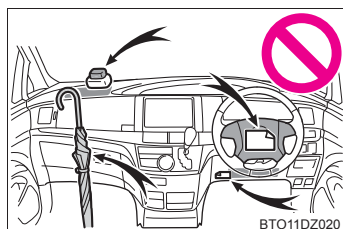
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



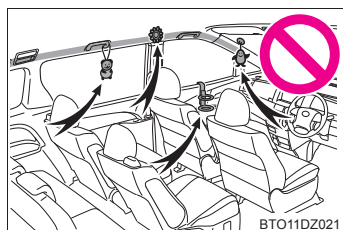
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部（SRS ニーエアバッグ装着車）・グローブボックスのドアなどには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P. 374）



警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS ニーエアバッグ装着車：SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★）

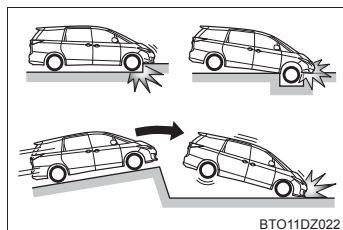
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

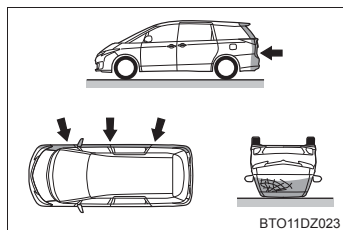
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

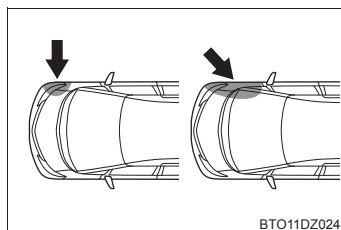
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★)

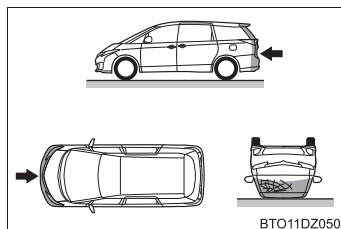
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



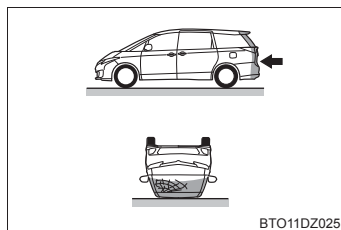
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転

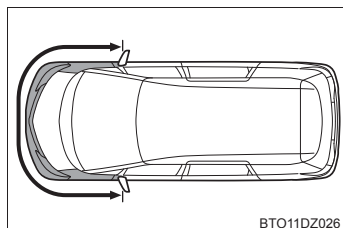


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

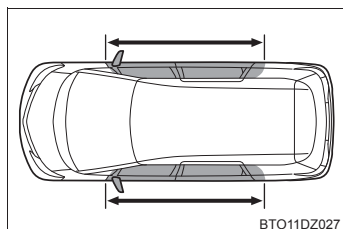
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

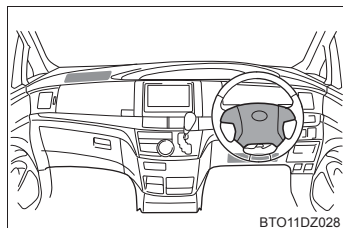
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



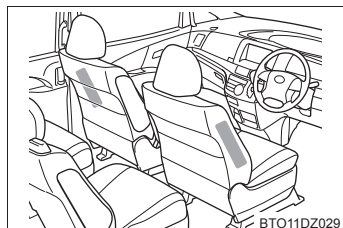
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



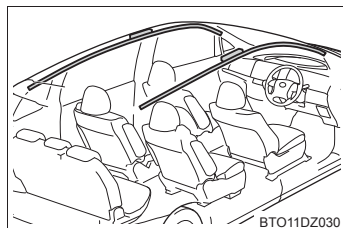
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部（SRS ニーエアバッグ装着車）が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P. 41)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウ・リヤサンシェード★を誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P. 83)・ウインドウロックスイッチ(→P. 143)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万が一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→P. 49)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0: 10kg まで

グループ0⁺: 13kg まで

グループI: 9 ~ 18kg

グループII: 15 ~ 25kg

グループIII: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

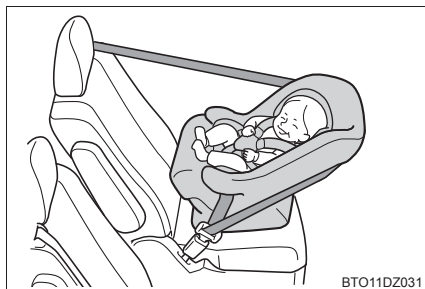
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、Iに相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、IIIに相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (シートベルトでの取り付け)

質量グループ	着席位置（または他の位置）					
	フロントシート	セカンドシート			サードシート	
		7人乗り	8人乗り			
	助手席	左右席	左右席	中央席	左右席	中央席
Ⅰ (10kg まで)	×	U※4	U※4	U※4	U※5	×
Ⅰ ⁺ (13kg まで)	×	U※4	U※4	U※4	U※5	×
Ⅱ (9～18kg)	前向き UF※1、2	U※2、4	U※2、4	U※2、4	U※2、5	×
	うしろ向き ×					×
Ⅲ (15～25kg)	UF※1、3	U※3、4	U※3、4	U※3、4	U※3、5	×
Ⅳ (22～36kg)	UF※1、3	U※3、4	U※3、4	U※3、4	U※3、5	×

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

- ※1 フロントシートの背もたれを直立状態にする。
フロントシートをいちばんうしろに下げる。
- ※2 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストを最上段へ上げる。
- ※3 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。
- ※4 セカンドシートの背もたれを直立状態にする。
セカンドシートをいちばんうしろに下げる。
- ※5 サードシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するとところまで背もたれを起こす。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート 左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL ※
0 + (13kg まで)	E	ISO/R1	IL ※
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※
	A	ISO/F3	IUF ※
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り付けについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす。
セカンドシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒す。倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こす。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ 等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
0 ⁺ (13kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 43) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 44)を確認して、適切なシートを選択してください。

① お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

② サイズ等級を選択する

手順①で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

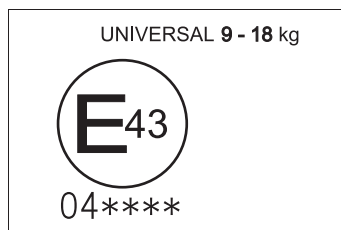
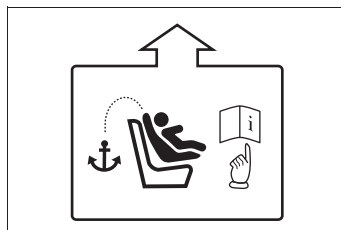
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③ トップテザー（→P. 49）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

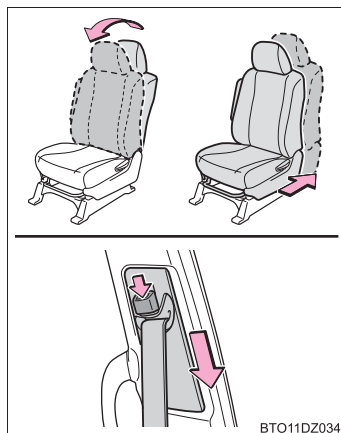
■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、サードシートに取り付けてください。

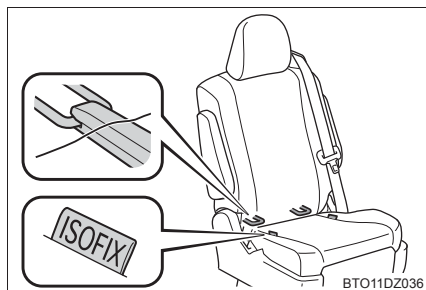
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→P. 50)



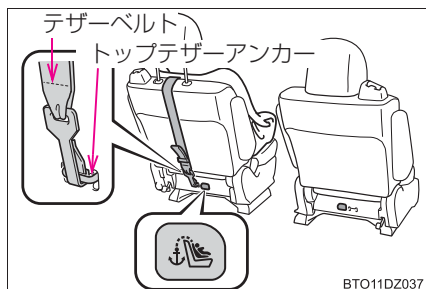
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→P. 51)

セカンドシート左右席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→P. 52)

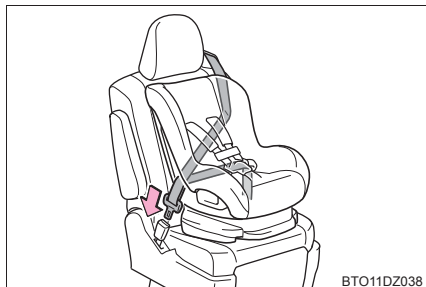
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート左右席に装備されています。



シートベルトで固定する

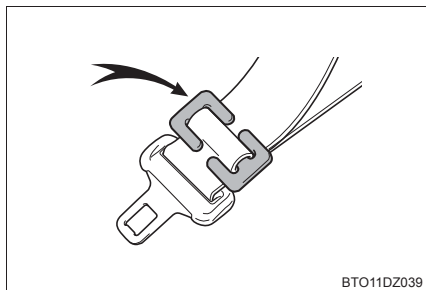
- 1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

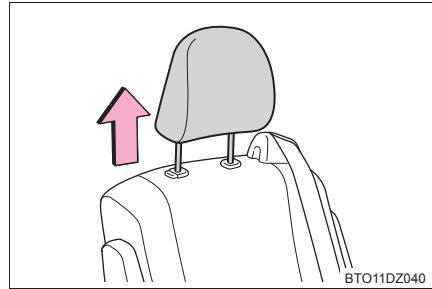
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



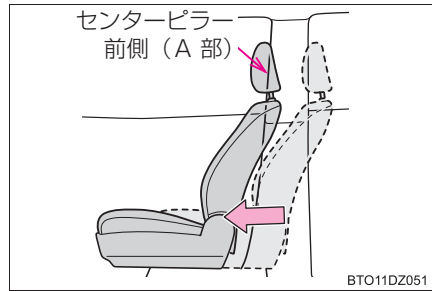
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストを上げる

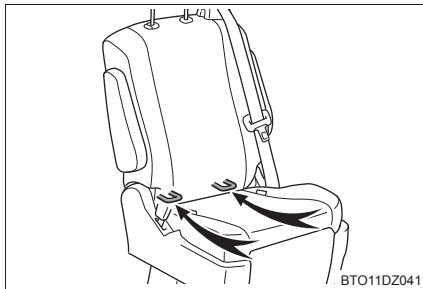


2 フロントシートのヘッドレスト前側がセンターピラー前側（A部）より前になるようにシートの前後位置・リクライニング調整をする（→P. 106）

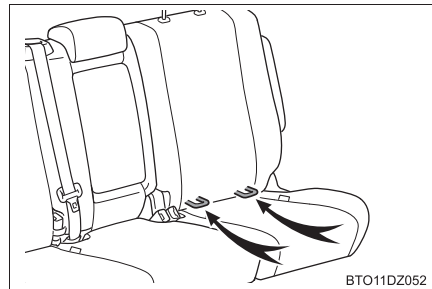


3 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する 固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

▶ 7 人乗り車



▶ 8 人乗り車

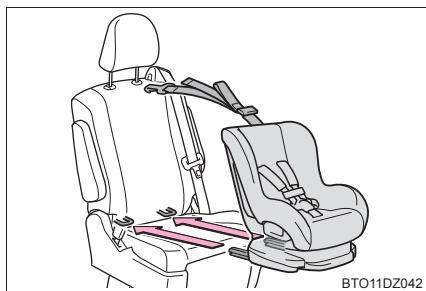


4 子供専用シートが取り付けやすいように、シートの背もたれの角度を調整する（→P. 108）

5 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

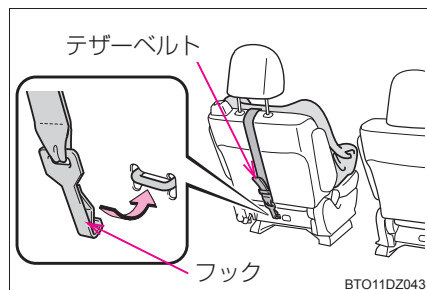
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



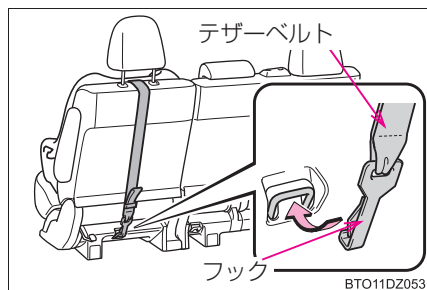
6 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

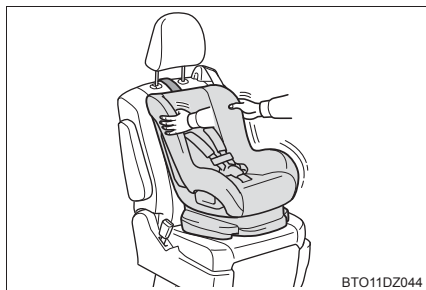
▶ 7人乗り車



▶ 8人乗り車



7 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



 警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシート、サードシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

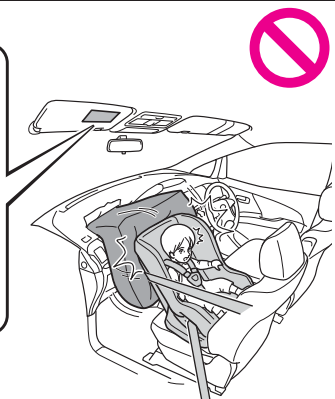
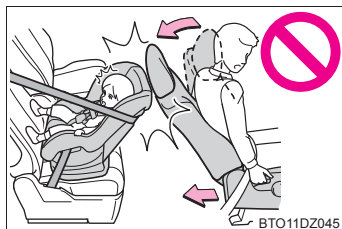
■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

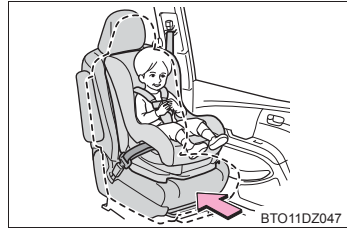


- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

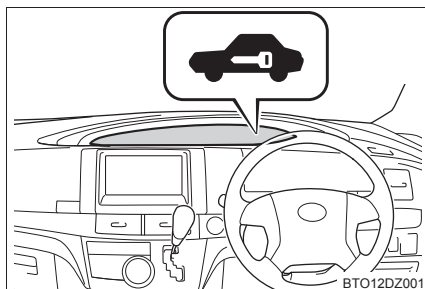
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム★

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

ナビゲーションシステム装着車で、G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、オートアラームが作動した場合、E メールや電話でお知らせすることができます。

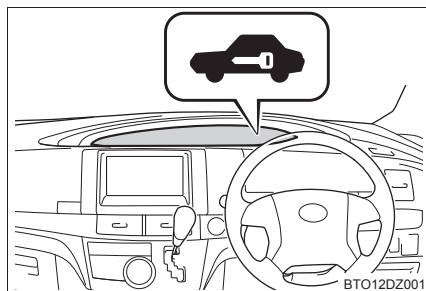
詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書 /G-Security」をご覧ください。

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネット・バックドアを閉め、すべてのドアを施錠※します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとメーター内のセキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわります。



※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとフロントムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

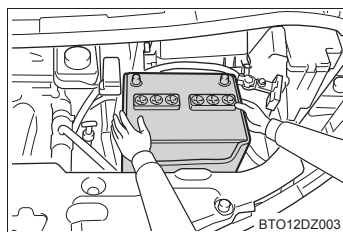
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき
- 車内に残った人が、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき (→P. 386)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーション ディスプレイ	68

警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→P. 355)



燃料残量警告灯
(→P. 356)



エンジン警告灯
(→P. 355)



マスターウォーニング★
(→P. 356)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯
(→P. 355)



スリップ表示灯
(→P. 356)
(点灯したまま)



ABS & ブレーキアシスト警
告灯 (→P. 355)



運転席シートベルト
非着用警告灯 (→P. 357)



パワーステアリング警告灯
(→P. 355)



助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P. 357)



(点灯し
たまま)

PCS 警告灯★ (→P. 356)



4WD 警告灯★ (→P. 357)



充電警告灯 (→P. 356)



ディスチャージ
ヘッドランプ
オートレベリング警告灯★
(→P. 357)



油圧警告灯 (→P. 356)



スマートエントリー&
スタートシステム
警告灯 (→P. 357)



半ドア警告灯 (→P. 356)

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 インストルメントパネル内に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 169)



※ 1
VSC OFF 表示灯
(→P. 216)



尾灯表示灯 (→P. 171)



※ 1
エコドライブインジケーターランプ (→P. 65)



ハイビーム表示灯
(→P. 172)



セキュリティ表示灯
(→P. 57, 58)



フロントフォグラмп表示灯 (→P. 176)



※ 1
AFS OFF 表示灯★
(→P. 174)



クルーズコントロール表示灯 (→P. 186, 190)



LKA 表示灯★
(→P. 201)



7速スポーツ
シーケンシャルシフト
マチック表示灯★
(→P. 166)



※ 2
4WD オートモード
作動表示灯★ (→P. 185)



シーケンシャル
シフトマチック表示灯★
(→P. 166)



※ 1
TRC OFF 表示灯★
(→P. 215)



※ 1
スリップ表示灯
(→P. 215)
(点滅)



※ 1
PCS 警告灯★ (→P. 219)
(点滅)

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 FF モードのときは、作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。4WD モードのときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯します。点灯しない場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

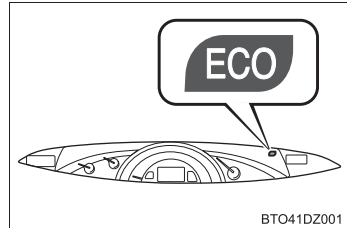
■ エコドライブインジケーターランプについて

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- シフトポジションが D 以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき



■ カスタマイズ機能

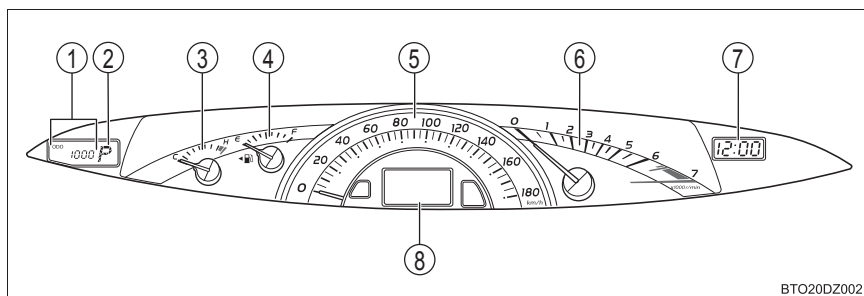
エコドライブインジケーターランプの設定を変更できます。(→P. 404)

 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



BTO20DZ002

① オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けことができます。

② シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたは、シフトレンジを表示します。(→P. 164)

③ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑥ タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

⑦ 時計

時刻を表示します。(→P. 260)

⑧ マルチインフォメーションディスプレイ★

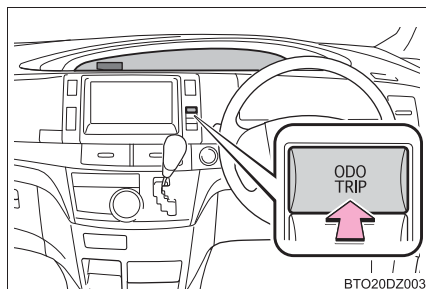
走行に関するさまざまな情報を表示します。(→P. 68)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示の切りかえ

ODO TRIP スイッチを押すごとに
オドメーター／トリップメーター
の表示が ODO → TRIP A → TRIP
B の順に切りかわります。

また、トリップメーター表示中に押
し続けると、走行距離を 0 にもどし
ます。

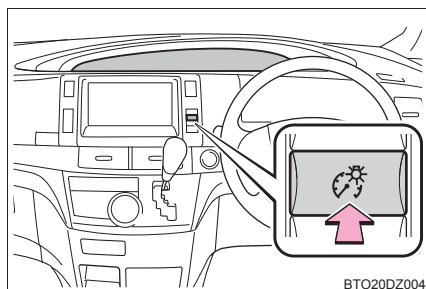


メーター照度調整★

メーター照度スイッチを押すごと
にメーター照度が調整できます。

5段階で調整できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明る
さレベルを調整することができます。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 388）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ★

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関するさまざまな情報を表示します。

◆ クルーズインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。

◆ レーダークルーズコントロール表示★

レーダークルーズコントロール使用時、システムの作動状況を表示します。
(→P. 190)

◆ LKA（レーンキーピングアシスト）表示★

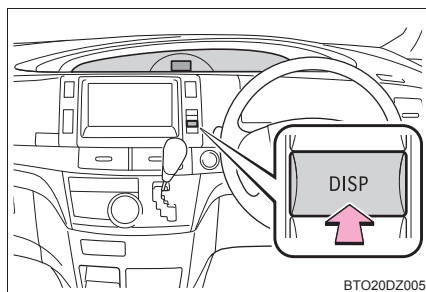
LKA（レーンキーピングアシスト）使用時、システムの作動状況を表示します。
(→P. 201)

◆ 警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→P. 360)

クルーズインフォメーション

DISP スイッチを押すごとに表示が次のように切りかわります。



■ 航続可能距離

現在の燃料残量による走行可能な距離（参考値）を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 平均燃費

リセットしてからのエンジン回転中の平均燃費を、約 10 秒ごとに更新して表示します。

- 現時点からの数値を計測したい場合（リセットしたい場合）は、DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費

エンジンを始動して、走行を開始してから約 0.5 秒間ごとの瞬間燃費をバーグラフで表示します。

■ 平均車速

リセットしてからのエンジン回転中の平均車速を、約 10 秒ごとに更新して表示します。

- 現時点からの数値を計測したい場合（リセットしたい場合）は、DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けます。

■ 非表示

マルチインフォメーションディスプレイを非表示にします。

知識

■ 航続可能距離について

- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに算出しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 燃料計が異常検出したときは、しばらく表示が「km」になることがあります。

■ 瞬間燃費について

次の場合、バーグラフが表示されません。

- エンジンが回転中でないとき
- 燃費の計測ができなかったとき
- 車両が停車しているとき

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、航続可能距離がリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 警告**■ ディスプレイを操作するときは**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 航続可能距離について**

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が E に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。

■ ディスプレイを操作するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作**3**

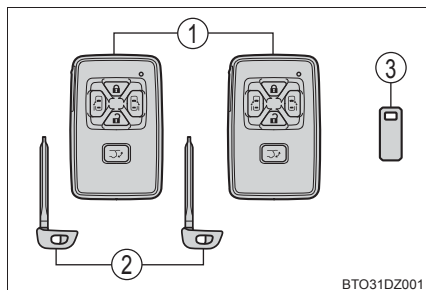
3-1. キー	
キー	72
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
フロントドア	75
スライドドア	80
バックドア	91
スマートエントリー& スタートシステム	101
3-3. シートの調整	
フロントシート	106
セカンドシート	108
サードシート	113
ヘッドレスト	126
シートアレンジ	130
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	136
インナーミラー	138
ドアミラー	139
補助確認装置	142
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開閉	
パワーウインドウ	143
大型ムーンルーフ	146

キー

キーについて

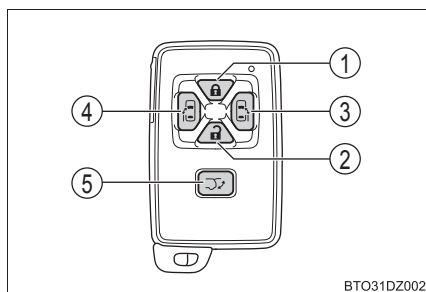
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 101)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

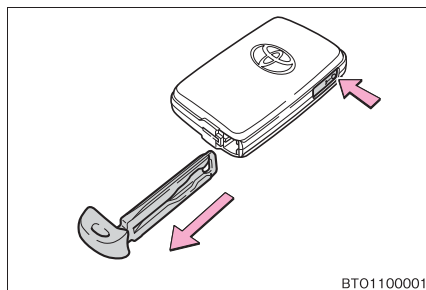
- ① ドアの施錠 (→P. 75)
- ② ドアの解錠 (→P. 75)
- ③ 運転席側パワースライドドアの開閉★ (→P. 81)
- ④ 助手席側パワースライドドアの開閉 (→P. 81)
- ⑤ パワーバックドア★を開閉する (→P. 91)



メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 382)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 102, 366）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P. 314

■ 不正キーの使用について（オートアラーム装着車）

指定のキー以外を使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは約 10cm 以上離して携帯してください。約 10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

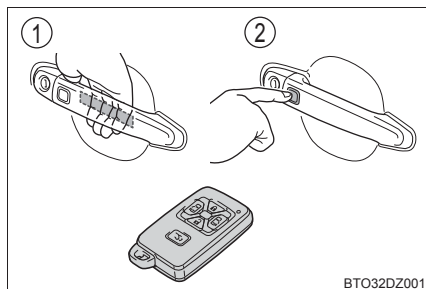
電子キーを携帯して操作します。

- ① ハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

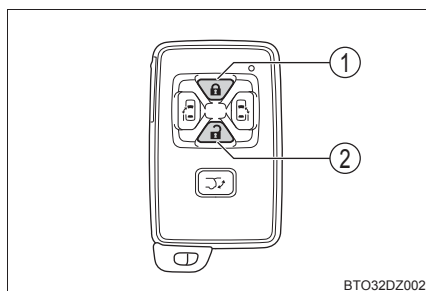
- ② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



◆ キー

→P. 382

 知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラーム★の設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 58)

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

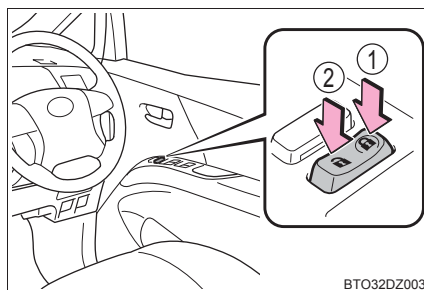
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 382)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P. 314)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

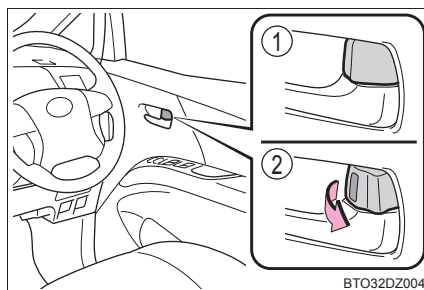


BTO32DZ003

◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



BTO32DZ004

キーを使わずに外側からフロント席を施錠

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーを P から P 以外に動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、シフトレバーを P 以外から P に入れると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車

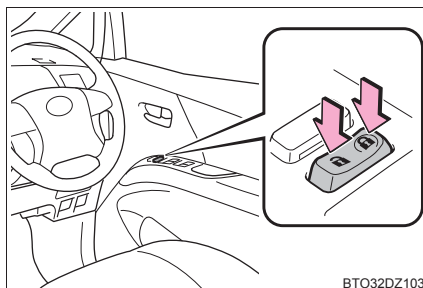
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 10 秒以内に2を行う）

- 2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押し続けて離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック※	P	
シフト操作連動アンロック		
車速感応オートドアロック	P 以外	

※ シフト操作連動ドアロックは、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。（→P. 402）

 知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 382)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P. 103

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー & スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P. 402)

 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 75

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 75

車内からの解錠・施錠

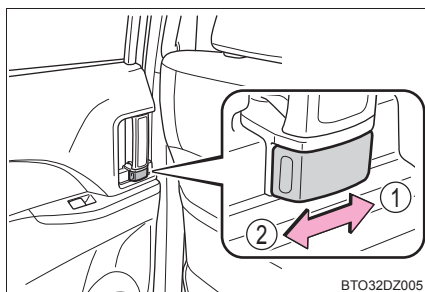
◆ ドアロックスイッチ

→P. 77

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠

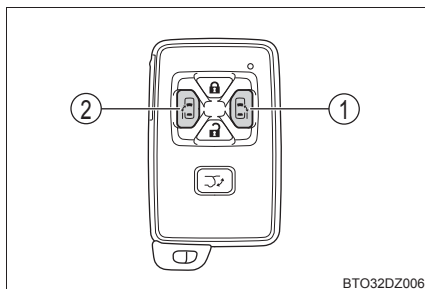


車外からスライドドアを開閉する

◆ ワイヤレスリモコン

- ① 運転席側パワースライドドアを開閉する（長押し）※★
- ② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）※

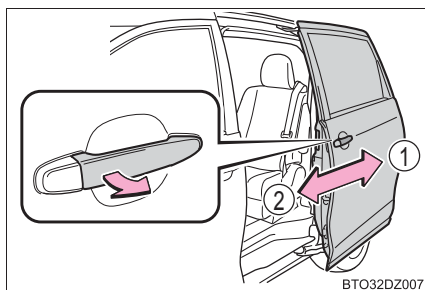
※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→P. 403）



◆ スライドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる

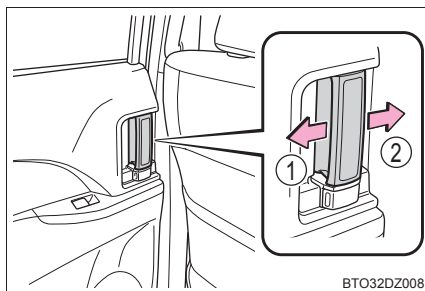
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。



車内からスライドドアを開閉する

◆ インサイドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

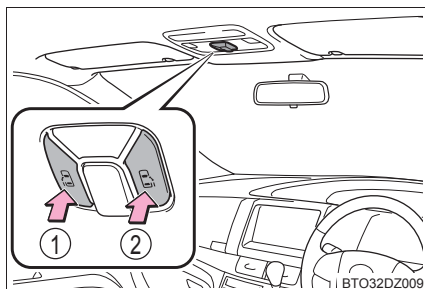
◆ パワースライドドアスイッチ（両側パワースライドドア装着車）

① 助手席側（約 1 秒長押し）

② 運転席側（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、
反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転
作動に切りかわりません。

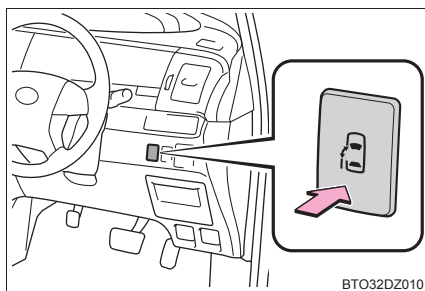


◆ パワースライドドアスイッチ（助手席側パワースライドドア装着車）

スイッチを押す（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、
反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転
作動に切りかわりません。



パワースライドドアを使用するときは

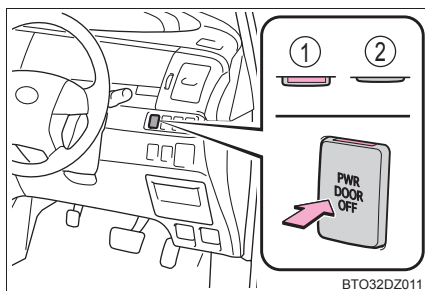
パワースライドドアメインスイッチを ON にする

OFF にするとパワーバックドア★も使用できなくなります。

① ON

② OFF

ON にすると、スイッチ上部にオレン
ジ色のマークが表れます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

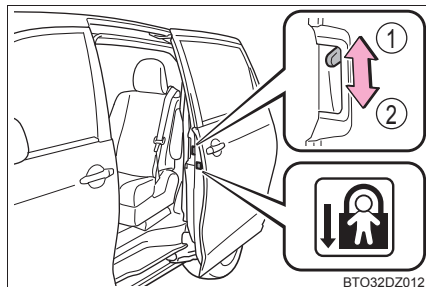
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。
両側のスライドドアを施錠側にしてください。



知識

■ 作動の合図（パワースライドドア）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 中間ストッパー（パワースライドドアメインスイッチ OFF 時）

- スライドドアのドアガラスが大きく開いていたり、給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
- 中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、ドアガラスおよび給油扉を閉じ再度スライドドアを開けてください。

■ イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■ パワースライドドアの作動可能条件（パワースライドドア）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている
- 給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

作動可能条件を満たしていないとき（給油扉が開いているときを除く）に、手動でスライドドアを閉める（開ける）と約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制します。

■ パワースライドドアの作動について（パワースライドドア）

- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。
- 連続して 2 回以上異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。
- バッテリーの電圧が低下しているときは、パワースライドドアが作動しない場合があります。
- パワースライドドアが作動中に次の操作が 3 回行われると、ブザーが鳴り、作動を停止（約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけドアの速度を抑制）し、手動操作に切り替わります。
 - ・ 車内のパワースライドドアスイッチを押した
 - ・ ワイヤレスリモコンのパワースライドドアスイッチを押した
 - ・ 車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作した

■給油扉開警告ブザー（パワースライドドア）

- 給油扉が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。
- 助手席側パワースライドドア開閉中に給油扉を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■中間ストッパー（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

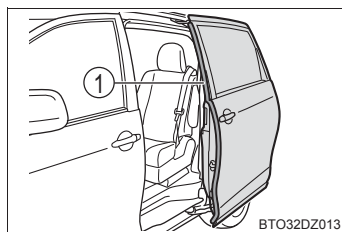
- パワースライドドアのドアガラスが大きく開いているときに、パワースライドドアを自動で開作動させるとパワースライドドアは中間ストッパー位置で停止し、その位置で保持されます。
- 中間ストッパー位置でパワースライドドアが停止しているときに、パワースライドドアスイッチ、スライドドアハンドル、ワイヤレスリモコンのいずれかを操作するとスライドドアは閉作動します。
- 中間ストッパー位置でのパワースライドドア停止後は、約 30 分間スライドドアを保持します。その後、約 8 秒間で徐々にその保持を解除し、下り坂などでドアが急に動き出すのを防ぎます。

■バッテリーを再接続したときは（パワースライドドア）

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定として車外のスライドドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。スライドドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からスライドドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



■サイドリフトアップシート装着車について（パワースライドドア）

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

■カスタマイズ機能

パワースライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 403)

 警告**■走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドア：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)

■スライドドアの操作にあたって

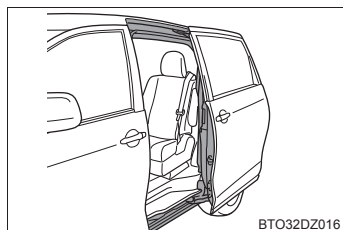
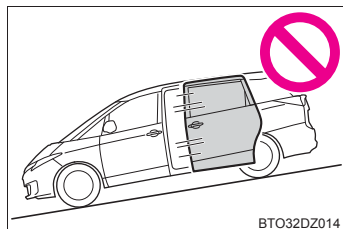
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

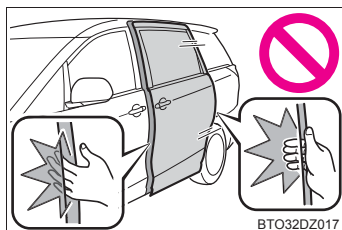
警告**■スライドドアの操作にあたって**

- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアが給油扉ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



！警告**■ イージークローザーについて**

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→P. 83)



- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドアについて（パワースライドドア）

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。
- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

 警告**■ パワースライドドアについて（パワースライドドア）**

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤作動防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドア）

次のことを必ずお守りください。

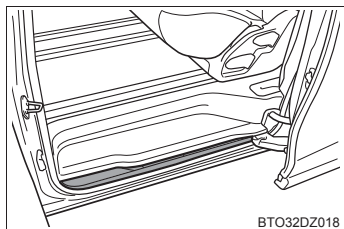
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

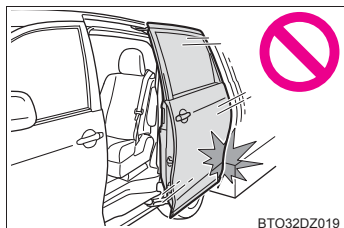
■ スライドドアについて

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



BTO32DZ018

- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



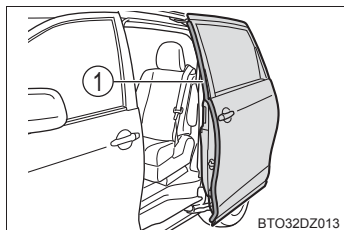
BTO32DZ019

■ イージークローザーについて

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて（パワースライドドア）

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。



BTO32DZ013

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

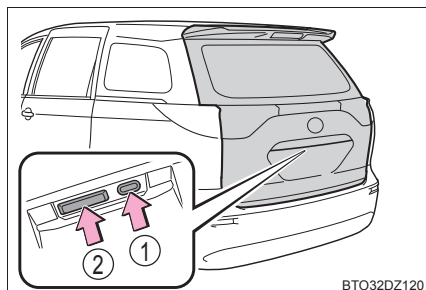
電子キーを携帯して操作します。

① 施錠

必ず施錠されたことを確認してください。

② 解錠

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→P. 75

◆ ドアロックスイッチ

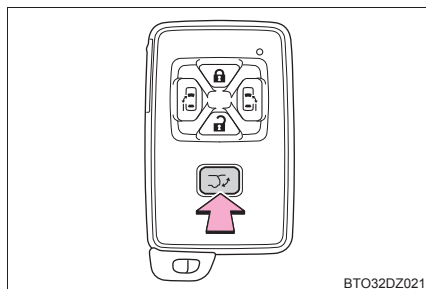
→P. 77

ワイヤレスリモコンでのバックドアの開閉（パワーバックドア装着車）

スイッチを押し続ける※

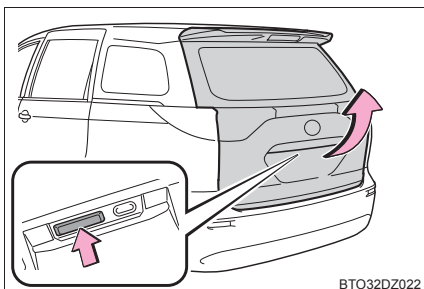
バックドア解錠時に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→P. 403）



車外からバックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



BTO32DZ022

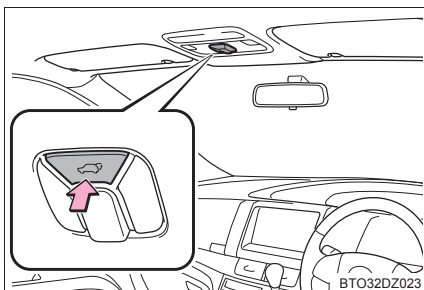
車内からバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。



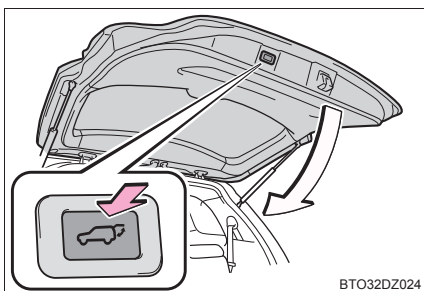
BTO32DZ023

車外からバックドアを閉じるには（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

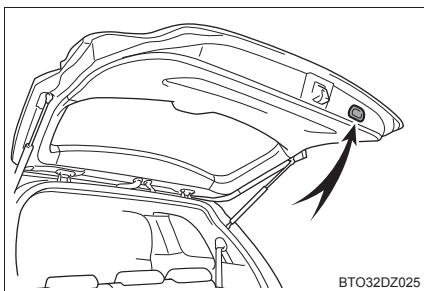
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び自動で開きます。



BTO32DZ024

バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



BTO32DZ025

パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

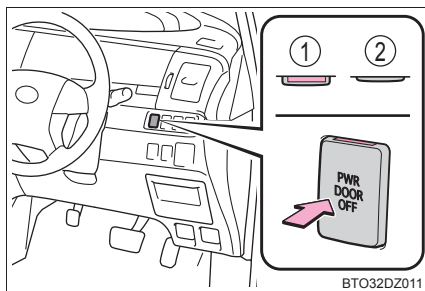
パワーバックドアメインスイッチを ON にする

パワーバックドアメインスイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（→P. 82）と兼用のため、OFF にするとパワースライドドアも使用できなくなります。

① ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

② OFF



BTO32DZ011

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

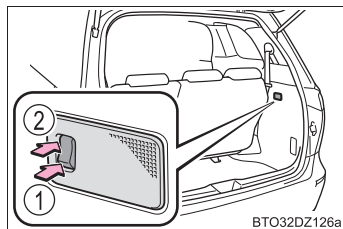
- バックドアが解錠されている
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約5km/h未満で、シフトレバーがPになっている必要があります。

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① ON

② OFF



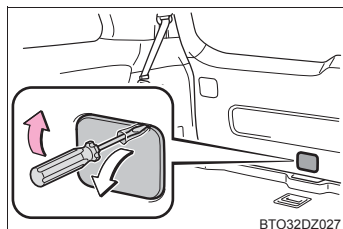
BTO32DZ126a

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

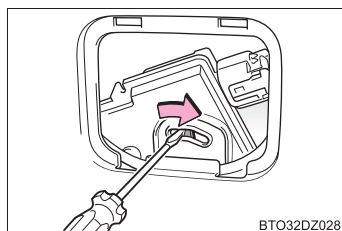


BTO32DZ027

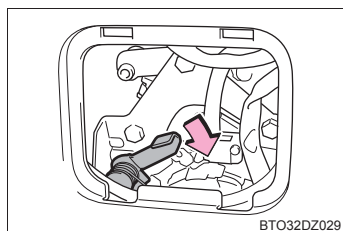
2 レバーを押す

▶ パワーバックドア非装着車

▶ パワーバックドア装着車



BTO32DZ028



BTO32DZ029

■イージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

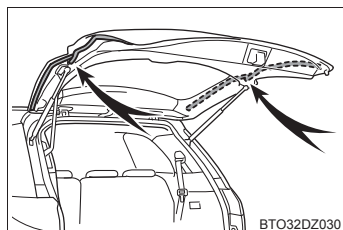
- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワーバックドアメインスイッチがOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動作動に切りかわります。
- パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的に反対方向に動きます。
- 連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■ バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

**■ カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）**

パワーバックドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 403)

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワーバックドア装着車はパワーバックドアメインスイッチを OFF にすることでパワーバックドアは作動しません)

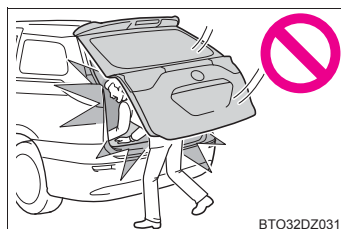
警告**■バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

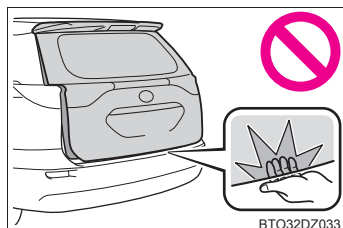


- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■ イージークローザーについて（パワーバックドア装着車）

- バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

⚠ 警告

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。

バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

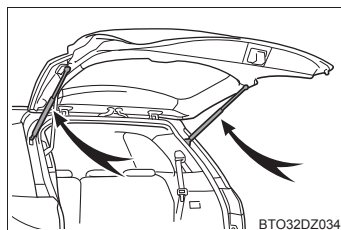
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ イージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。
- バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

 注意**■ パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P. 95）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム

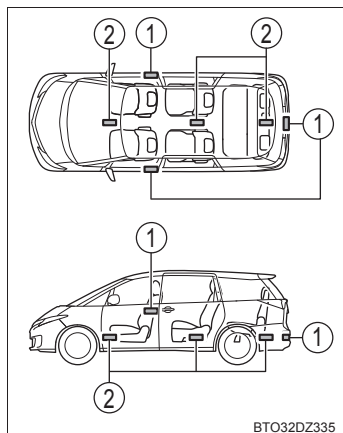
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→P. 75)
- バックドアを施錠・解錠する (→P. 91)
- エンジンを始動する (→P. 159)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 室内アンテナ



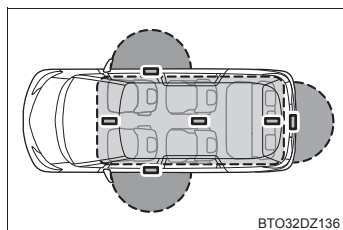
■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

- : ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- : エンジン始動時またはエンジンスイッチのモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイ装着車はマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。(→P. 365)

- 警告灯が点灯した場合（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）
状況に応じて適切に対処してください。(→P. 359)
- マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示された場合
（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 365)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と2秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車外から“ピー”と60秒間鳴る※	エンジンスイッチをOFFにせず、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	エンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー”と1回鳴る※	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換する(→P. 314)
車内から“ピー”と鳴り続ける※	シフトレバーをP以外の状態でエンジンスイッチをOFFにせず運転席のドアを開いた	シフトレバーをPにする
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした(アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

※ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 2週間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で解錠・施錠する（→P. 72）
- メカニカルキーで解錠・施錠する（→P. 382）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 382）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
 - ・金属またはメッキ処理のしたあるキーカバー
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・バックドアを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・エンジン始動時やエンジンスイッチのモード切り替え時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠しないことがあります。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができ、詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→P. 102, 365）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの解錠・施錠：→P. 382
- エンジンの始動：→P. 382

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 402)

■販売店でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→P. 75, 382)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 382
- エンジンの停止：→P. 159



警告

■電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ(→P. 101)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

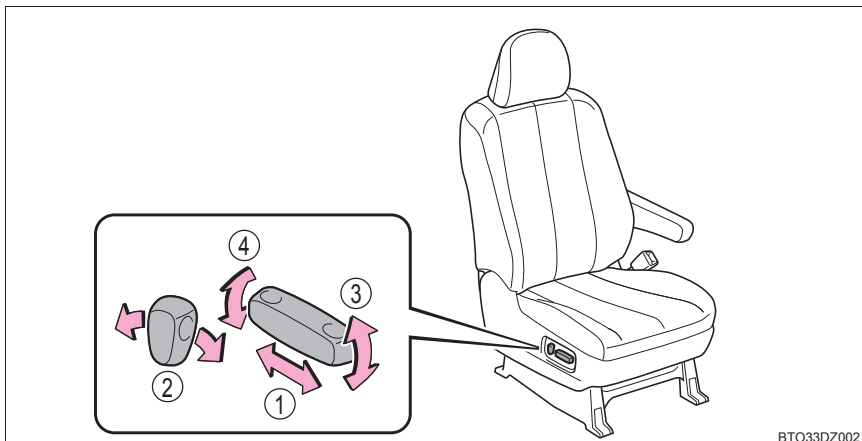
▶ マニュアルシート



BTO33DZ001

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- ④ クッション前端の上下調整
(運転席のみ)

▶ 運転席パワーシート（運転席パワーシート装着車）



BTO33DZ002

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端の上下調整
- ④ シート全体上下調整

 警告**■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。
(マニュアルシート)

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

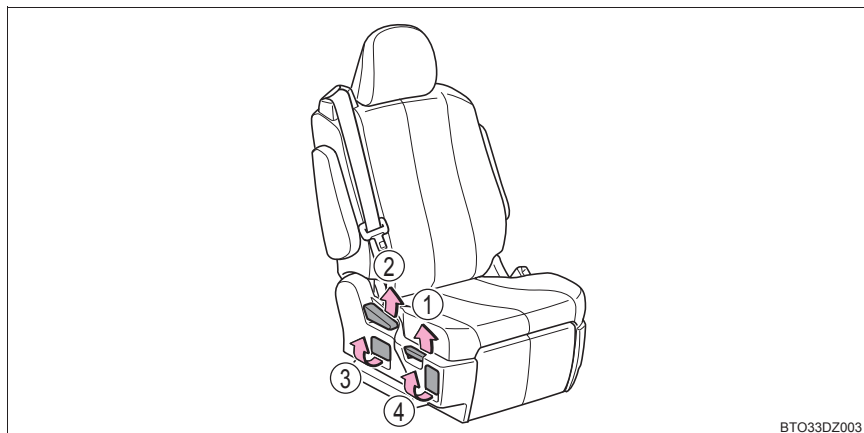
■ 前後位置調整をするとき（7人乗り車）

フロントシートの前後位置調整をするときに、セカンドシートでオットマン（→P. 110）を使用しているときは、セカンドシートの乗員がフロントシートとオットマンの間で足を挟まないよう十分注意してください。

セカンドシート

調整のしかた

▶ 7人乗り車



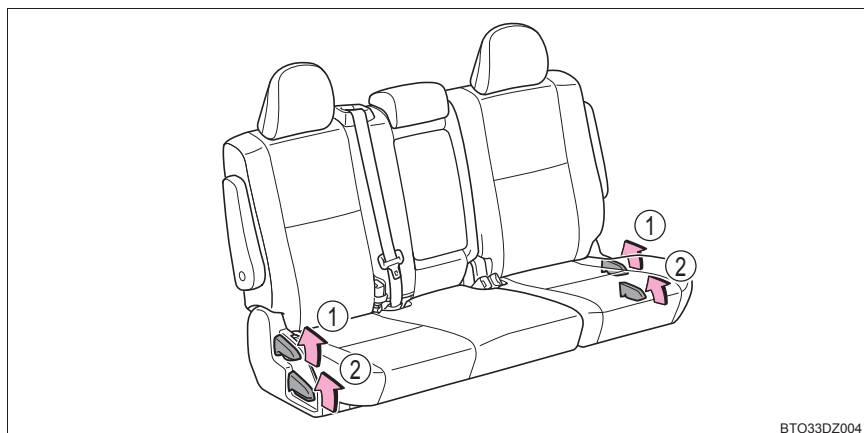
① 前後位置調整

③ 左右位置調整

② リクライニング調整

④ オットマン角度調整・格納

▶ 8人乗り車

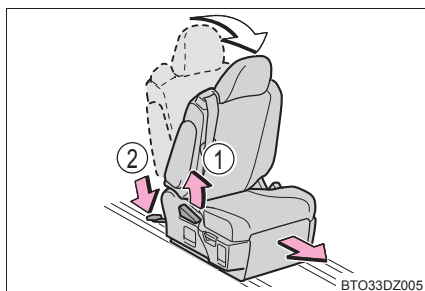


① リクライニング調整

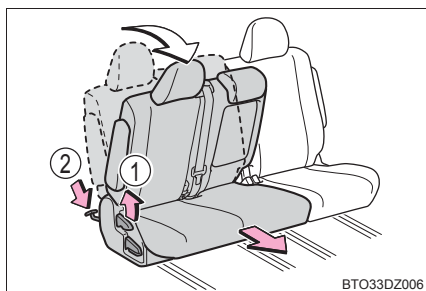
② 前後位置調整

サードシートへの乗り降り

▶ 7人乗り車



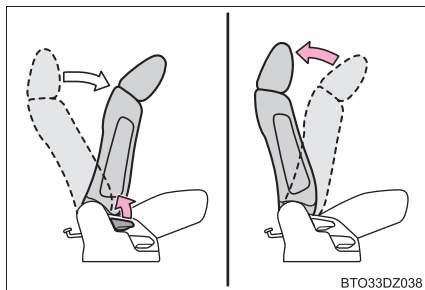
▶ 8人乗り車



リクライニングレバー（①）を引く、または前倒しペダル（②）を踏む
背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

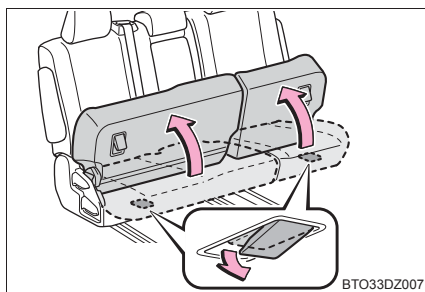
セカンドシートをチップアップするには（8人乗り車）

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 シートベルトのバックルを格納する（→P. 26）
- 3 背もたれを一度前方に倒し、音がするまで少し後方にもどす



- 4 シートクッション下部のチップアップレバーを引いて、クッションを持ち上げる

持ち上げたあと、クッションを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

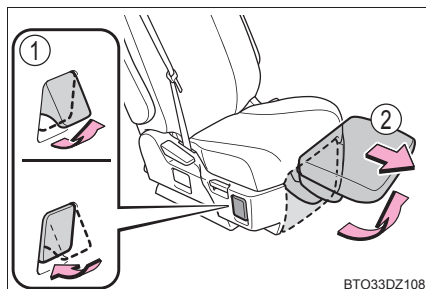


オットマンを使うには（7人乗り車）

■ 取り出したかた

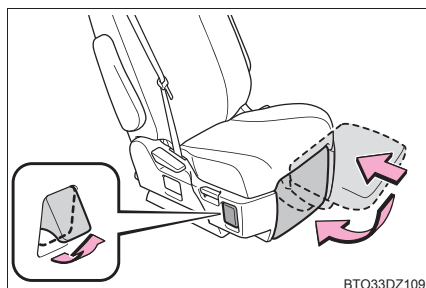
オットマン角度調整・格納レバー（①）を引きながら、角度を調整し、レバーをもどしてオットマンを固定する

必要に応じてオットマンのクッション部（②）を前方にスライドします。



■ 格納のしかた

オットマンのクッション部をもどしてから、オットマン角度調整・格納レバーを引きながらオットマンを格納する



知識

■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートには、オットマンは装着されません。

警告

■ シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

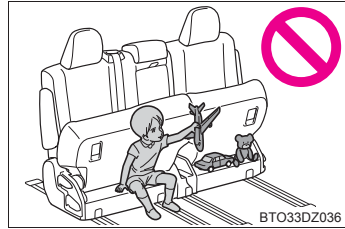
■ サードシートへの乗り降りについて

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

警告

■ セカンドシートをチップアップしたときは（8人乗り車）

セカンドシートをチップアップさせているときに、シートベース部に座ったり、ものを置いたりしないでください。シートクッションとシートベース部の間に挟まれるおそれがあります。



■ 前後調整やオットマンの操作をするときは（7人乗り車）

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ オットマンの使用について（7人乗り車）

- 走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

 注意**■ 背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。
(→P. 26)

■ 左右位置調整をするときは（7人乗り車）

必ず右側いっぱいか、左側いっぱいまでスライドさせてください。中間位置では左右位置を固定することはできません。

■ サードシートへの乗り降りについて（8人乗り車）

シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

■ オットマンの故障を防ぐために（7人乗り車）

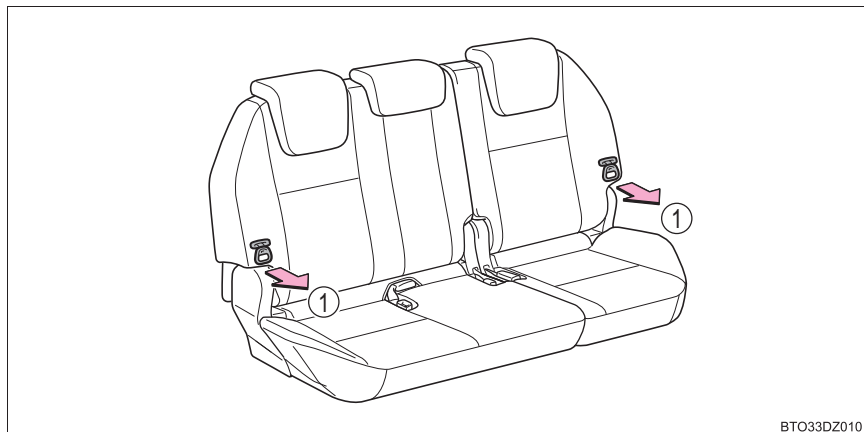
- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- オットマンを格納するときは、オットマンのクッション部をいちばんうしろに戻してから格納してください。いちばんうしろに戻さずに格納すると、オットマンが床面にあたりオットマンが損傷するおそれがあります。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

サードシート

リクライニング調整・背もたれの前倒し／格納のしかた

■ リクライニング調整

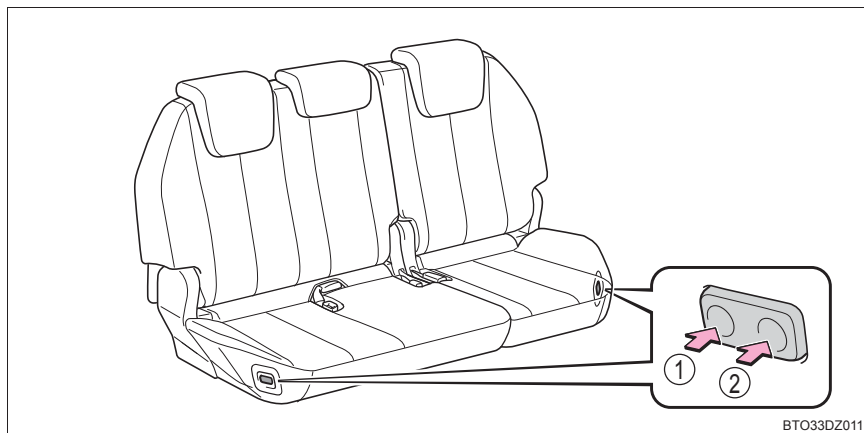
▶ 手動格納式



BTO33DZ010

① リクライニングレバー

▶ 電動格納式



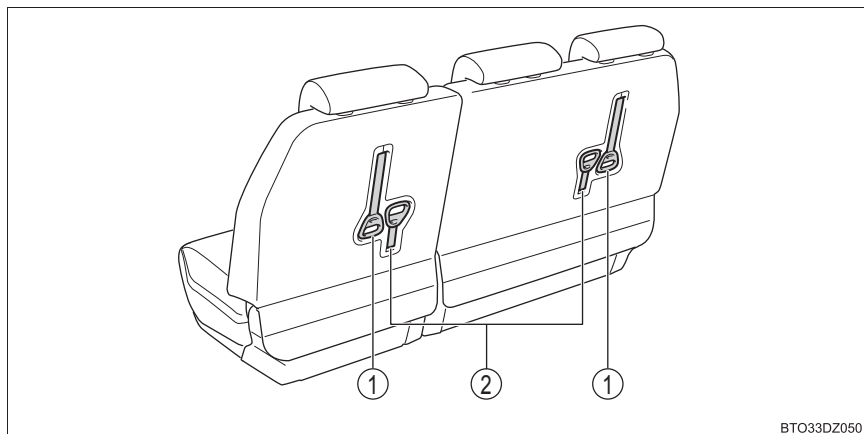
BTO33DZ011

① リクライニングスイッチ（うしろ側へリクライニングする）

② リクライニングスイッチ（前側へリクライニングする）

■ 背もたれの前倒し／格納

▶ 手動格納式

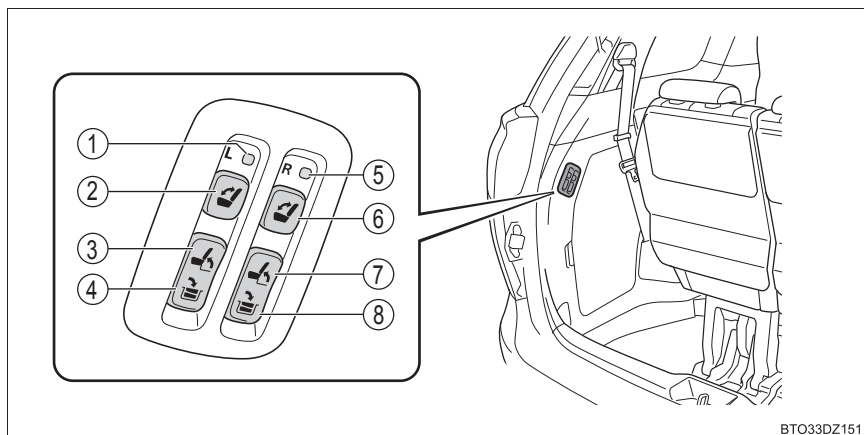


BTO33DZ050

① ハンドル A

② ハンドル B

▶ 電動格納式



BTO33DZ151

① 作動表示灯（助手席側）

⑤ 作動表示灯（運転席側）

② テーブルスイッチ（助手席側）

⑥ テーブルスイッチ（運転席側）

③ 着座スイッチ（助手席側）

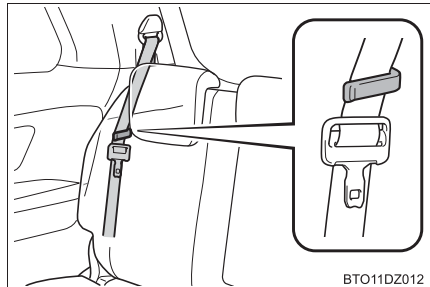
⑦ 着座スイッチ（運転席側）

④ 格納スイッチ（助手席側）

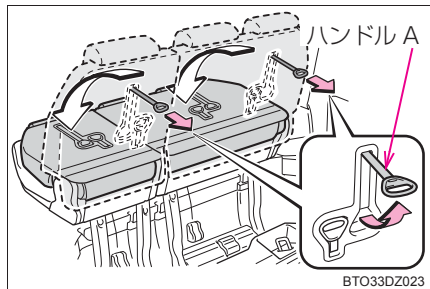
⑧ 格納スイッチ（運転席側）

サードシートをテーブル状態にするには (手動格納式サードシート装着車)

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 バックドアを開ける (→P. 91)
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。
- 3 デッキフックを格納する (→P. 255)
- 4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P. 127)
- 5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む

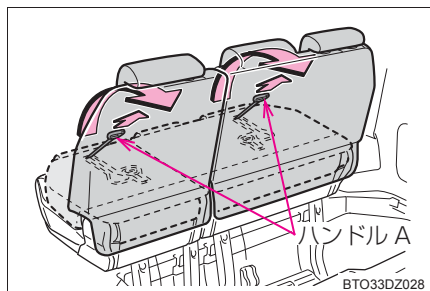


- 6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→P. 28)
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。
- 7 セカンドシートを前方へ移動する (→P. 108)
- 8 ハンドル A を引きながら、背もたれを前倒しさせ、ロックさせる



■ もとに戻すときは

背もたれに手をそえて、ハンドル A を引きながら、背もたれを起こしロックさせる

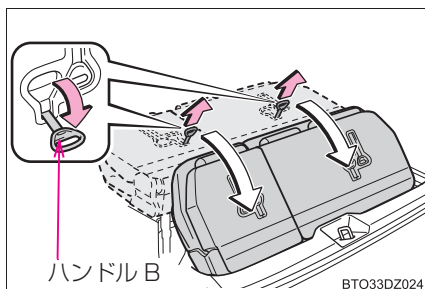


サードシートを格納するには（手動格納式サードシート装着車）

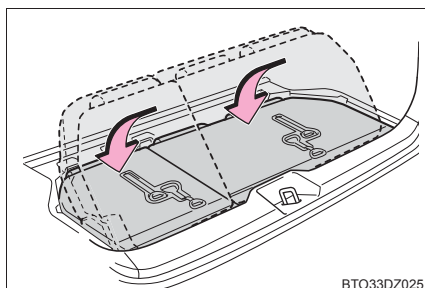
- 1 サードシートをテーブル状態にする（→P. 115）
- 2 デッキボード装着車は、デッキボードをはずす（→P. 257）

- 3 ハンドル B を引きながら、シート全体を後方へ引き上げる

シート後端がシート格納部の後端に当るまで引き上げます。



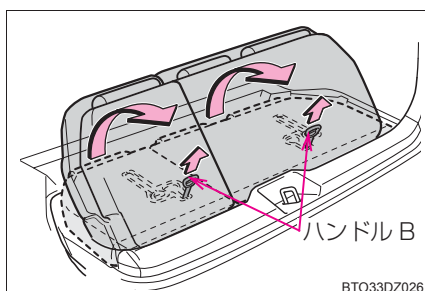
- 4 背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックさせる



■ もとに戻すときは

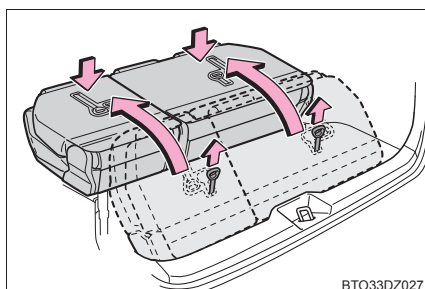
- 1 ハンドル B を引きながら、シート全体を引き上げる

シート後端がシート格納部の後端に当る位置でいったん止まります。

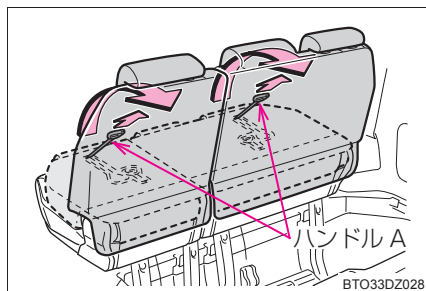


- 2 シート全体を前方に押し出し、背もたれに手をそえて、シート全体を押し下げてロックさせる

シート全体を押し下げてロックさせるときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してから押し下げてください。



- 3 背もたれに手をそえて、ハンドル A を引きながら、背もたれを起こしロックさせる

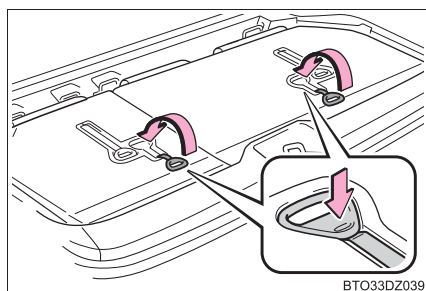


- 4 デッキボード装着車は、デッキボードを取り付ける

■ 背もたれうしろ側のハンドルを使ったあとは

それぞれもとの位置に戻す

“カチッ” と音がするまでハンドルを押し、固定します。



**サードシートをテーブル状態にするには
(電動格納式サードシート装着車)**

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

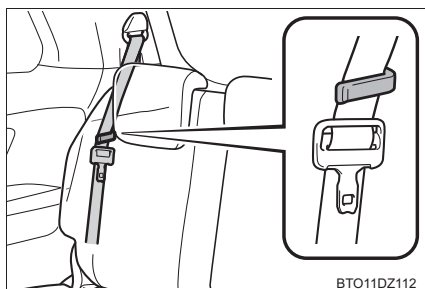
2 バックドアを開ける (→P. 91)

シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。

3 デッキフックを格納する (→P. 255)

4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P. 127)

5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む



6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→P. 28)

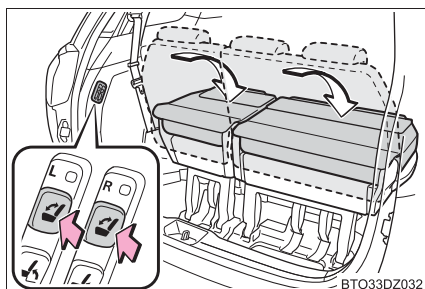
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。

7 セカンドシートを前方へ移動する (→P. 108)

8 サードシートのクッションが固定されていることを確認する

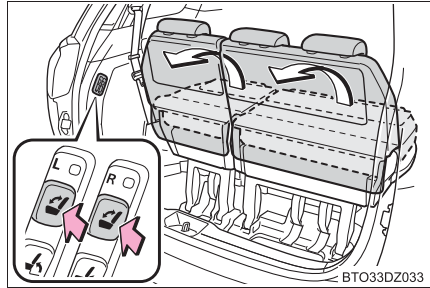
シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

9 テーブルスイッチを押す



■ もとに戻すときは

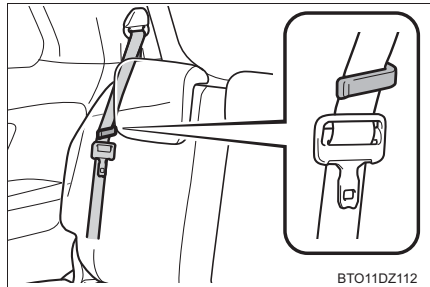
- 1 サードシートのクッションが固定されていることを確認する
シート全体を軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。
- 2 テーブルスイッチまたは、リクライニングスイッチ (→P. 113) を押す



BTO33DZ033

サードシートを格納するには (電動格納式サードシート装着車)

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 バックドアを開ける (→P. 91)
シートの操作は必ずバックドアを開け、車両後方から行ってください。
- 3 デッキフックを格納する (→P. 255)
- 4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P. 127)
- 5 サードシート左右席シートベルトをベルトハンガーに挟む

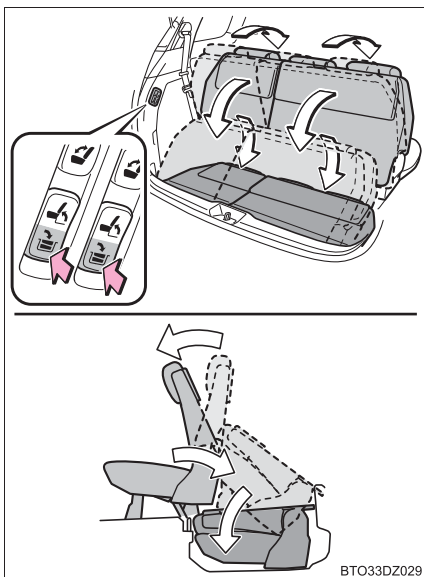
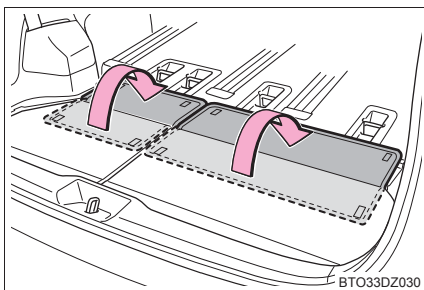


BTO11DZ112

- 6 中央席シートベルト、バックルを収納する (→P. 28)
分離格納式中央席シートベルトは、シートベルトをシートからはずして天井へ収納します。
- 7 セカンドシートを前方へ移動する (→P. 108)

8 格納スイッチを押し続ける

- ・ 作動開始時、ブザーが 2 回鳴り、背もたれが倒れ、シート全体が後方へ格納されます。
- ・ 作動終了時、再度ブザーが 2 回鳴ります。

**9** 背もたれにあるカバーを起こす

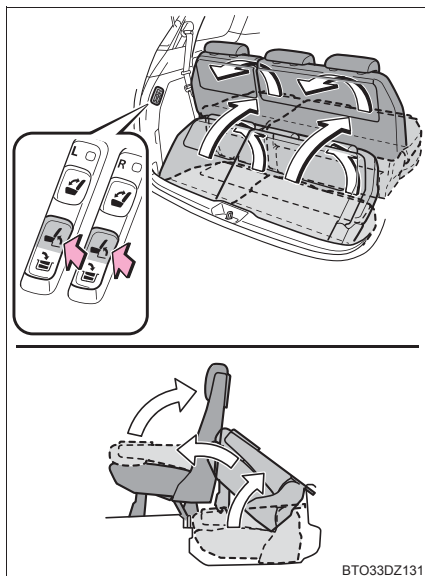
■ もとに戻すときは

着座スイッチを押し続ける

作動開始時、ブザーが2回鳴り、シート全体が前方にもどります。

シート全体が前方にもどり床面に固定されると、再度ブザーが2回鳴り、背もたれが後方にもどりはじめます。

- ・ エンジンスイッチをOFFにしていない、またはシフトレバーをPの位置にしていないときは、スイッチを押しているあいだ作動表示灯が点滅し、作動できないことをお知らせします。
- ・ 背もたれが後方にもどりはじめてからは、着座スイッチから手を離しても、作動は継続されます。



 知識**■ 作動条件について（電動格納式サードシート装着車）**

エンジンスイッチが OFF、またはシフトレバーが P の位置にあるとき

■ サードシートを格納するときは（手動格納式サードシート装着車）

サードシートをテーブル状態にしたときに、背もたれがしっかりとロックされていない状態で、サードシートの格納手順 [3] のハンドル B を引かないでください。安全機構が働き手順 [3] ができなくなる場合があります。

この場合、いったん背もたれをもとの位置まで起こし、テーブル状態で背もたれがしっかりとロックされていることを確認してください。

■ サードシートの格納をもとに戻すときに、ハンドル A を引きながら、ハンドル B を引かないでください（手動格納式サードシート装着車）

ハンドル B を引いてもシート全体が引き上げられないときは、シートが格納された状態で、「サードシートをテーブル状態にするには」（→P. 115）の手順 [8] を行い、背もたれを確実にロックさせてから、再度ハンドル B を引いてください。

■ サードシートのテーブル状態の作動／復帰作動について（電動格納式サードシート装着車）

● サードシートのテーブル作動／復帰作動中に、同じサードシートの他のスイッチを押した場合、テーブル作動・復帰作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、ブザーが約 10 秒間鳴ります。
テーブル作動・復帰作動が再開されると、スイッチの作動表示灯は消灯します。

● サードシートのテーブル作動／復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅しブザーが約 10 秒間鳴り、テーブル作動・復帰作動が中断されます。
テーブル作動／復帰作動が再開されると、スイッチの作動表示灯は消灯します。

■ サードシートの格納について（電動格納式サードシート装着車）

● サードシートの格納作動中に、次のことをした場合、格納作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示され、ブザーが約 10 秒間鳴り格納操作が中断されます。

- ・ 格納スイッチから手を離れた
- ・ 格納作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押した
- ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときで、シフトレバーを P から P 以外に動かした

上記の条件を解消し、作動を再開させたときにスイッチの作動表示灯は消灯します。

● サードシートの格納作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示され、ブザーが約 10 秒間鳴り格納作動が中断されます。
作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

■ サードシートの格納をもどすときについて（電動格納式サードシート装着車）

- サードシートの復帰作動中に、次のことをした場合、復帰作動は中断され、スイッチの作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示され、ブザーが約 10 秒間鳴り復帰操作が中断されます。

- ・ 着座スイッチから手を離れた
- ・ 復帰作動している側のテーブルスイッチ、またはリクライニングスイッチを押した
- ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときで、シフトレバーを P から P 以外に動かした

上記の条件を解消し、作動を再開させたときにスイッチの作動表示灯は消灯します。

- サードシートの復帰作動中に、無理にシートの動きを止めたり、シートが故障したときは、スイッチの作動表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「3rd SEAT」と表示され、ブザーが約 10 秒間鳴り格納作動が中断されます。

作動が再開されたとき、作動表示灯は消灯します。

■ 車いす固定ベルト装着車のサードシートの格納について

サードシートの格納をする前に次の準備をして、車いす固定ベルトがサードシートに挟み込まないようにしてください。

- ラゲージルーム側の車いす固定ベルトは、ベルトの付け根のリングにフックを引っ掛けておく
- 背もたれ側の車いす固定ベルトは、手前側と奥側のベルトの長さを同じくらいに調整し、重ねてマジックテープで背もたれに貼り付けておく

① マジックテープ

② 奥側のベルト

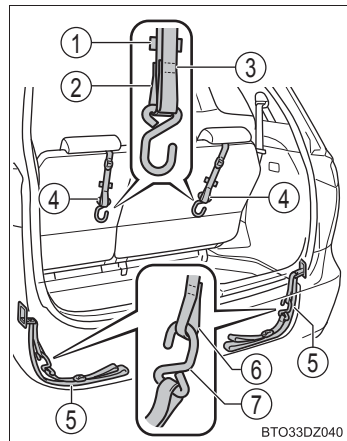
③ 手前側のベルト

④ 背もたれ側のベルト

⑤ ラゲージルーム側のベルト

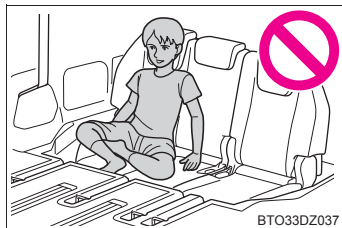
⑥ リング

⑦ フック



！警告**■シート調整について**

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。（手動格納式サードシート装着車）
- シートを格納するときは、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床面の間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。（手動格納式サードシート装着車）
- 助手席側サードシートを格納したときのサードシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対に座らないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを格納するとき、またはもどすときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- サードシートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する（手動格納式サードシート装着車）
- シートベルトを挟み込まないようにする

 注意**■ リクライニング調整をするときは**

リクライニング調整をするときは、背もたれをバックドアに当てないように注意してください。バックドアなどを損傷するおそれがあります。

■ サードシートをテーブル状態／格納するときは

必ずシートベルトとバックルを格納してください。(→P. 28)
シートベルトやシートを損傷するおそれがあります。

■ サードシートの格納について（手動格納式サードシート装着車）

格納状態からもどす操作（→P. 116）の手順 **[2]** で、シートを前方に押し出している途中にシートを押し下げないでください。

途中でシートを押し下げると、シートの脚部で床面を損傷する恐れがあります。シートをロックするときは、シートがもとの位置にもどったことを確認してからシートを押し下げてください。

■ 損傷を防ぐために

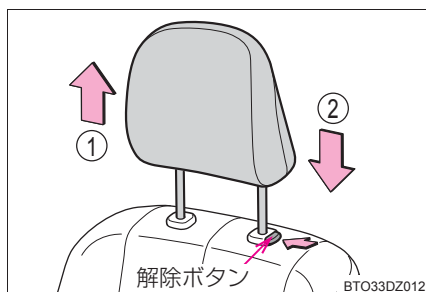
- シートクッションの上に荷物や座布団などをのせたまま、サードシートを格納、またはテーブル状態にしないでください。荷物や座布団などを挟んでしまうと、シートを損傷するおそれがあります。
- サードシートを格納するときはサードシート格納部に物がないことを確認してください。物がある状態でサードシートを格納すると、シートが損傷するおそれがあります。
- サードシートをもどすときは、床面に物がないことを確認してください。物がある状態でサードシートをもとにもどすと、シート固定部などを損傷するおそれがあります。
- 販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車（→P. 308）は、サードシート格納スペースにスペアタイヤが搭載されるため、サードシートの格納ができません。
無理にサードシートの格納操作を行うとサードシートを損傷するおそれがあります。

ヘッドレスト

フロントシート

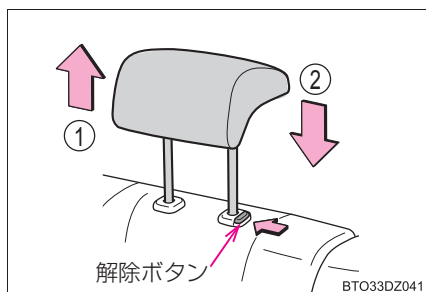
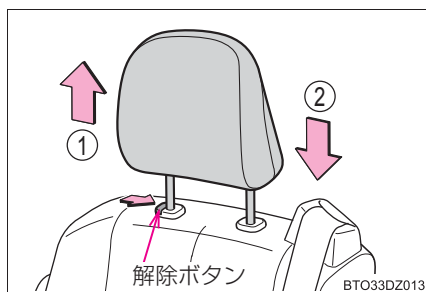
- ① 上げる
- ② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



セカンドシート

- ▶ 7人乗り車／8人乗り車(左右席) ▶ 8人乗り車(中央席)

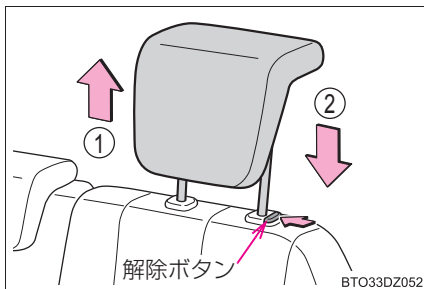


- ① 上げる
- ② 下げる※

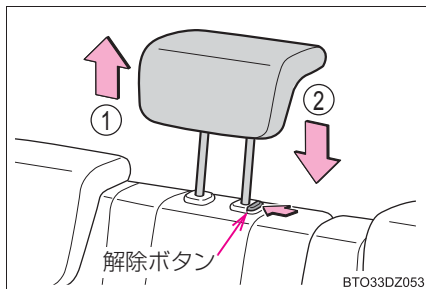
※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

サードシート

▶ 左右席



▶ 中央席



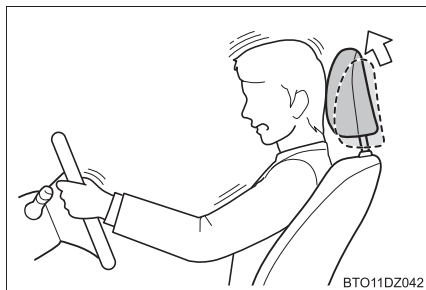
① 上げる

② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

アクティブヘッドレスト（フロントシート）

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむちうちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

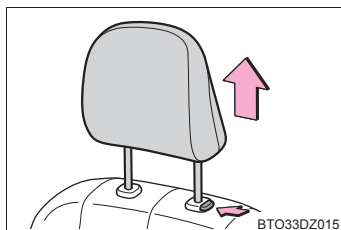


知識

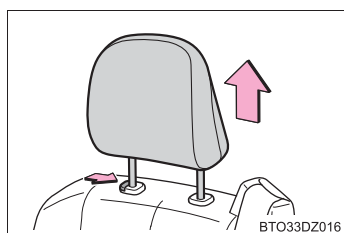
■ ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます

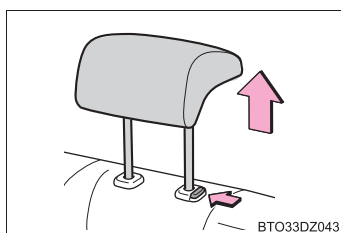
▶ フロントシート



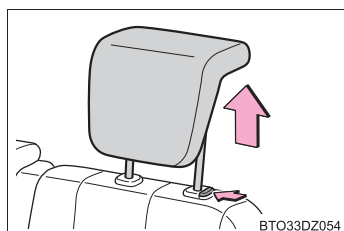
▶ 7人乗りセカンドシート／8人乗りセカンドシート（左右席）



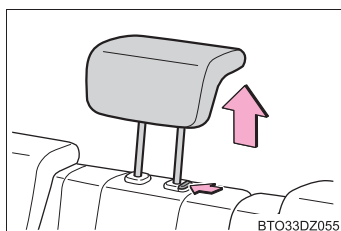
▶ 8人乗りセカンドシート（中央席）



▶ サードシート（左右席）

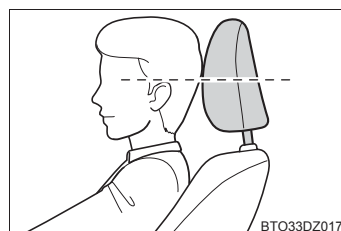


▶ サードシート（中央席）



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ 8人乗りセカンドシート（中央席）／サードシートについて

使用するときは、常に格納位置から上げた位置にしてください。

■ アクティブヘッドレストについて（フロントシート）

- 背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。
- 解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

⚠ 警告**■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

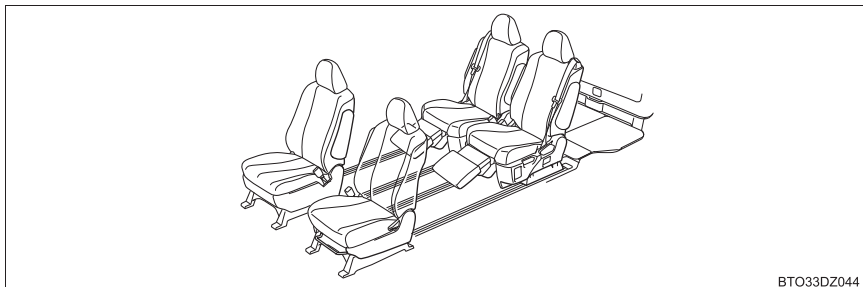
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

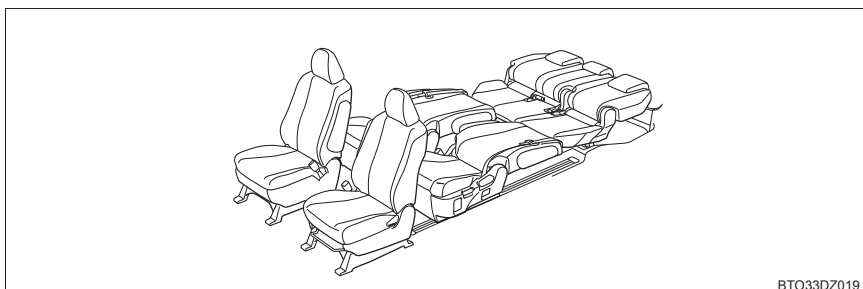
◆ スーパーリラックスモード (7人乗り車)

→P. 131



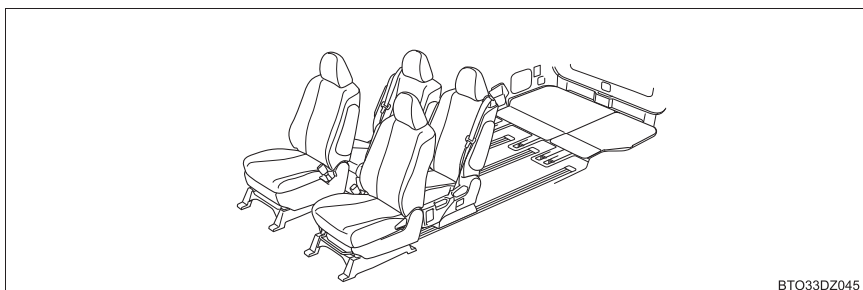
◆ セカンドシート・サードシートフラットモード

→P. 132



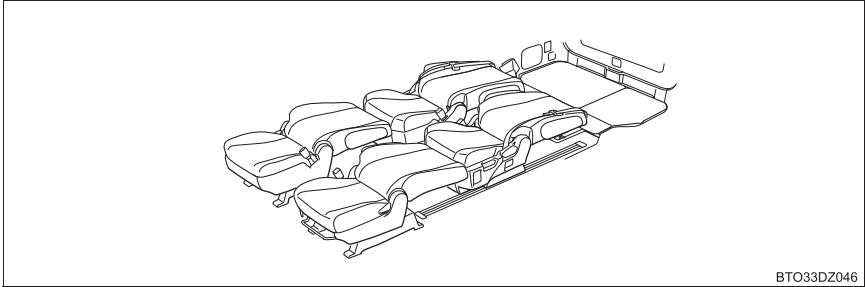
◆ フラットラゲージモード

→P. 133



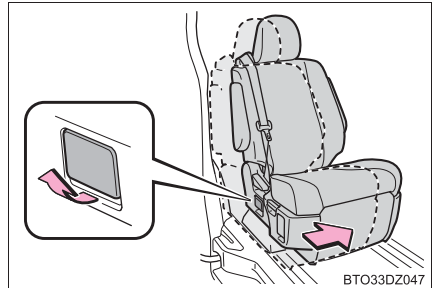
◆ フロントシート・セカンドシートフラットモード (サードシート床下収納)

→P. 133

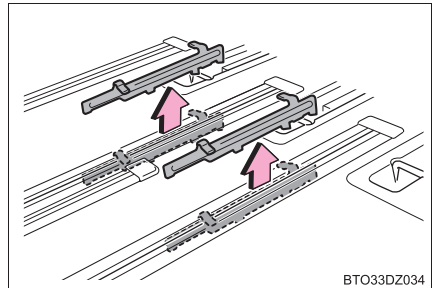


スーパーリラックスモードにするには (7人乗り車)

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 サードシートを格納する (→P. 116, 119)
- 3 セカンドシートの左右位置調整レバーを引いてセカンドシートを中央いっぱいまでスライドする



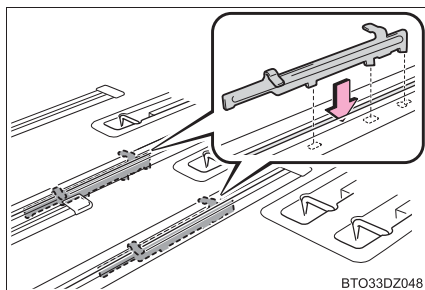
- 4 スライドストッパーを取りはずす
セカンドシート後方のシートレールから、スライドストッパー (2 本) を取りはずします。



- 5 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを後方へスライドする (→P. 108)
- 6 オットマン角度調整・格納レバーを引いて、オットマンを引き起こす (→P. 108)
必要に応じてオットマンのクッション部を前方へスライドします。(→P. 110)

■ スライドストッパーを取り付けるときは

スライドストッパーを取り付けるときは、シートレール内の穴（3カ所）にスライドストッパーのツメを差し込む



セカンドシート・サードシートフラットモードにするには

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする（→P. 253）
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする（→P. 108）
- 4 7人乗り車は、セカンドシート左右位置を中央に移動させる（→P. 108）
- 5 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→P. 126）
- 6 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P. 108）
- 7 サードシートのヘッドレストを下げる（→P. 127）
- 8 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P. 113）

フラットラゲージモードにするには

▶ 7 人乗り車

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする (→P. 253)
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする (→P. 108)
- 4 サードシートを格納する (→P. 116, 119)

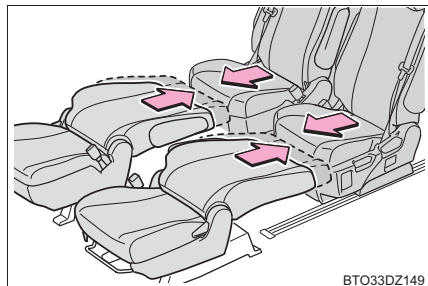
▶ 8 人乗り車

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 セカンドシートをチップアップする (→P. 109)
- 3 セカンドシートの前後位置調整レバーを引いて、セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする (→P. 108)
- 4 サードシートを格納する (→P. 116, 119)

フロントシート・セカンドシートフラットモード (サードシート床下収納) にするには

- 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 サードシートを格納する (→P. 116, 119)
- 3 フロントシートを前方いっぱいまでスライドする (→P. 106)
- 4 フロントシートのヘッドレストをはずす (→P. 126)
- 5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P. 106)
- 6 ロングスライドコンソール装着車は、ロングスライドコンソールを前方へスライドする (→P. 253)
- 7 7 人乗り車は、セカンドシート左右位置を中央に移動させる (→P. 108)
- 8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるように必要に応じてシートを移動させる (→P. 106, 108)

セカンドシートのクッションとフロントシートの背もたれがフラットになるようにフロントシートのリクライニング位置を調整します。



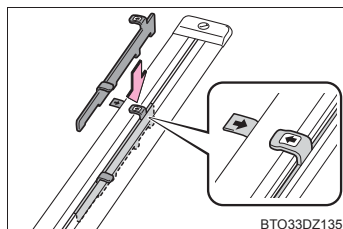
BTO33DZ149

- 9 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P. 108)

知識

■ スライドストッパーについて（7人乗り車）

- セカンドシート後方のスライドレールにスライドストッパー（2本）があります。これはセカンドシートを後方へスライドさせたとき、セカンドシートの後端とサードシートのクッションの間に、サードシートの乗員が足を挟まないようにするためのものです。サードシートに人が乗っているときは、取り付けた状態にしておいてください。
- 販売店装着オプションのフロアマットを装着した場合、フロアマットに表示されている矢印と、スライドストッパー取っ手部の矢印をあわせてスライドストッパーを取り付けてください。



- スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋（→P. 301）に入れておくことをおすすめします。

■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

警告

■ シートアレンジについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■ セカンドシートをチップアップしたときは（8人乗り車）

→P. 111

 警告**■ サードシートを格納したときは**

→P. 124

■ フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

 注意**■ シートアレンジについて**

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

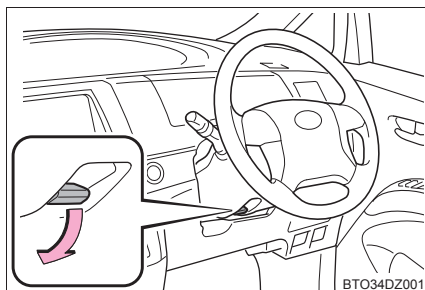
■ フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

ハンドル

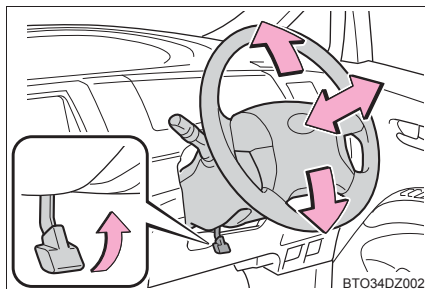
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



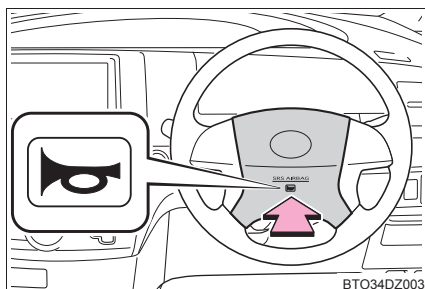
- 2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 警告**■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

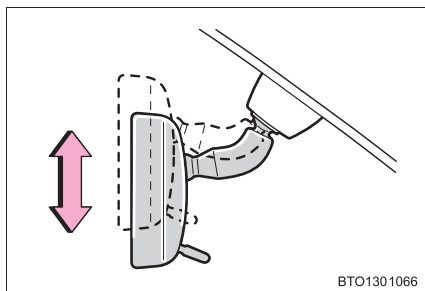
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

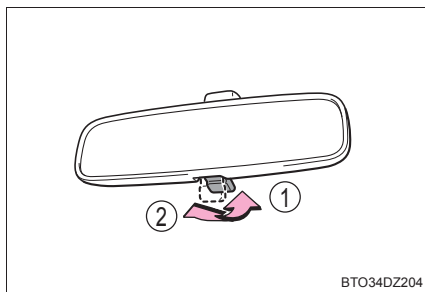
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

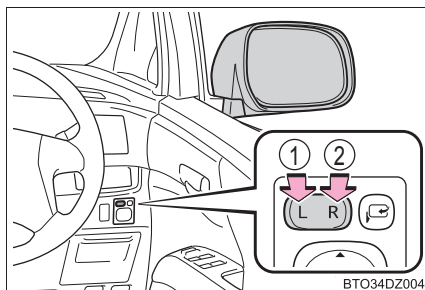
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

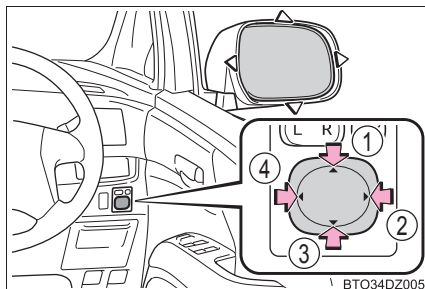
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左

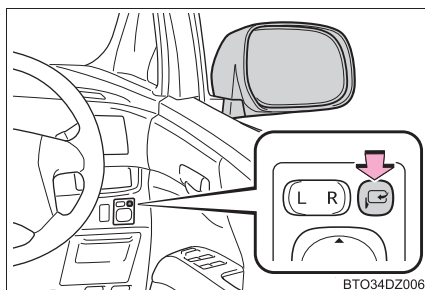


ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



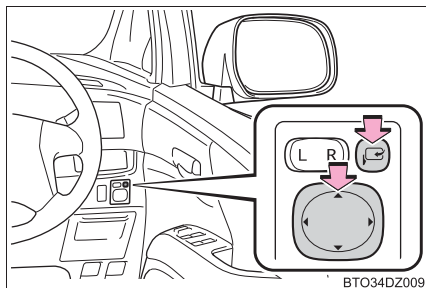
■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。また、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすることにより、復帰させることができます。

オート電動格納機能の ON（作動）・OFF（非作動）切りかえ

次の手順で機能の ON（作動）・OFF（非作動）が交互に切りかわります。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ミラー格納スイッチと鏡面調整スイッチの ▲ を、同時に約 2 秒以上押す



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R ともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリーを脱着したとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ON（作動）の状態にもどります。機能を OFF（非作動）にするときは、再度、オート電動格納機能の ON（作動）・OFF（非作動）切りかえを行ってください。

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 233）

■寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用するとき

寒冷時にオート電動格納機能を ON（作動）で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないときがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、スイッチを押してドアミラーを格納・復帰（→P. 139）させるか、手で動かしてください。

⚠ 警告**■走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

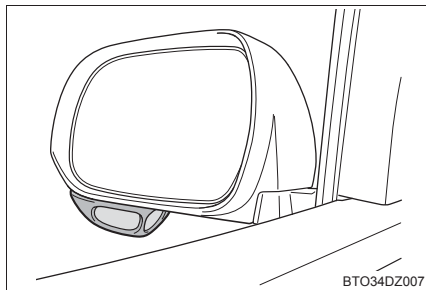
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

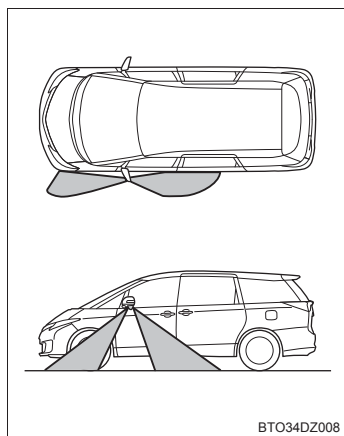


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウィンドウ

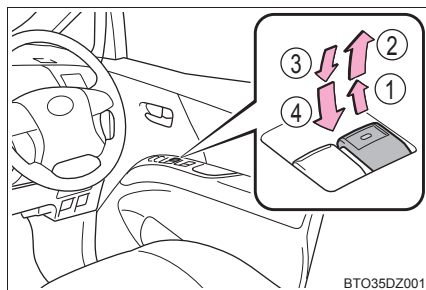
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



BTO35DZ001

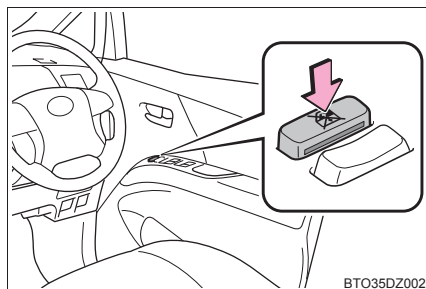
3

各部の操作

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスとリヤサンシェード★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスや、リヤサンシェード★を開閉することを防止できます。



BTO35DZ002

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアガラスを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- ② パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒間引き続ける
- ③ パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 2 秒間押し続ける
- ④ 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

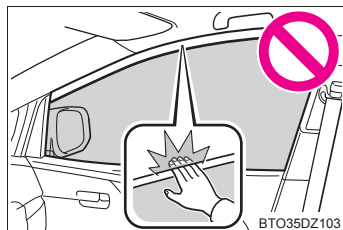
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 143)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

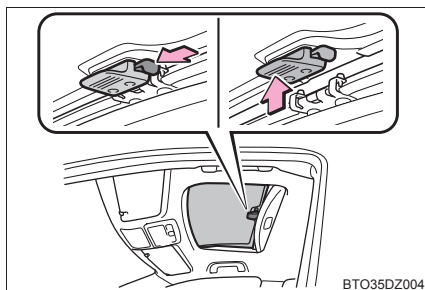
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

大型ムーンルーフ★

フロントムーンルーフをチルトアップする

ボタンを押しながらハンドルを押上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。



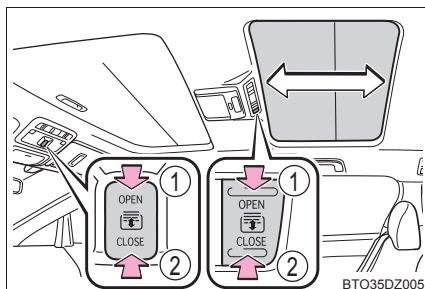
BTO35DZ004

リヤサンシェードを開閉する

① 開ける※

② 閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



BTO35DZ005

知識

■ リヤサンシェードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき※

※ ただし、ウインドウロックスイッチが ON になっているときは作動しません。
(→P. 143)

■ フロントサンシェードについて

手動で開閉できます。

■ 挟み込み防止機能（リヤサンシェード）

リヤサンシェードを閉めるときに、窓枠とシェードの間に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、挟み込み防止機能が作動することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

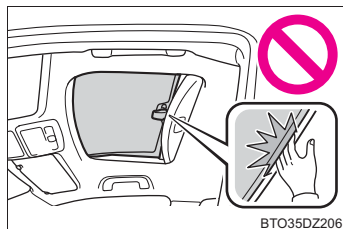
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントムーンルーフをチルトアップしているとき

走行中はルーフから手を出さないでください。

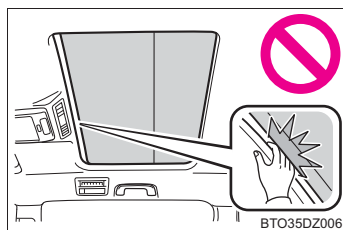
■フロントムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、フロントムーンルーフ開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはフロントムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がフロントムーンルーフに挟まれたりするおそれがあります。
- フロントムーンルーフを閉めるときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだりしないように注意してください。

**■リヤサンシェードを開閉するときは**

- 運転者は、リヤサンシェード開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはリヤサンシェードの操作をさせないでください。お子さまや他の人がリヤサンシェードに挟まれたり、巻き込まれたりするおそれがあります。
- また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 143)

- リヤサンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■ やけどやけがを防ぐために**

ルーフの下側とリヤサンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

■ 挟み込み防止機能（リヤサンシェード）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、リヤサンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ 損傷を防ぐために**

- フロントムーンルーフを開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- ルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。
- リヤサンシェードが全開・全閉したあとにスイッチを押し続けしないでください。

■ 洗車後や雨が降ったあとなどは

フロントムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転**4****4-1. 運転にあたって**

運転にあたって	150
荷物を積むときの注意	158

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	159
オートマチック トランスミッション	164
方向指示レバー	169
パーキングブレーキ	170

4-3. ランプのつけ方・**ワイパーの使い方**

ランプスイッチ	171
フォグランプスイッチ	176
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	177
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	179

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	181
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

4WD オートモード	185
クルーズコントロール	186
レーダークルーズ コントロール	190
LKA（レーンキーピング アシスト）	200
クリアランスソナー	208
運転を補助する装置	214
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	219

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	225
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→P. 159

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→P. 164)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 170)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→P. 164)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかける
- 3 シフトレバーを P にする (→P. 164)
- 4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P. 214)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 駆動力の抑制について

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作用補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 348を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P. 165)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。

本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロード走行をするときは、慎重に運転してください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **停車するとき**

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

 注意**■ 部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 367 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

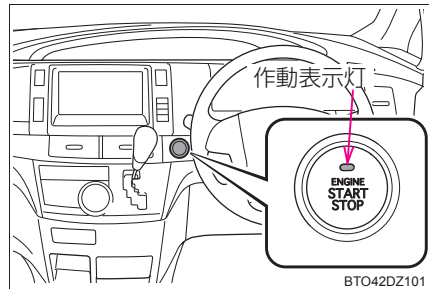
エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンはかかりません。

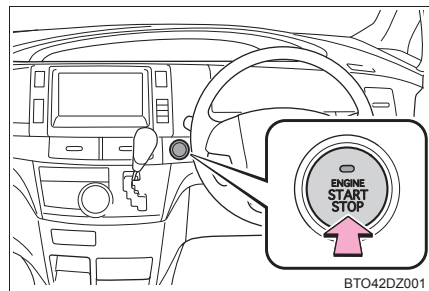


- 4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 パーキングブレーキをかける（→P. 170）
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして、エンジンスイッチの作動表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、エンジンスイッチのモードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにエンジンスイッチのモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

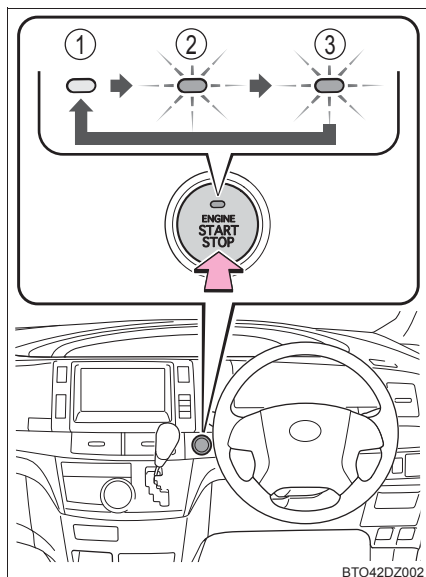
オーディオなどの電装品が使用できます。

エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



BTO42DZ002

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジンスイッチを 2 回押す
- ④ エンジンスイッチの作動表示灯が消灯していることを確認する

 知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードにしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 73

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 103

■ ご留意いただきたいこと

→P. 104

■ エンジンが始動しないとき

● エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります (→P. 57)。トヨタ販売店へご連絡ください。

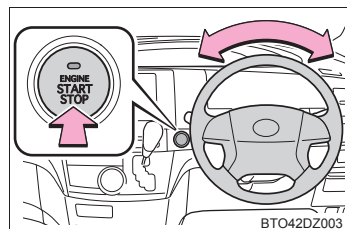
● シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができない場合があります。

■ ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

エンジンスイッチの作動表示灯が15秒間緑色に点滅します。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 314

■ エンジンスイッチの操作について

- エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、エンジンスイッチのモードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→P. 382

警告

■ エンジンを開始するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 348)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、エンジンスイッチの作動表示灯が橙色に点灯しているときは、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

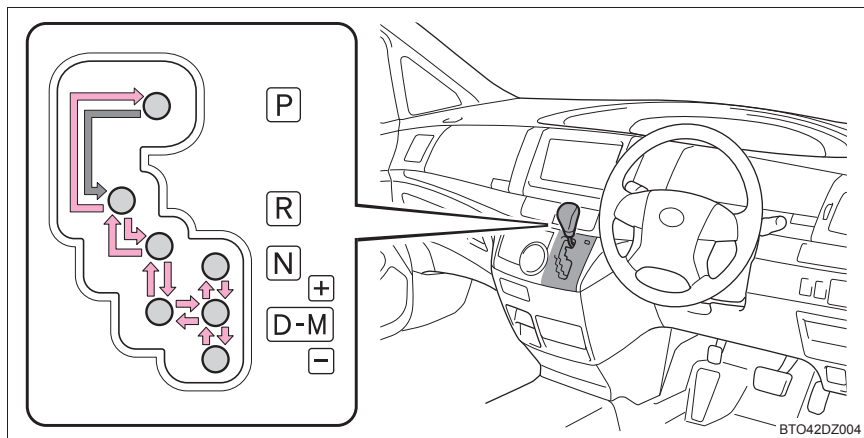
■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

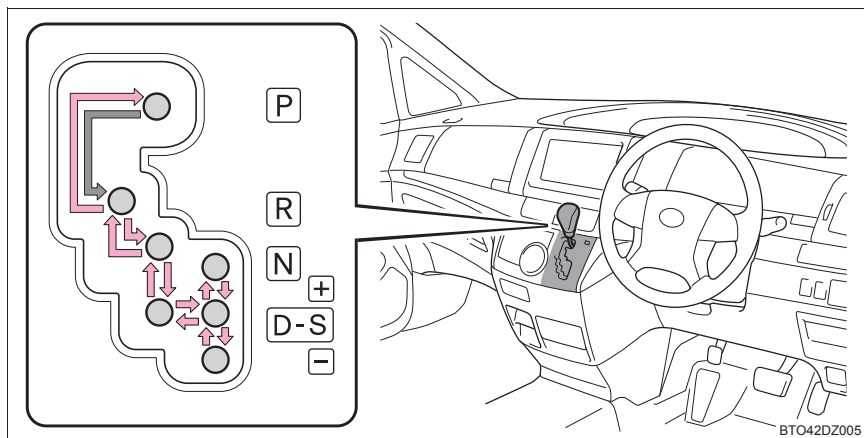
オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



▶ 2GR-FE エンジン搭載車



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態	
	2AZ-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジンの始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※ ¹	
M	7速スポーツ シーケンシャルシフト マチックモード走行 (→ P. 166)	—
S	—	Sモード走行※ ² (→ P. 166)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ (2AZ-FE エンジン搭載車)

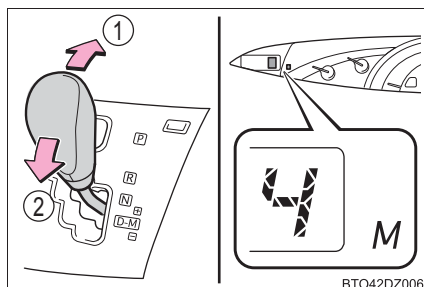
シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作することにより 1 速ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。



BTO42DZ006

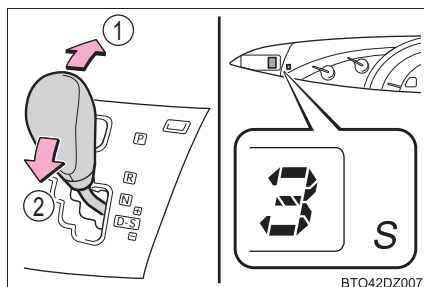
S モードでのシフトレンジ切りかえ (2GR-FE エンジン搭載車)

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。

① シフトレンジアップ

② シフトレンジダウン

シフトレバーを操作することにより 1 速ずつ変速します。



BTO42DZ007

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 5 レンジもしくは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジになる場合があります。(→P. 168)

■ シフトレンジ機能

- 車速や走行状況に応じて、1 ～ 6 のシフトレンジを自動的に選択します。ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。

 知識**■ 7速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について
(2AZ-FE エンジン搭載車)**

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■ S モードに関する自動変速について (2GR-FE エンジン搭載車)

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッションの保護のため、自動的にシフトレンジアップされます。

■ シフトダウン制限警告ブザー**(7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、または S モード走行時)**

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウン (S モードはシフトレンジダウン) が行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ クルーズコントロール★または、レーダークルーズコントロール★を使って走行しているとき**▶ 2AZ-FE エンジン搭載車**

エンジンブレーキを目的に7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 へシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P. 188)

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

エンジンブレーキを目的に S モードで走行中に 5 または 4 にシフトダウンしてもクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P. 188, 196)

■ シフトレバーを M、または S にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示部に M、または S 表示灯が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ M ポジションで走行中に停車したときは**(7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時)**

- 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- 停止後は M1 に固定されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

→P. 381

■ AI-SHIFT について

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車（ナビゲーションシステム装着車）

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

AI-SHIFT：

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速比・ギヤ段切りかえを行います。

AI-SHIFT は、シフトレバーをDにしているときに自動的に作動します。シフトレバーをSにすると、機能が解除されます。



警告

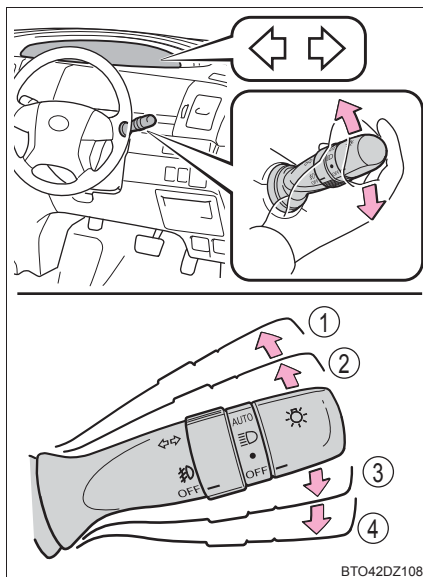
■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

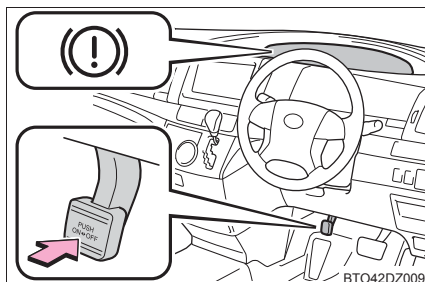
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む
(再度踏み込むと解除される)



知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 226

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 355, 362

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

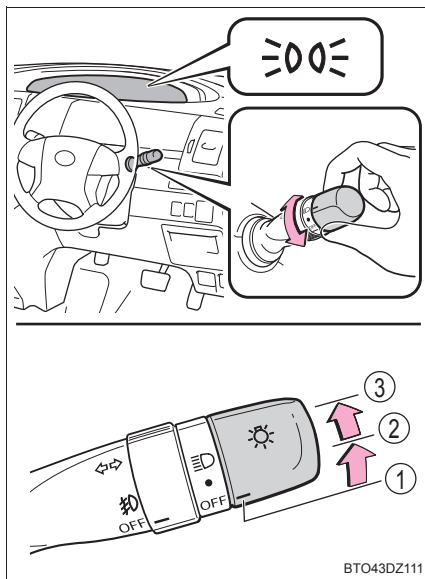
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

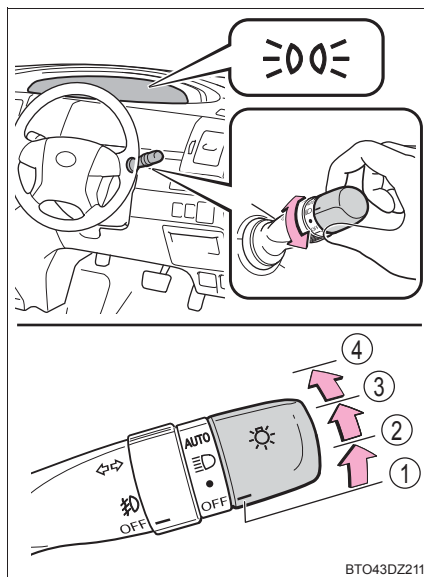
▶ コンライト非装着車

- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ ≡〇≡ 上記ランプとヘッドランプを点灯



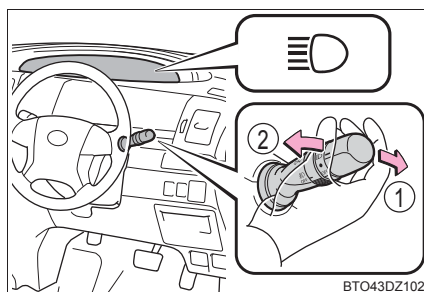
▶ コンライト装着車

- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ ≡O 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯
(エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)



ハイビームにする

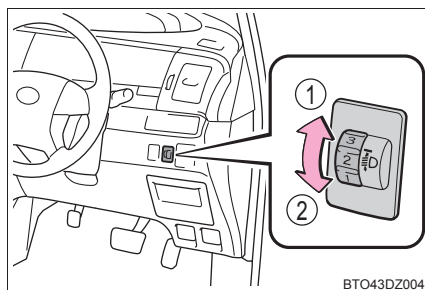
- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



BTO43DZ004

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者と助手席、およびサードシートに3人乗車	なし	1.5
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）★

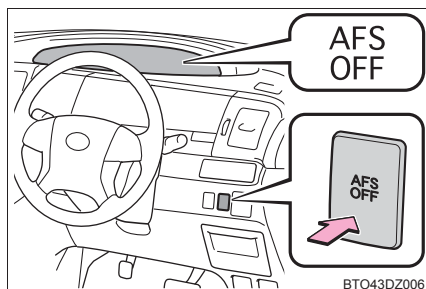
AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

スイッチを押して OFF にする

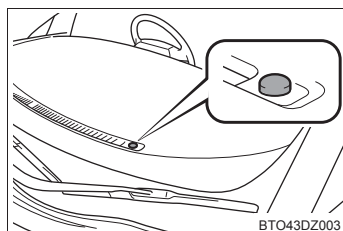
メーター内の AFS OFF 表示灯が点灯します。



知識

■ ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてフロントドアまたはスライドドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または  の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプ消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

● エンジンスイッチが OFF のときに働きます。

● ランプスイッチが ● または  の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■ オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは★

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ カスタマイズ機能（コンライト装着車）

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 404）

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

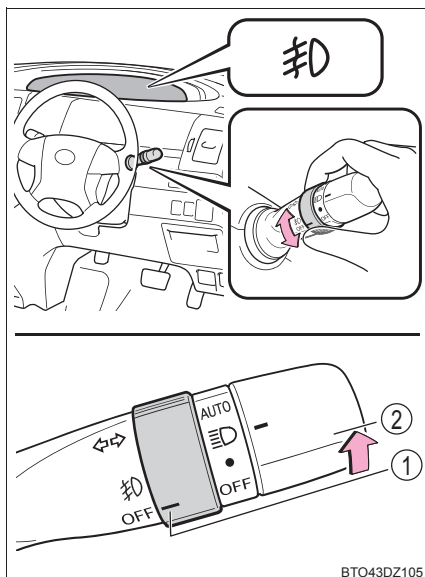
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

- ① OFF 消灯する
- ② 点灯する



BTO43DZ105

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

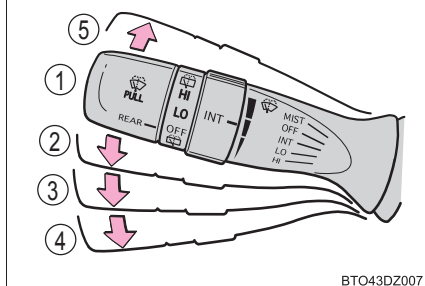
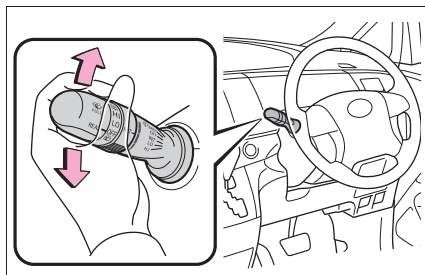
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

“INT” を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

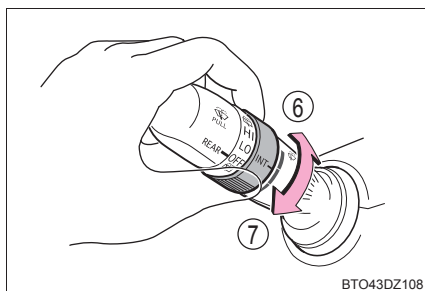
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

- ① OFF 停止
- ② INT 間欠作動
- ③ LO 低速作動
- ④ HI 高速作動
- ⑤ MIST 一時作動



BTO43DZ007

- ⑥ 間欠時間（長）
- ⑦ 間欠時間（短）

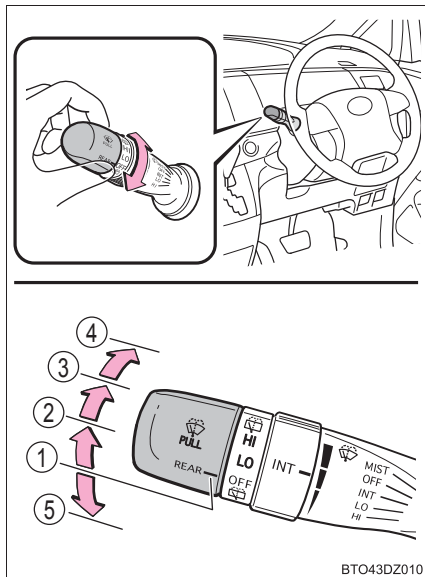


BTO43DZ108

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① OFF 停止
- ② LO 低速作動
- ③ HI 高速作動
- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ⑤  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

2AZ-FE エンジン搭載車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FE エンジン搭載車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

■ 給油扉開警告ブザー

→P. 85

 警告**■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

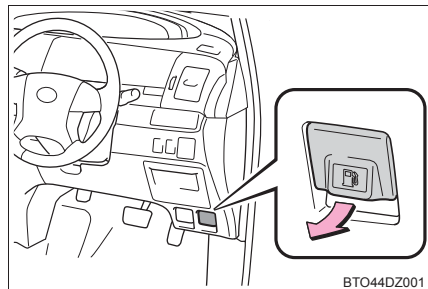
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

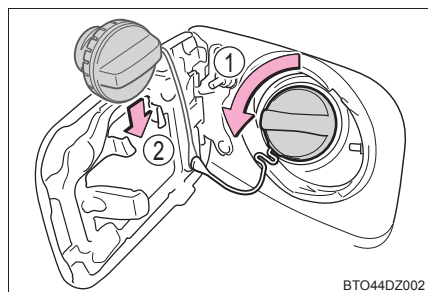
- 1 給油扉オープナーを引いて、給油扉を開ける



BTO44DZ001

- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

- ① まわす
- ② はめ込む

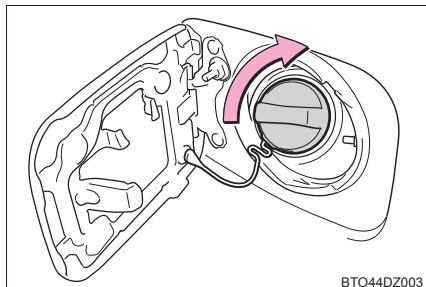


BTO44DZ002

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



BTO44DZ003

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4WD オートモード★

機能概要

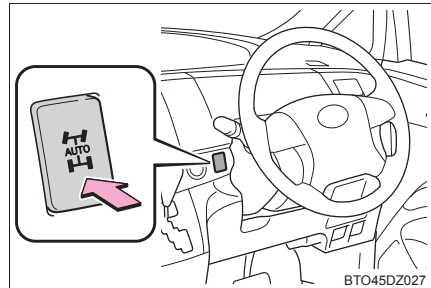
走行の安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（4輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを使用する

スイッチを押す

メーター内の 4WD オートモード作動表示灯（→P. 64）が数回点滅後点灯し、4WD オートモードになります。

再度押すと表示灯が消灯し、FF モードになります。



知識

■ 4WD オートモード表示灯について

- 4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。

表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。

- ・ 表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす。
- ・ 表示灯が点滅しなくなるまで停車する。（エンジンは停止しない）

- 4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

■ 4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

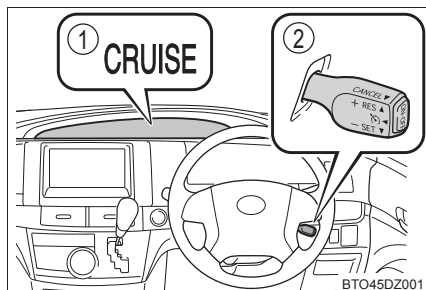
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クルーズコントロール★

機能概要

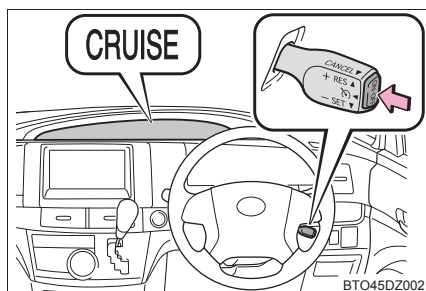
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

- ① クルーズコントロール表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

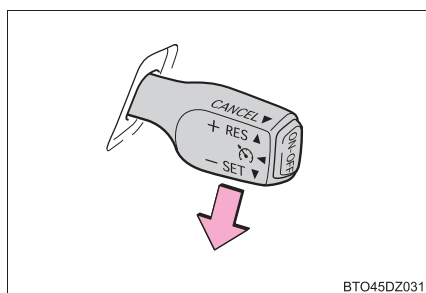


速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする
メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。
OFF にするには、再度スイッチを押します。



- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する
レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

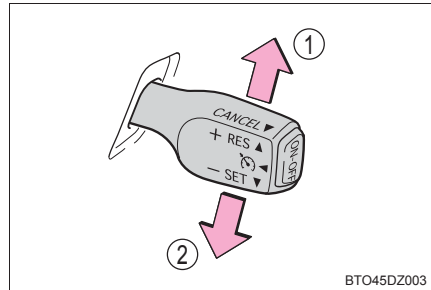
- ① 速度を上げる
- ② 速度を落とす

微調整：

レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：

希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：

レバー操作するごとに約 1.5km/h

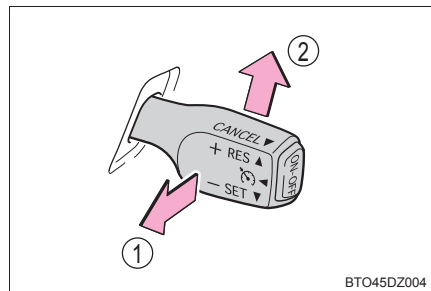
調整：

レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

- ① 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
(2GR-FE エンジン搭載車)
- シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。
(2AZ-FE エンジン搭載車)
- 車速は約 40km/h ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 一般道（高速道路や自動車専用道以外）
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

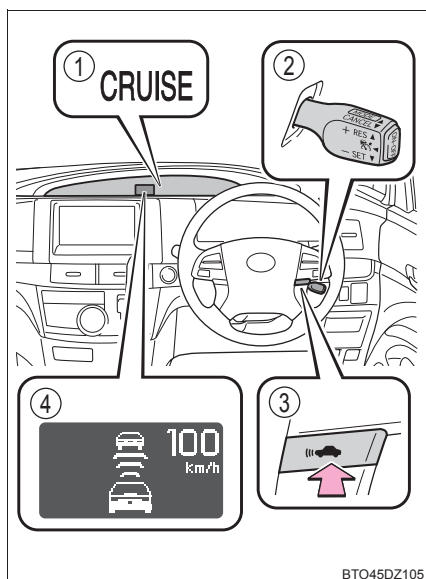
レーダークルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

- ① クルーズコントロール表示灯
- ② レーダークルーズコントロールスイッチ
- ③ 車間距離切りかえスイッチ
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ



BTO45DZ105

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

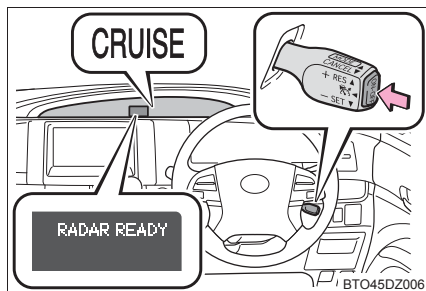
車速を設定する

■ 設定のしかた（車間制御モード）

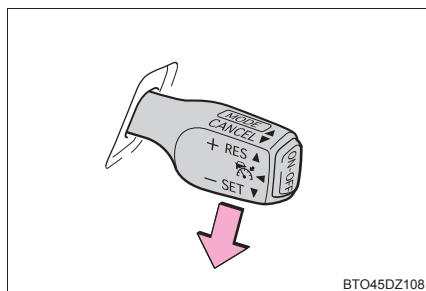
- 1 ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内にクルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」と表示されます。

OFF するには、再度スイッチを押します。



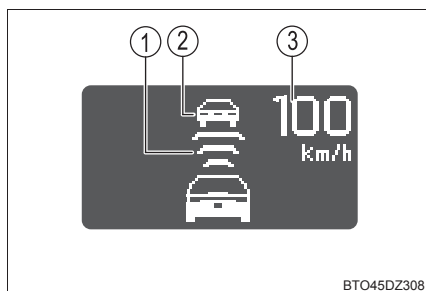
- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

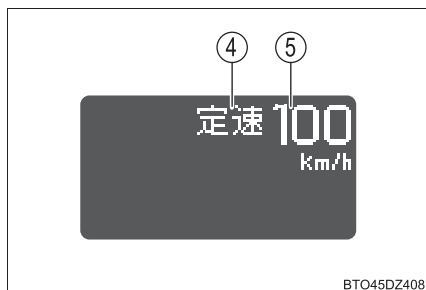
セット状態表示（セット車速・先行車検知の有無・設定されている車間距離）になります。

- ① セット車間距離
- ② 先行車検知
- ③ セット車速



手順 ②の前に定速制御モード（→P. 195）に切りかえると「定速」とセット車速が表示されます。

- ④ 「定速」
- ⑤ セット車速



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します

① 速度を上げる

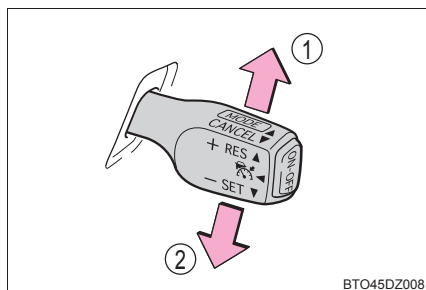
② 速度を落とす

微調整：

レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：

希望の車速になるまでレバーを保持する



BTO45DZ008

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

レバーを保持するあいだ

微調整で設定速度を変更することはできません。

定速制御モード（→P. 195）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

微調整：レバー操作するごとに約 1.5km/h

調整：レバーを保持するあいだ

車間距離を変更する

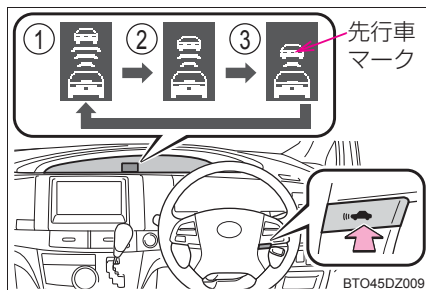
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチがイグニッション ONモードになるたびに①に設定されます。



BTO45DZ009

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

(速度 80km/h で走行している場合)

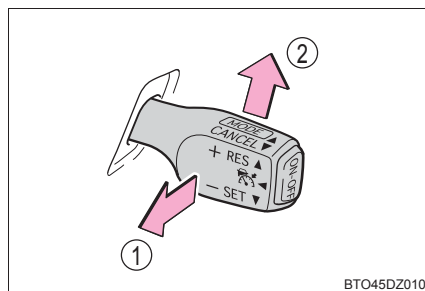
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

- ① 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。



BTO45DZ010

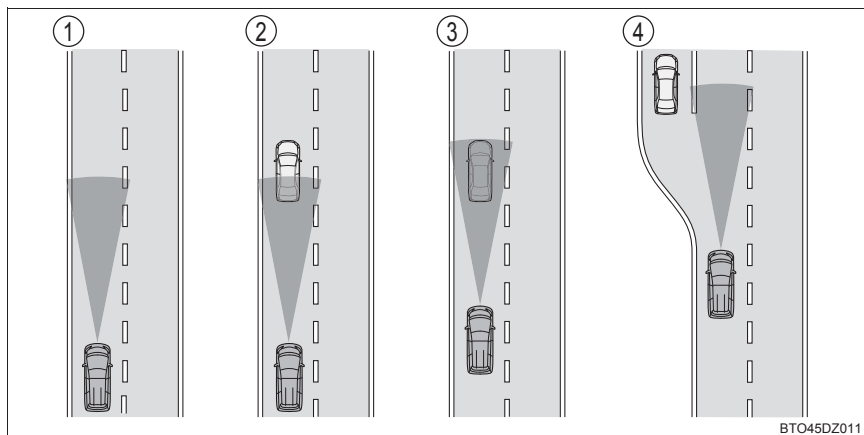
ただし、定速制御モード時は実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

また、定速制御モードで使用しているときは、約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



- ① 定速走行：
先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

- ② 減速走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

- ③ 追従走行：
設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

- ④ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。(→P. 361) その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

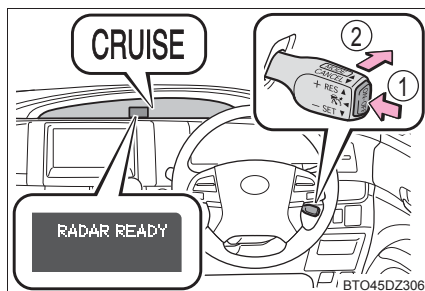
定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

- ① ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内にクルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「RADAR READY」と表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。



- ② 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには

→P. 192

制御を解除する・復帰させるには

→P. 193

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速は約 50 km/h ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 車速が約 40 km/h 以下になった
 - VSC が作動した
 - センサーが何かでふさがれて適切に働かない
 - ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを高速作動の位置にしたとき）
- その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

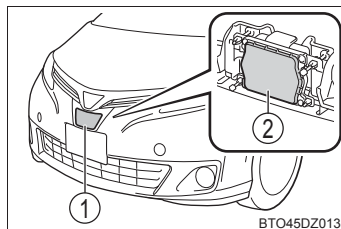
- 設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ レーダーセンサーとカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

- ① カバー
- ② レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。(→P. 360)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 一般道（高速道路や自動車専用道以外）
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速（場合によってアクセルを操作）してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 195）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車のうしろ部分が小さすぎる時（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

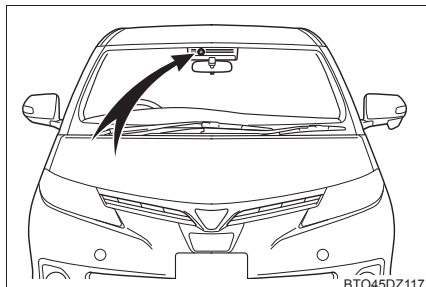
- センサーとカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやカバーを改造したり塗装したりしない
- センサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA (レーンキーピングアシスト) ★

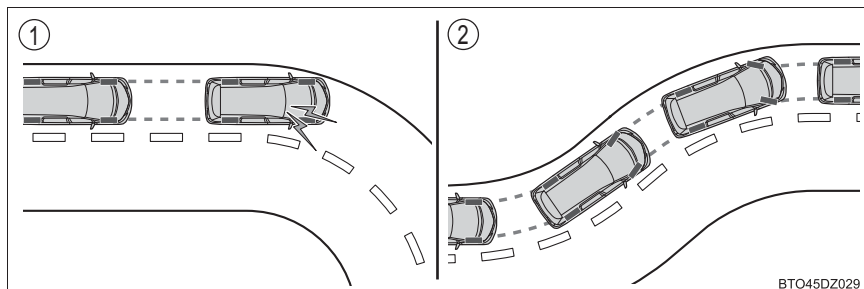
機能概要

白(黄)線の整備された高速道路や急なカーブがない自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

白線認識用カメラ



LKA に含まれる機能



① 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、ブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※ ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操作力を与えます。

② 車線維持支援機能

- ・ 車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65km/h 以上でレーダークルーズコントロール(→P. 191)の車間制御モードがセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。
 - ・ 小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。
- 車線維持支援機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、機能が一時的に解除されます。(→P. 203)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

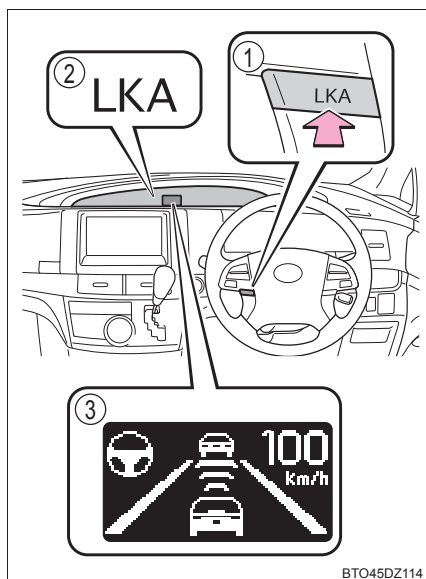
LKAを使用するにはスイッチを押す

メーター内のLKA表示灯が点灯し、システムの状態がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- ① LKA スイッチ
- ② LKA 表示灯
- ③ マルチインフォメーションディスプレイ

白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。

解除するには再度LKAスイッチを押します。



各機能の作動条件

■ 車線逸脱警報機能

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 直線路または、ゆるいカーブを走行しているとき

■ 車線維持支援機能

- 車速が約 65 ～ 100km/h のとき
- レーダークルーズコントロールの車間制御モードが ON で、設定車速が 65km/h 以上のとき（レーダークルーズコントロールが定速制御モードのときは、作動しません）
- 直線路または、ゆるいカーブを走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

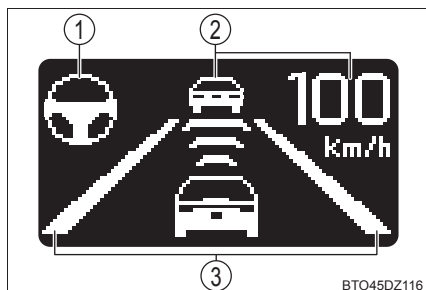
LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。

① 車線維持支援機能の作動表示

ハンドル表示時：機能が作動中であることを示しています。（このとき車線維持支援機能が作動すると、ハンドル表示が点滅します）

Ready 表示時：車線維持支援機能が作動開始可能なことを示しています。

LKA スイッチを ON するまたは、レーダークルーズコントロールの車間制御モードを65km/h以上でセットすることで車線維持支援機能を作動することができます。



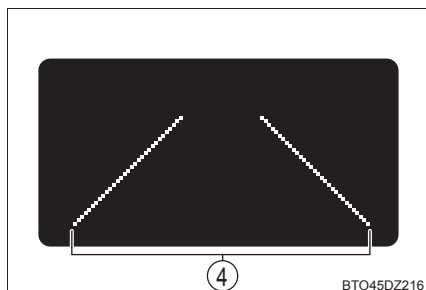
② レーダークルーズコントロール表示

③ 車線逸脱警報機能表示 (白線表示が太いとき)

機能が白（黄）線を認識していることを示しています。（このとき車線逸脱警報が作動すると、白線表示が点滅します）

④ 車線逸脱警報機能表示 (白線表示が細いとき)

機能が白（黄）線を認識できていない、または機能が一時的に解除されていることを示します。



 知識

■ 機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ワイパーが連続で作動したとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

■ 車線逸脱警報について

路面状況などにより、体感警報が感じにくい場合があります。

■ 車線逸脱警報機能が作動したとき

車線逸脱警報機能が作動したあとは、機能を一時的に解除し、数秒間経過するまで再開しません。

■ 手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒手放し運転と判断された場合は、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ただし、路面状況により、作動が中断しない場合があります。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 200）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■ LKA 作動中について

LKA 作動中にドライバー操舵操作が加えられた場合は、作動を中断しその操作を優先させます。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがあります。故障ではありません。

- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 坂道を走行するとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LKAの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→P. 362）

 警告**■ LKA をお使いになる前に**

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 正しく作動させるには

次の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで白（黄）線が見えにくいとき
- ヘッドランプのレンズが汚れていたり、劣化などにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設車線を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 反射ポール等の構造物がある場合
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光がカメラに入射した場合
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき
- タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した際は、十分な性能を確保できません。
- スペアタイヤ（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき

 注意**■ LKA の故障や誤作動を防ぐために**

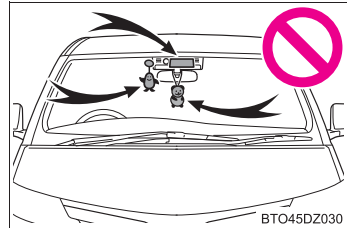
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けしないでください。
- サンバイザーを改造したり、純正品以外のものに交換したりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 注意**■ 白線認識用カメラ**

LKA の故障や誤操作を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。

- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- カメラの近くには、何も取り付けたり、置いたりしない



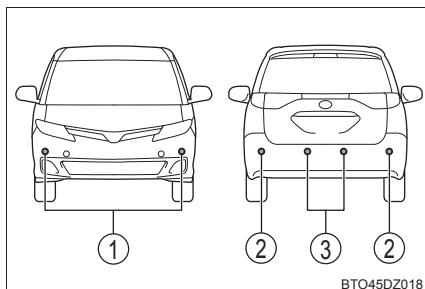
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- インナーミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスター（→P. 233）でガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上にもものを置かない
フロントウインドウガラスに映りこんだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、表示灯とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ バックセンサー

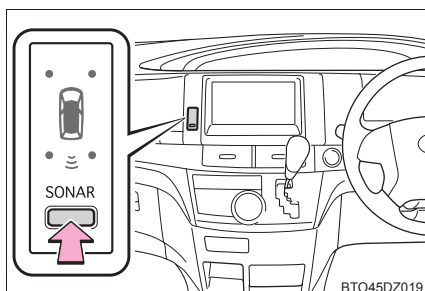


クリアランスソナーメインスイッチ

スイッチを押す

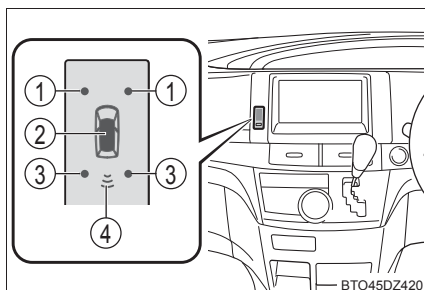
スイッチを押すとクリアランスソナーはONになり、表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

OFFにするには再びスイッチを押します。



表示灯について

- ① フロントコーナーセンサー表示灯
- ② 作動表示灯
- ③ リヤコーナーセンサー表示灯
- ④ バックセンサー表示灯



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

表示灯	障害物までのおおよその距離	
	フロントコーナー センサー& リヤコーナーセンサー	バックセンサー
 (点滅)	—	約 150cm ~ 60cm
 (点滅)	約 60cm ~ 45cm	約 60cm ~ 45cm
 (点滅)	約 45cm ~ 30cm	約 45cm ~ 35cm
 (点灯)	約 30cm 以下	約 35cm 以下

ブザー音について

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

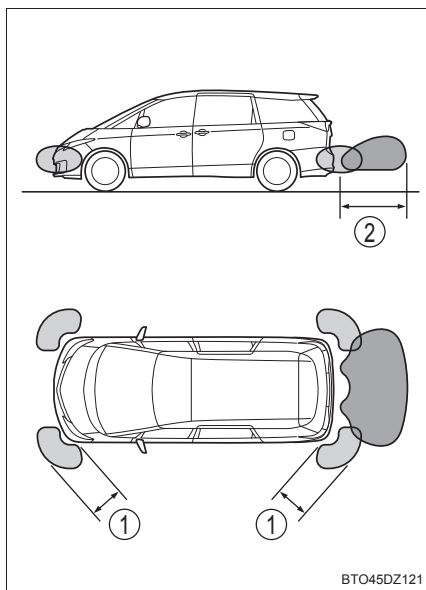
- 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーまたは、リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近づくと、ブザー音は断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。また、両方が上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。

障害物を感知できる範囲

- ① 約 60cm (約 0.6m)
- ② 約 150cm (約 1.5m)

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



 知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ メインスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ メインスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部バンパー周辺、後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物までフロント・リヤコーナーセンサーは約 30cm 以内、バックセンサーは約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

■ システムの異常について

- センサーに異常があるときは、異常のある箇所のセンサー表示灯（→P. 208）が点滅したままの状態になります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーに異物（雪氷や泥など）が付着しているときは、異物が付着している箇所のセンサー表示灯（→P. 208）と、作動表示灯（→P. 208）が点滅したままの状態になります。
異物を取り除いても表示灯が点滅したままの時は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けしないでください

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 警告**■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に前輪の空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを防止します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→P. 219

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

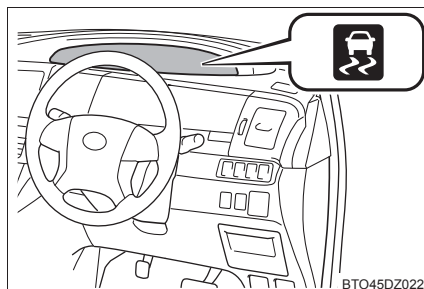
ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



BTO45DZ022

TRC のみを停止するには

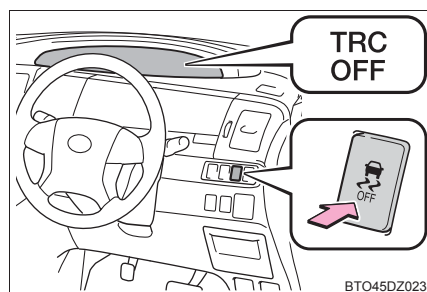
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するには  を押す

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

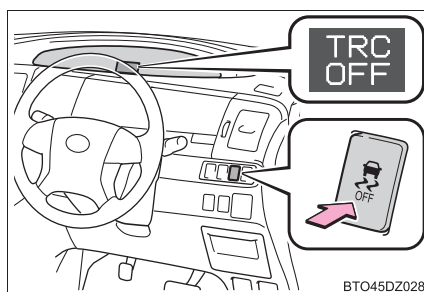


BTO45DZ023

メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



BTO45DZ028

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

VSC と TRC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

 知識

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的に TRC や VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動可能状態に自動復帰します。

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

 警告**■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC または TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 399）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

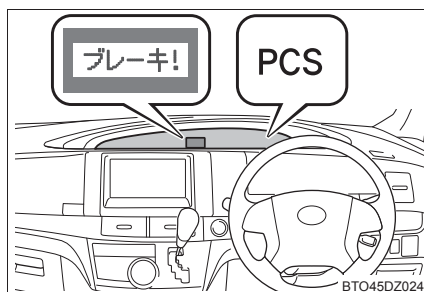
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があるると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキを作動させ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュシートベルト（フロントシート）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。

ただし、VSC を停止しているとき（→P. 216）に、横すべりした場合は作動しません。

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

ドライバーのブレーキ操作をシステムが判断し、警告灯・警告表示・ブザー音での警報を作動させない場合があります。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い（→P. 361）、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。

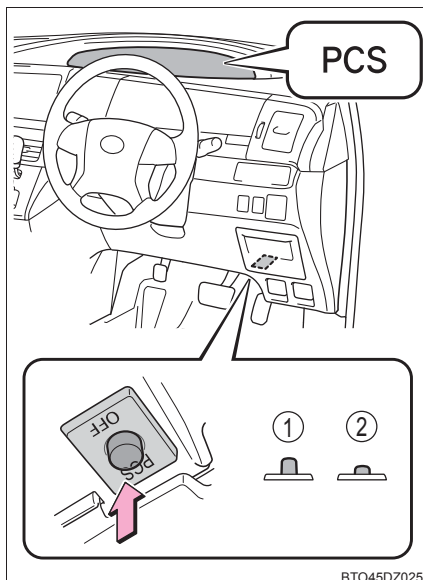
必要に応じて、プリクラッシュブレーキの ON / OFF を切りかえることができます。（→P. 220）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュブレーキの切り換え

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON / OFF 切り換えができます。

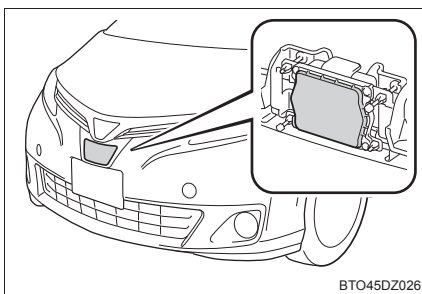
- ① プリクラッシュブレーキ ON
 - ② プリクラッシュブレーキ OFF
- OFF にすると PCS 警告灯が点滅します。



BTO45DZ025

レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速・進路から衝突する可能性を事前に判断します。



BTO45DZ026

 知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動条件

- プリクラッシュシートベルトの作動条件①：
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- プリクラッシュシートベルトの作動条件②：
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
 - ・ 車速が約 5 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両が障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
- プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
 - ・ ブレーキペダルが踏まれているとき
- プリクラッシュブレーキの作動条件：
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

- カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき
- 車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき
- 上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき
- 幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき
- 凹凸のある路面を走行するとき
- 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
- 車高が極端に変化しているとき
- 自車の車両姿勢が前上がりになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかる場合があります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停車してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき
- VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるとき

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 361）

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしようと思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→P. 221）により異なります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤動作または、異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやカバーを改造したり塗装したりしない
- センサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

 警告**■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - バッテリーの点検を受けてください。
 - 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P. 298）
- ※ 18 インチタイヤ装着車はタイヤチェーンを装着することはできません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは約 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 18 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンとデフォグガーの
使い方

フロントエアコン	230
リヤエアコン	238
リヤクーラー	241
快適温熱シート	243

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	245
・フロントパーソナルランプ ／フロントルームランプ	246
・リヤルームランプ	246

5-3. 収納装備

収納装備一覧	248
・グローブボックス	249
・小物入れ	249
・カップホルダー	251
・ボトルホルダー	252
・ロングスライド コンソール	253
ラゲージルーム内装備	255
・デッキフック	255
・停止表示板 収納スペース	255
・デッキボード	257

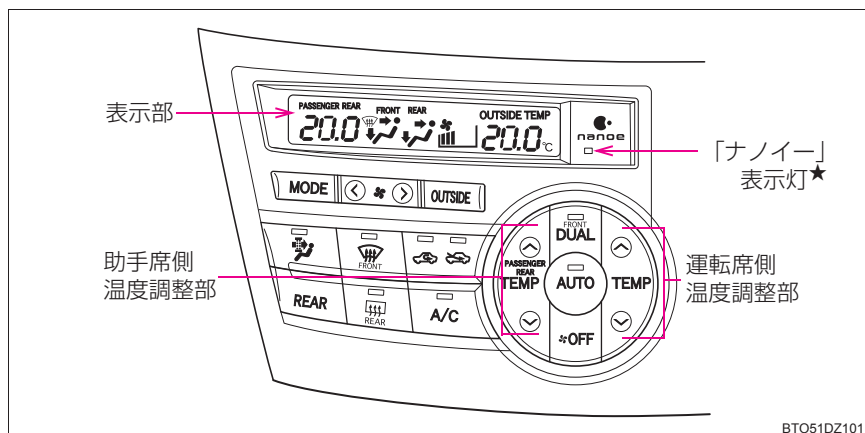
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	258
・サンバイザー	258
・後席確認ミラー	259
・時計	260
・アクセサリソケット ／アクセサリコンセント	261
・アームレスト	263
・買い物フック	264
・アシストグリップ	265
・ステアリングスイッチ	266
ETC システム	267

フロントエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントエアコン操作スイッチについて



BT051DZ101

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  の  を、下げるときは  を押す

■ 風量を切りかえる

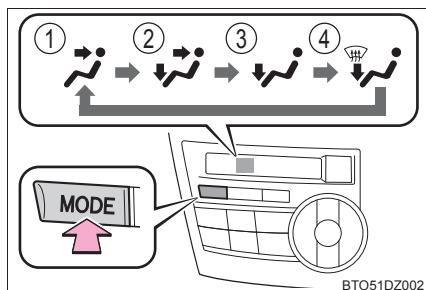
風量を増やすには  の  を、減らすには  を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



BT051DZ002

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→P. 232)
- フロントウインドウガラスの曇りを取る (→P. 233)
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜をとる (→P. 233)

オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチの  を押す
- 2 温度を設定する (→P. 230)
- 3 ファンをとめたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、 スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード)

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの  を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり  の作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

 を押すごとに、内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環： 側が点灯

外気導入： 側が点灯

■ 前席からリヤエアコンを操作するには（リヤエアコン装着車）

 を押す

表示部に「REAR」が表示され、前席からリヤエアコン操作モードに切り替わります。スイッチを押してから、約 6 秒間スイッチ操作をしないと表示部に「FRONT」が表示され、フロントエアコン操作モードに戻ります。

● 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは  の  を、下げるときは  を押す

表示部の助手席側設定温度の表示がリヤエアコンの設定温度の表示に切り替わります。

● 風量をかえるには

風量を増やすには  の  を、減らすには  を押す

送風を停止するときは、 を押します。

● 吹き出し口を切りかえるには

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。（→P. 238）

■ 前席からリヤクーラーを ON するには（リヤクーラー装着車）

 を押す

スイッチの作動表示灯が点灯し、リヤクーラーが ON になります。

再度、スイッチを押すとスイッチの作動表示灯が消灯し、リヤクーラーが OFF になります。

■ 外気温を表示するには

 を押す

表示部に外気温が表示されます。

設定温度表示にもどすときは、もう一度  を押します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りをとるには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

リヤウインドウデフォグターは、約 15 分間で自動的に OFF になります。

■ 花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に(外気温が低いときは 約 1 分後に)  を押す前のモードにもどります。

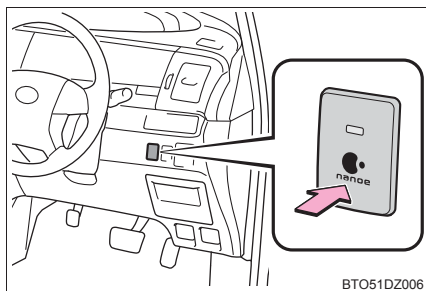
途中で動作を止めるときは、再度  を押すと前のモードにもどります。

■ 「ナノイー」★を使うには

スイッチを押す

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンの送風時に「ナノイー」が作動し、「ナノイー」表示灯(→P. 230)が点灯します。



BTO51DZ006

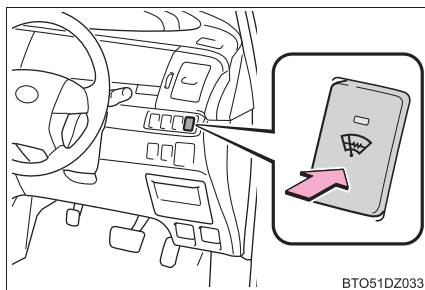
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 熱線式ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

熱線式ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

熱線式ウインドシールドデアイサーは、約 15 分間で自動的に OFF になります。

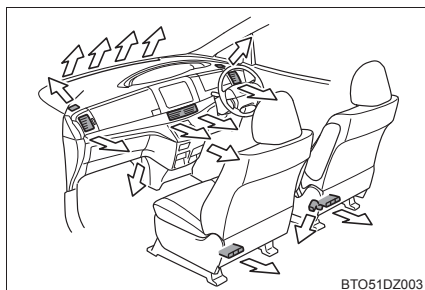


BTO51DZ033

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



BTO51DZ003

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

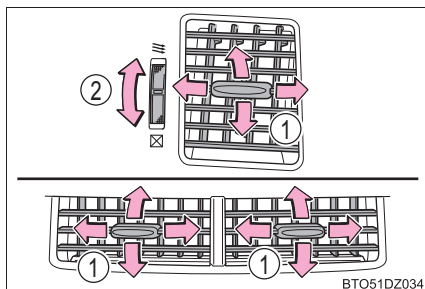
- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

吹き出し口を閉じる：

☒ 側ヘダイヤルをまわす

吹き出し口を開く：

☐ 側ヘダイヤルをまわす



BTO51DZ034

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、



を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。



● を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために次のような作動をすることがあります。

● 内気循環に切りかわらない

● エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はエアコンフィルターで取り除かれています。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき



を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 外気温表示について

● 外気温の測定が正しく行われなときは「—℃」と表示されます。

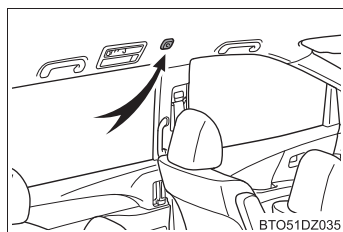
● 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■「ナノイー」※¹について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※²。

- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風のとき
 - ・ 運転席外側吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 後席「ナノイー」装着車は後席の「ナノイー」吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。



※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 311

警告

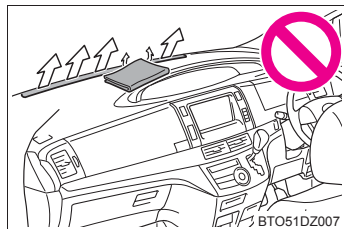
■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リアウインドウデフォグター&ミラーヒーター★／熱線式ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

運転席外側吹き出し口または、後席の「ナノイー」吹き出し口★の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に動かなくなるおそれがあります。

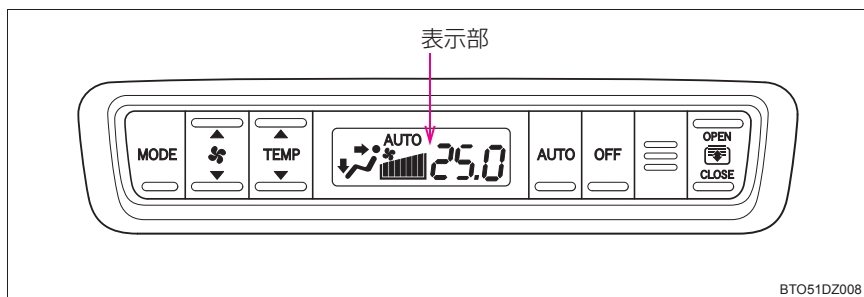
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン（リヤエアコン装着車）

リヤエアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  の ▲ を、下げるときは ▼ を押す

■ 風量を切りかえる

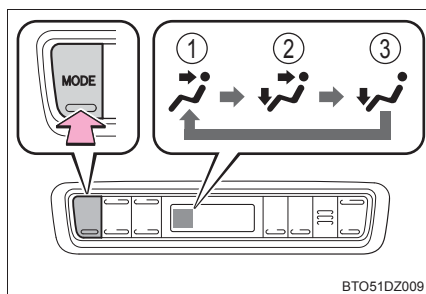
風量を増やすには  の ▲ を、減らすには ▼ を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風



オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチの  を押す

表示部に「AUTO」と表示されます。

- 2 温度を設定する

- 3 ファンを止めたいときは、 を押す

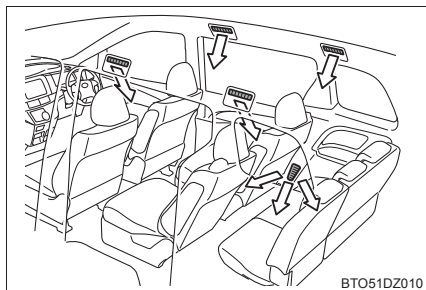
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、表示部の「AUTO」が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

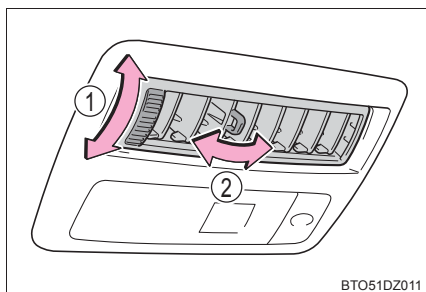


BTO51DZ010

■ 風向き調整と吹き出し口の開閉

- ① 風向き調整
- ② 風向き調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



BTO51DZ011

「ナノイー」を使うには（後席「ナノイー」装着車）

→P. 233

 知識

■ フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作部の  を押すことにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。

■ リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■ 「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→P. 236

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- リヤエアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

 警告

■ 「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→P. 237

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■ 吹き出し口について

暖房で使用するときは、以下のことに注意してください。

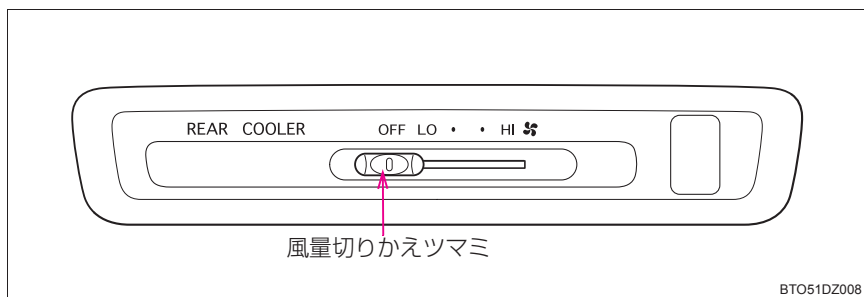
- 吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

■ 「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→P. 237

リヤクーラー（リヤクーラー装着車）

リヤクーラー操作スイッチについて



■ 風量をかえる

- 1 フロントエアコン操作部の  を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON・OFF が切り替わります。

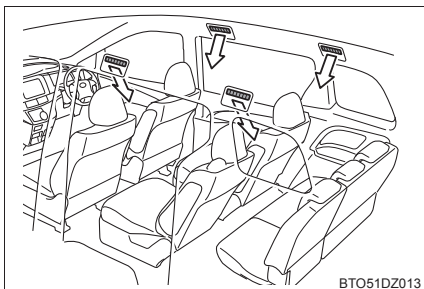
- 2 風量切りかえツマミを右（増）か左（減）へ動かす

フロントエアコン操作部の  を押す、または風量切りかえツマミを OFF にすることでリヤクーラーの作動を停止できます。

風量は 4 段階に調整できます。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

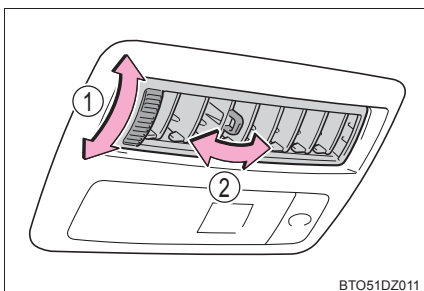


BTO51DZ013

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

- ① 風向きの調整
- ② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっばいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



BTO51DZ011

知識

■ リヤクーラーの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房機能は作動せず、送風のみになります。

■ 換気とリヤクーラーの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- リヤクーラー使用中に、車室内外のさまざまな臭いがリヤクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- リヤクーラー始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

快適温熱シート★

フロントシートを暖めることができます。

操作のしかた

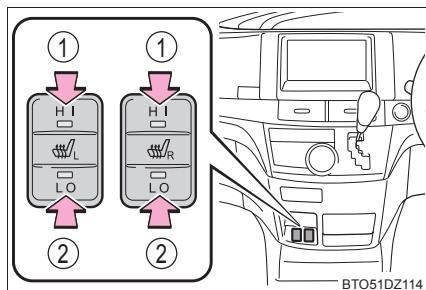
スイッチを押す

- ① HI (強)
- ② LO (弱)

快適温熱シートが作動しているときは、表示灯が点灯します。

R: 運転席側

L: 助手席側



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ HI (強)・LO (弱) について

- HI (強) にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
- LO (弱) にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

⚠ 警告

■ 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたが快適温熱シートにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いのかた
- 疲労の激しいのかた
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

■ 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、快適温熱シートを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

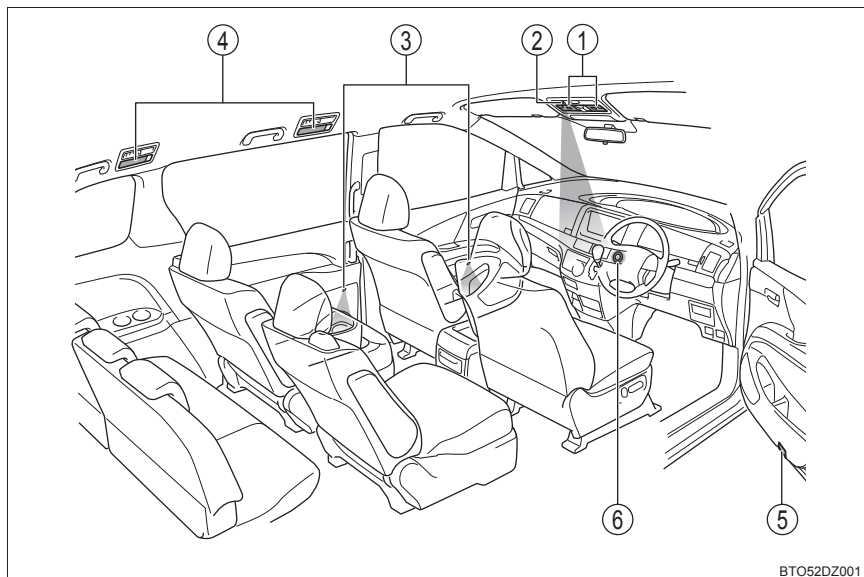
 注意**■ 損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧

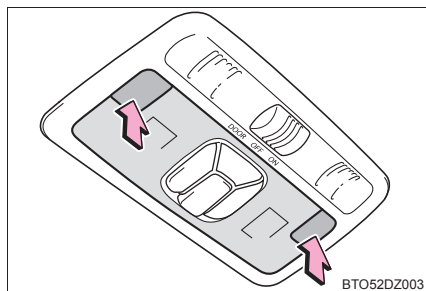


- ① フロントパーソナルランプ
／フロントルームランプ
(→P. 246)
- ② フロントフロアまわり照明
- ③ ドア間接照明★
- ④ リヤパーソナルランプ
(→P. 246)
- ⑤ フロントドアカーテシランプ★
- ⑥ エンジンスイッチ照明

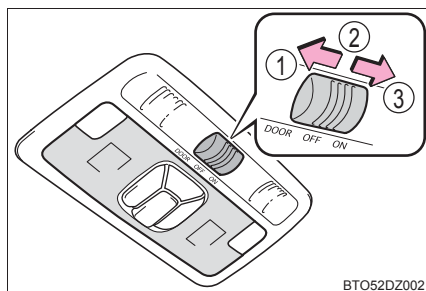
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ**■ フロントパーソナルランプ**

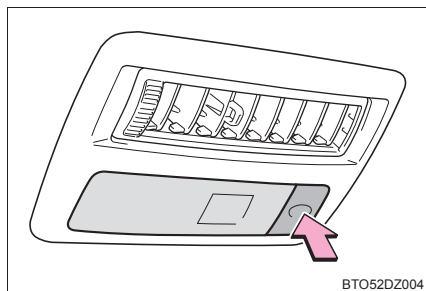
ランプを点灯・消灯する

**■ フロントルームランプ**

- ① ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
- ② ランプを消灯する
- ③ ランプを点灯する

**リヤパーソナルランプ**

ランプを点灯・消灯する



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

フロントルームランプスイッチが「DOOR」にあるとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの状態・シフトレバーの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

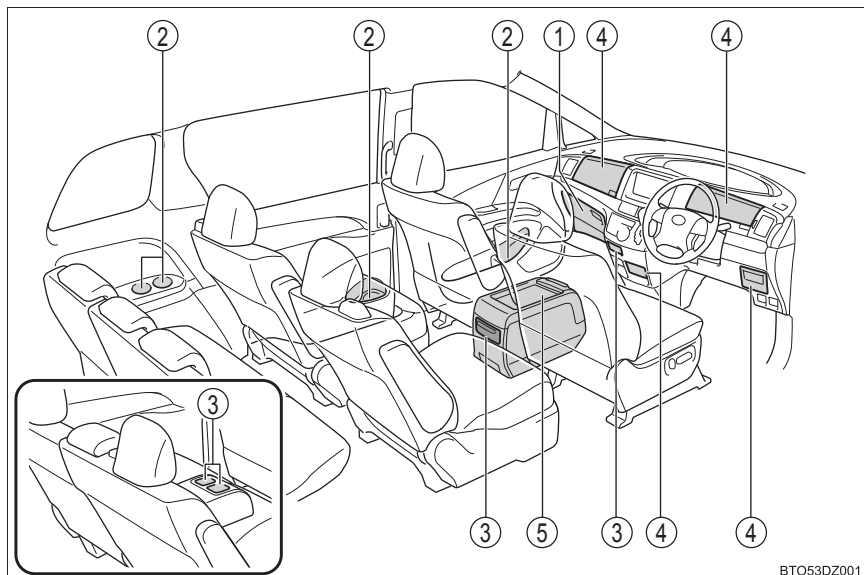
■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 404)

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



BTO53DZ001

- ① グローブボックス (→P. 249) ④ 小物入れ (→P. 249)
 ② ボトルホルダー (→P. 252) ⑤ ロングスライドコンソール★
 ③ カップホルダー (→P. 251) (→P. 253)

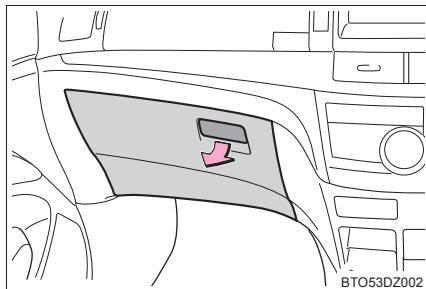
⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

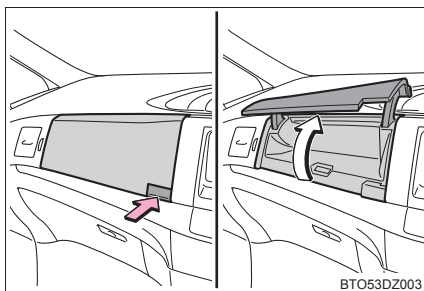
グローブボックス

レバーを引いて開ける



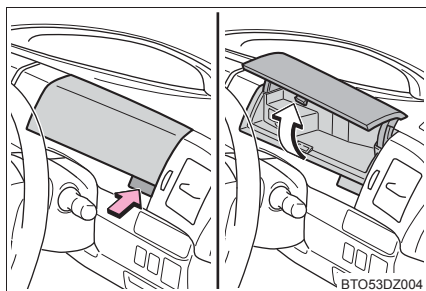
小物入れ

▶ 助手席アッパーボックス



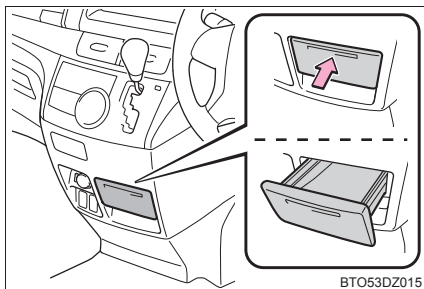
ボタンを押して開ける

▶ 運転席アッパーボックス



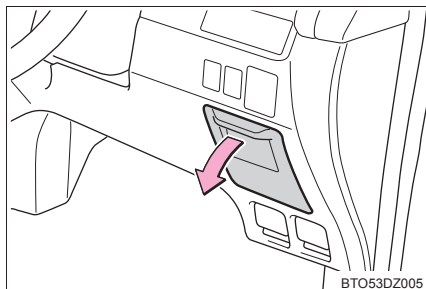
ボタンを押して開ける

▶ コインボックス



コインボックスを押して開ける

▶ 運転席アンダーボックス



ツマミを引いて開ける

 知識

■ 運転席アッパーボックスについて

- ▶ ETC 非装着車
運転席アッパーボックスの中にカードホルダーがあります。
- ▶ ETC 装着車
運転席アッパーボックスの中に ETC ユニットがあります。(→P. 272)

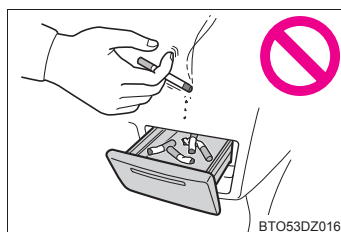
 警告

■ 運転席アッパーボックスについて

走行中にフタの開閉をしないでください。とくにハンドルの中に手を入れてフタを開閉するようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ コインボックスについて

コインボックスは灰皿ではありません。
マッチ・タバコの吸い殻などを入れないでください。

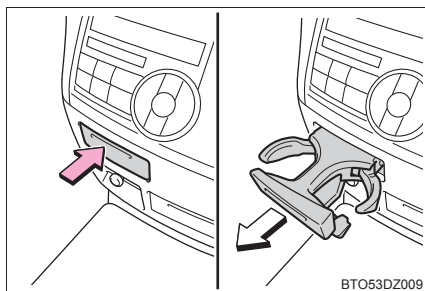
 注意

■ 運転席アッパーボックス内のカードホルダーについて (ETC 非装着車)

カードホルダーには、カード以外のものを入れないでください。カードホルダーが破損するおそれがあります。

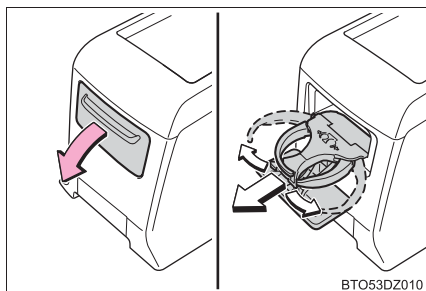
カップホルダー

▶ フロント



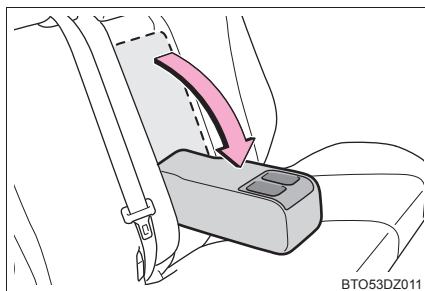
カップホルダーを押して開ける

▶ ロングスライドコンソール内 (7人乗り車)



ツマミを引いて開ける

▶ セカンドシートアームレスト (8人乗り車)



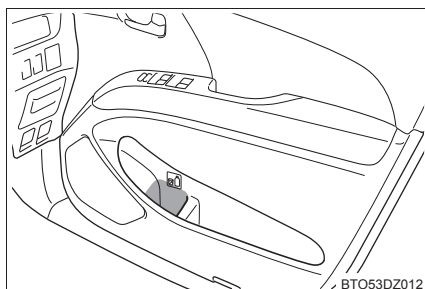
アームレストを倒して使用する

⚠ 警告

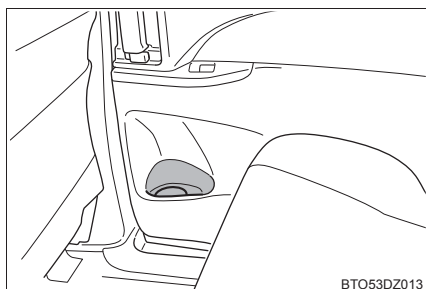
- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

ボトルホルダー

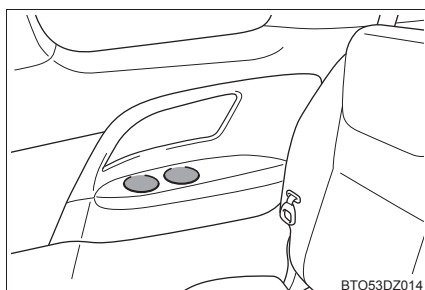
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート

 **知識**

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

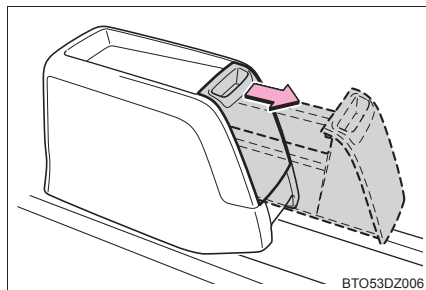
 注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ロングスライドコンソール（7人乗り車）

■ 小物入れ

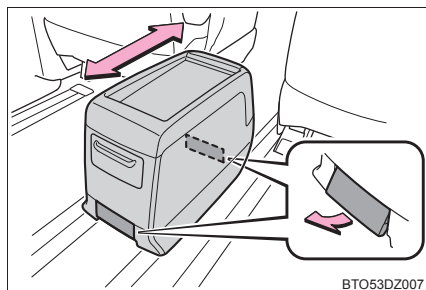
レバーを引いて開ける



■ 前後にスライドする

レバーを引きながら前後にスライドする

スライドさせたあと、ロングスライドコンソールを軽くゆさぶり確実に固定されたことを確認してください。



知識

■ サイドリフトアップシート装着車について

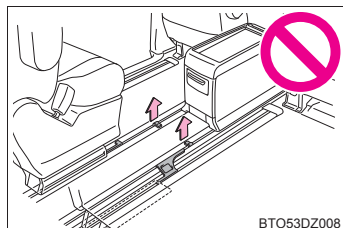
サイドリフトアップシート装着車には、ロングスライドコンソールは装着されません。

警告

走行中はロングスライドコンソールの上部にものを置かないでください。急ブレーキをかけたときなどにものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

- ロングスライドコンソールのスライド操作時に、ロングスライドコンソール内カップホルダーのカップや飲料缶のジュースなどをこぼさないように注意してください。
- セカンドシート前側のストッパーは、取りはずすことができません。無理に取りはざそうとすると、レール部やストッパーなどが破損し、もとに戻せなくなるおそれがあります。

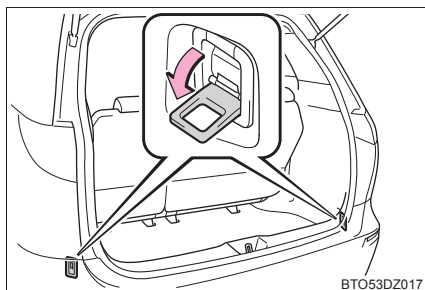


ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。



BTO53DZ017

⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

停止表示板収納スペース

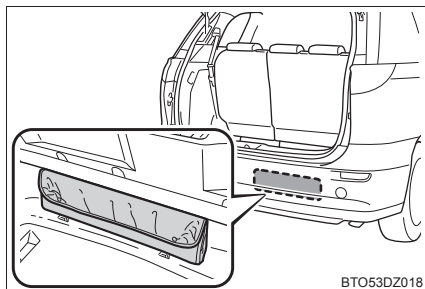
(販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車を除く)

■ 停止表示板※を収納する

※ 停止表示板はトヨタ販売店で購入することができます。

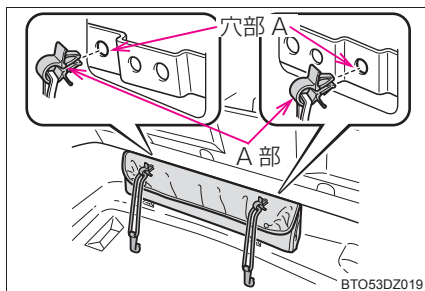
- 1 停止表示板を収納スペースに置く

収納スペースはラゲージルーム内うしろ側のくぼみにあります。

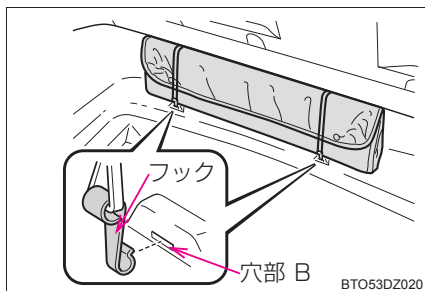


BTO53DZ018

- 2** 固定用ストラップの A 部を穴部 A に挿し込む
- ・ 固定用ストラップは工具袋の中に入っています。
 - ・ A 部を挿し込む穴を間違えないように注意してください。



- 3** 固定用ストラップのフックを穴部 B に引っ掛ける



知識

■ 停止表示板の収納について

停止表示板のケースの大きさ、形によっては収納できない場合があります。

■ 固定用ストラップについて

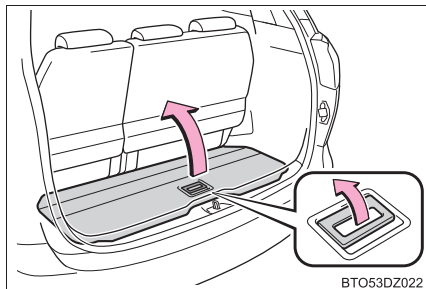
固定用ストラップは工具袋（→P. 301）の中にあります。また、使用しないときは工具袋にもどしてください。

警告

停止表示板収納スペースに停止表示板を収納したときは、停止表示板が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに停止表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

デッキボード★

デッキボードを取りはずすときは、
レバーを引き持ち上げる

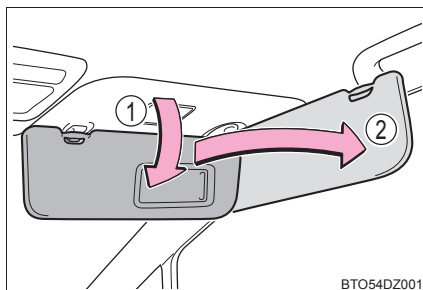


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

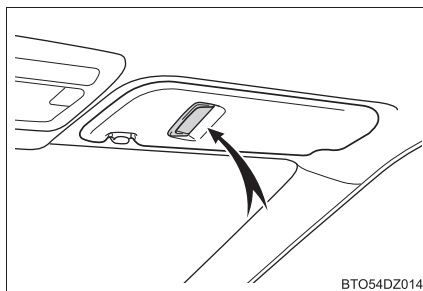
その他の室内装備

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



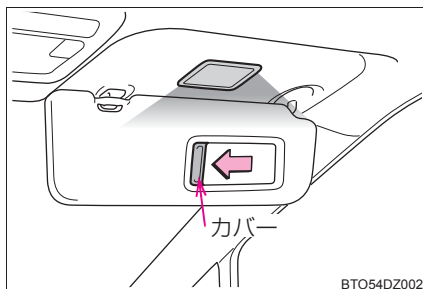
■ チケットホルダー（運転席）



■ バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティランプが点灯します。

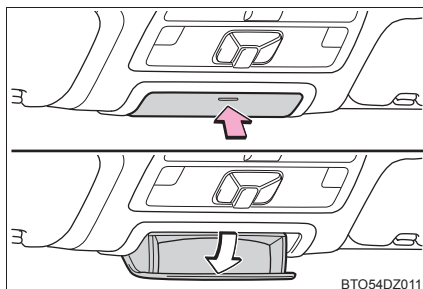


⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

後席確認ミラー★

押して開ける

**⚠ 警告**

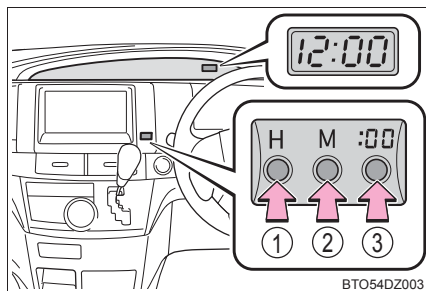
後席確認ミラーは、走行中に使用しないでください。走行中に使用するとわき見運転となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする※ (: 00)
※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■時刻が表示されるとき

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリソケット／アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリソケット：

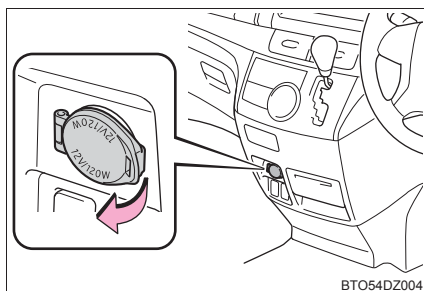
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品

アクセサリコンセント：

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリソケット

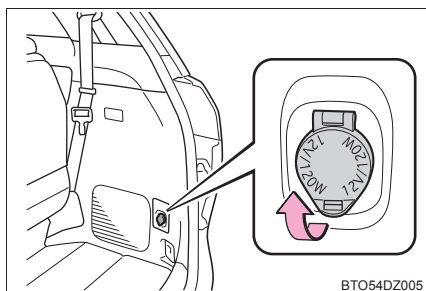
▶ インパネ内



BTO54DZ004

フタを開けて使用する

▶ ラゲージルーム内

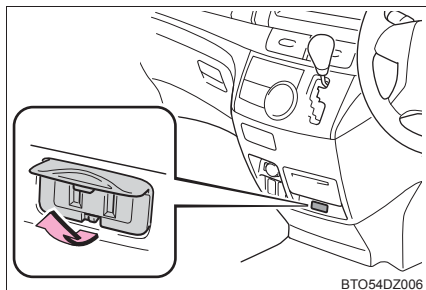


BTO54DZ005

フタを開けて使用する

■ アクセサリコンセント

フタを開けて使用する



BTO54DZ006

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ アクセサリーコンセントについて

- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

- 挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、AC アダプターが脱落するおそれがあります。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

アームレスト

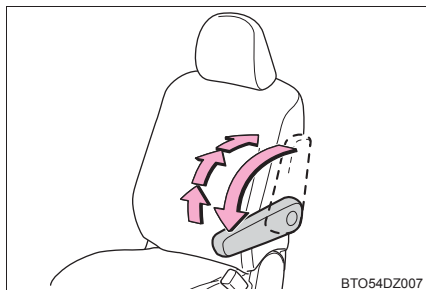
■ フロントシート

アームレストを一度いちばん上まで上げ、その後いちばん下まで下げる。

好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

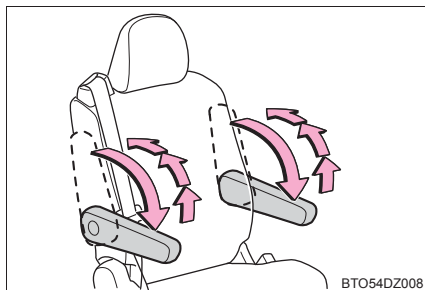
アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

下げたいときは一度いちばん上まで上げてください。



■ セカンドシート

▶ 7人乗り車



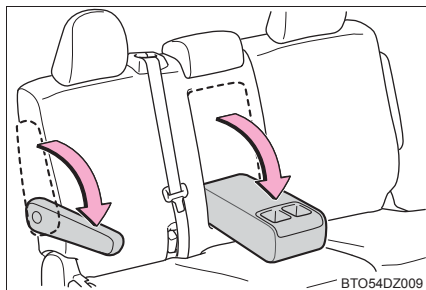
アームレストを一度いちばん上まで上げ、その後いちばん下まで下げる。

好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

下げたいときは一度いちばん上まで上げてください。

▶ 8人乗り車



手前に倒して使用します。

⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

買い物フック

運転席シートのうしろにあります。



⚠ 警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

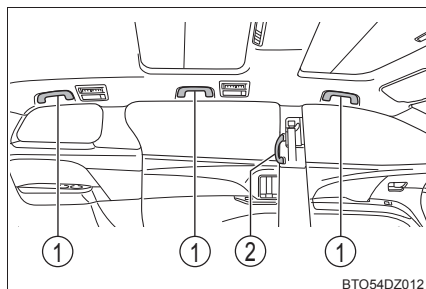
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（回転式）

② アシストグリップ（固定式）



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

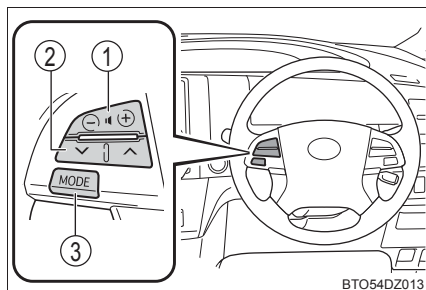
損傷を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

- ① 音量を調整する
- ② CD、ラジオなどの操作
- ③ 電源を入れる、モードの切りかえ



■ 電源を入れる

 を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより “ピッ” と音が鳴ることがあります。

■ モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、 を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

■ 音量を調整する

音量を大きくするには  の “+” 側を、小さくするときは “-” 側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

⚠ 警告

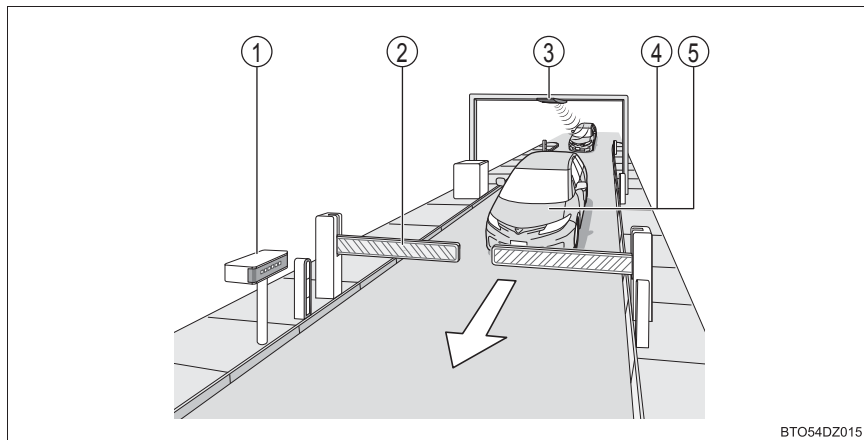
運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

ETC システム★

機能概要

ETC (Electronic Toll Collection) システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。

路側無線装置と車両の ETC ユニットとの間で通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



① 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
・ 進入車両に対し、メッセージを表示します。

② 発進制御装置（開閉バー）

料金所の ETC レーンに必要なに応じて設置されています。
・ 通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

③ 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。
・ 料金精算のため、車両の ETC ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

④ ETC ユニット

ETC カードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

⑤ ETC カード

ETC ユニットに装着する IC チップを搭載した ETC ユニット用カードです。
・ IC チップに料金精算に必要なデータが保持されています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC ユニットの操作を極力しないでください。

走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

 注意

■ **その他のサービス（スマート IC など）をご利用時は**

その他、ETC ユニットを用いたサービス（スマート IC 等）には、様々な制約があります。

サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

■ **ETC カードを挿入する前に**

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。

ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。お手持ちの ETC カードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

■ **ETC カードを挿入したあとに**

- ETCを利用する際は、あらかじめETCカードが確実にETCユニットに挿入されていることと、ETC ユニットが正常に作動していることを確認してください。開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因となる場合があります。
- ETC カード接点に手の脂や化粧品等の汚れが付着していると、ETC ユニットが ETC カードを認証できない場合があります。ETC カード接点のクリーニング方法についてはトヨタ販売店にお問い合わせ下さい。

 注意

■ 料金所を通過するときは

- ETC レーンの進入は、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。
- ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC ユニットと路側無線装置との通信、あるいは ETC ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。
- ETC レーンで、開閉バーが開かない等の理由で停止された場合には、危険ですので絶対に車をバックさせないでください。料金所での案内、または係員へお知らせした後、その案内にしたがってください。
- うっかり ETC カードを ETC ユニットに挿入し忘れて ETC 車線を通過された場合などは、速やかに、当該道路を管理する道路事業者（高速道路会社など）にご通行の状況を連絡してください。
- もし、入口料金所の ETC 車線で通信エラー等により、通行券を受け取られた場合には、出口料金所での料金のお支払いは、係員のいる車線（一般車線又は混在車線）で、一旦停車して、ETC カードと通行券を係員にお渡しください。
- 料金をお支払いいただく料金所で異常が発生した場合は、料金所での案内、又は係員へお知らせ後、その案内に従ってください。
- 入口料金所を ETC で通行した場合で、出口料金所で ETC 車線がご利用できないとき、あるいは設置されていないときは、一旦停車して ETC カードを係員にお渡しください。
- 通行料金の請求を受ける料金所で、ETC 車線が閉鎖されている場合[※]は、係員のいる車線（一般車線又は混在車線）で ETC カードでの支払いが可能です。無理な車線変更は危険ですので、おやめください。
[※] ETC 車線の機器の点検等により、ETC 車線を閉鎖している場合がありますのでご注意ください。
- 有料道路の利用開始から利用終了までは、同一の ETC カードを継続してご使用ください。
料金所以外にも ETC アンテナが設置されている箇所があり、ETC カードには走行中、通行料金の計算に必要な情報が記録されます。途中でカードを入れかえると正しく料金が計算されない場合があります。

 注意**■スマート IC について**

- スマート IC は、ETC 専用インターチェンジです。
所定の方法で車両に取り付け・セットアップされた ETC ユニットに、有効な ETC カードを確実に挿入し、ETC システムをご利用可能な場合に通行することができます。
- 運営時間、出入方向及び対象車種等に制約がありますのでご注意ください。
- スマート IC では、車が停止した状態で通信のやりとりが行われ、開閉バーが開くシステムとなっておりますので、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。なお、一旦停止してもバーが開かない場合には、車線に設置されたインターホン等で係員を呼び、案内に従ってください。
- 通行止めなどが実施された場合や道路を管理するうえで必要な場合、やむを得ず、予告なく出入口が閉鎖されることがあります。この場合、最寄りの IC をご利用ください。

 知識**■領収書について**

領収書はその場では発行されません。通行時、その場で証明が必要な場合は係員のいる車線（一般車線又は混在車線）で一旦停止のうえ、ETC カードで料金清算し通常の利用明細書をもらってください。

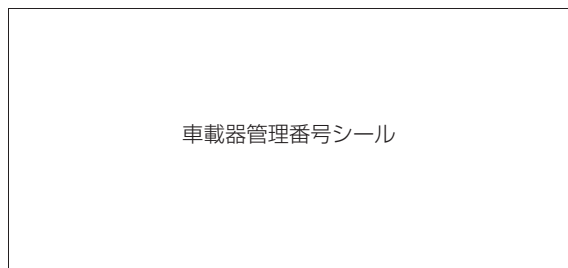
現在、ETC で無線走行されたときの利用証明書を、インターネットによりお客様のプリンタから印刷できます。詳細は道路事業者にお問い合わせ下さい。

■均一料金制の有料道路について

均一料金制の有料道路では、出口部に設置された路側無線装置（フリーフローシステム）との通信により料金が払い戻される場合があるため、出口通過まで ETC ユニットに ETC カードを挿入しておく必要があります。

■ 車載器管理番号について

車載器管理番号は、19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受ける場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。『ETC車載器セットアップ申込書・証明書（お客様保存用）』を大切に保管していただくとともに、車載器管理番号シールを下記に貼り、保管してください。



車載器管理番号シールを貼って大切に保管してください。

■ 障がい者割引制度について

ETC無線走行で障がい者割引の適用を受けるには、事前に福祉事務所等での手続きと、併せて有料道路事業者が設置する窓口への登録が必要になります。両方の手続きがなされていない場合、ETC無線走行での障がい者割引適用がされません。

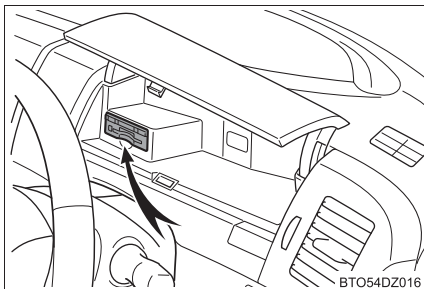
ETC ユニットについて

本書では、メーカーオプションの ETC ユニットの操作のみを説明しています。この ETC ユニットのメーカーオプションのナビゲーションシステムとセットで装着された方は、ナビゲーションシステムの画面で、現在の ETC システムの状態、ETC 登録情報や履歴の表示、ETC の設定変更などができます。詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■ 取り付け位置

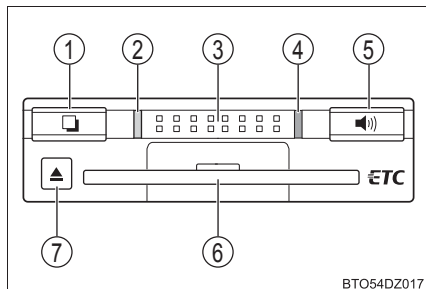
ETC ユニットの、運転席アッパーボックス (→P. 249) の中にあります。

初めて ETC システムをご利用される前に、ETC ユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。(セットアップ手続きには別途費用が発生します)



■ 各部の名称

- ① 利用履歴確認スイッチ
- ② 緑ランプ
- ③ スピーカー部
- ④ 橙ランプ
- ⑤ 音量調整スイッチ
- ⑥ ETC カード挿入口
- ⑦ イジェクトスイッチ



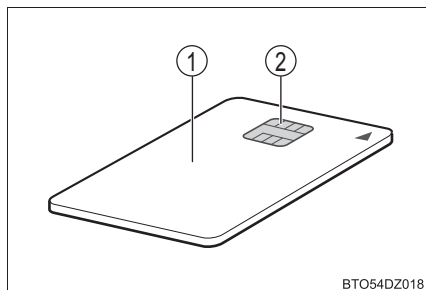
■ ETC アンテナ

インストルメントパネル内中央付近にあります。

ETC カードについて

ETC カードはお客様にて、別途お申し込みが必要です。

- ① ETC カード
- ② 金属端子 (IC チップ)



⚠ 注意

■ ETC 取扱い上の注意

- 路側無線装置との通信の妨げにならないよう、ETC ユニットのアンテナ上方には物を置かないでください。
- ETC ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC ユニットに衝撃を与えないでください。ETC ユニットが、故障・破損するおそれがあります。
- 濡れた手で ETC ユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- よごれたときは、柔らかい乾いた布でよごれをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETC ユニットが変形・故障する場合があります。
- 車両 1 台に対して複数の ETC ユニットまたは、DSRC ユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

■ ETC カードについて

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- ETC カードには有効期限があります。
有効期限内の ETC カードをご利用ください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子 (IC チップ) がよごれている ETC カードは使用しないでください。
ETC ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

 知識

■ 作動条件について

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ 製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。

また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■ 車のナンバープレートを変更する場合について

お車のナンバープレートが変更になった場合やお車をけん引可能な車両に改造した場合、再度 ETC ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスの汚れなどについて

フロントウインドウガラスのよごれや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。

ETC カードを挿入する

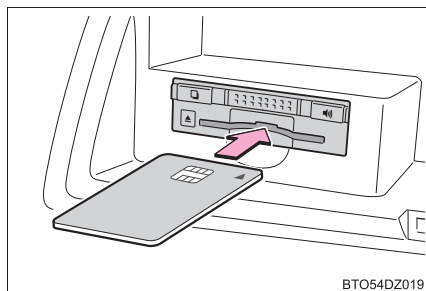
1 エンジンを開始する

ETC ユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。

2 運転席アッパーボックスのフタを開けて、ETCカードを挿入する

図のように正しい向きでしっかりと挿し込みます。

「ピッ」とブザー音が出力され、緑ランプが点滅します。



BTO54DZ019

3 ETC カードが認証される

▶ 正しく認証された場合

音声案内※	「ポーン ETC カードが挿入されました 有効期限は〇〇〇〇年〇〇月です」
ETC ユニット	緑ランプが点灯したまま

ETC システムは、この状態でご利用ください。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、エンジン始動前もしくはエンジン始動後すぐに ETC カードを挿入しても、音声案内および画面表示されない場合があります。

▶ 正しく認証されなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→P. 283）を音声でお知らせします。

4 運転席アッパーボックスのフタを閉じる

ETC カードを抜くには

- 1 安全な場所に停車する
- 2 運転席アッパーボックスのフタを開ける
- 3 エンジンを停止させる前に、ETC ユニットの  を押す

ETC カードを抜く前に、エンジンを停止すると、カード抜き忘れをお知らせする音声案内が、ETC ユニットより出力されます。(→ P. 278)

- 4 ETC ユニットから ETC カードを抜く

■ 有効期限切れ通知

ETCと連動するナビゲーションシステム※¹を装着されている場合、ETCカードを挿入したとき、またはETCカード挿入状態でエンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モード にすると、下表のように有効期限切れ通知が行われます。

ETC カードの状態	音声案内※ ²	画面表示※ ²
有効期限まで1ヶ月以内の場合	「ポーン ETC カードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」	「ETCカードの有効期限は今月末です カードをお確かめください」
有効期限切れの場合	「ポーン ETC カードの有効期限が切れています」	「ETCカードの有効期限が切れています」

※¹ 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

※² エンジン始動前もしくはエンジン始動後すぐにETCカードを挿入すると、音声案内および画面表示がされないことがあります。

 注意

- ETC カードの有効期限案内機能は、ETC カードの有効期限を確認するための補助手段として使用してください。ETC を使用する前は、必ず ETC カードに記載されている有効期限を確認してください。
- ETC カードは必ずエンジン始動後に差し込んでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。
- 緑ランプが点滅中は ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。
- ETC ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。状況に応じて、次のように対応してください。
 - ・ 統一エラーコード〔01 ～ 07〕が画面に表示された場合は、「統一エラーコード一覧」(→ P. 283)に記載されている対応方法にしたがってください。
 - ・ エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラー表示が続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ ETC カード挿入時にエラーが発生した場合は、いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して再度差し込んでみてください。それでもエラー表示が続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 有効期限切れ ETC カードでは開閉バーは開きません。有効期限内の ETC カードをご利用ください。
- ETC カードを放置してお車から離れないでください。車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

 知識

■ ETC カードの挿入について

- 橙ランプが点灯しているときは、ETC ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
- 有効期限切れや解約済みの ETC カードを ETC ユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■ カード挿し忘れ警告／有効期限通知について

カード挿し忘れ警告／有効期限通知の音声を出力しないようにすることもできます。

音声の出力をさせない場合は、車を停止させ、ETC ユニットに ETC カードが挿入されていない状態で、 と  を同時に約 2 秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／しない」が切り替わり、選択した設定が保持され、設定内容が音声通知されます。なお、メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、ETC 設定画面からでも行えます。詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■ カードの取り扱いについて

- ETC カードを放置してお車から離れないでください。ETC カードが盗難にあうおそれがあります。
- ETC カードを挿入しているときは、盗難防止のため運転席アッパーボックスを閉めておいてください。
- ETC カードを紛失してしまった場合は、すみやかに ETC カード発行会社に連絡してください。

■ カード抜き忘れ警告について

- ETC カードを抜く前に、エンジンを停止すると、ETC ユニットから「**ピー カードが残っています**」と音声が出力されます。
- カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。
音声の出力をさせない場合は、車を停止させ、ETC ユニットに ETC カードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、 と  を同時に約 2 秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／しない」が切り替わり、選択した設定が保持され、設定内容が音声通知されます。なお、メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、ETC 設定画面からでも行えます。詳しくは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

ETC 利用中のランプ表示と通知音について

車両走行中は、状況に応じて ETC ユニットのランプ表示がかわり、併せて音で通知します。

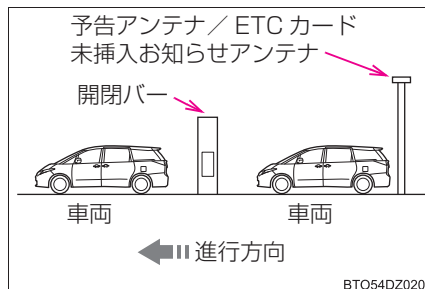
■ ETC ゲート（入口）・検札所・予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したとき

▶ 通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※1/※2	「ピンポン」

※1 ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では通知されません。



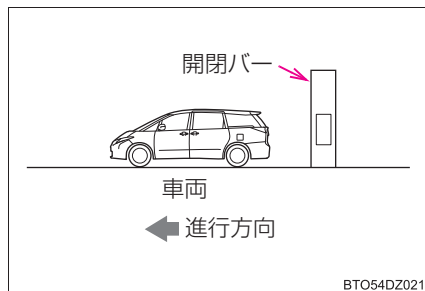
▶ 通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→P. 283）を音声でお知らせします。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過したとき

▶ 通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	「ピンポン」
音声案内	通行料金を通知



▶ 通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→P. 283）を音声でお知らせします。

 注意

- ETC ゲート進入時は、十分減速してください。進入速度が速すぎると、ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
- ETC ゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
- ETC ゲート、検札所、予告アンテナ、ETC カード未挿入お知らせアンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。
- 必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。

 知識**■ 通行料金の音声案内について**

- 通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- 他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

■ ゲート通過時の通知について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1 つの ETC ゲートで2回通知されることがあります。

■ 道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ゲートを利用できるかどうかを ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ユニットに正しく ETC カードが挿入されていない場合に、ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ ETC カードを挿入しないまま走行したときは

ETC カードを挿入していないときに予告アンテナや、ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「**ビー ETC をご利用できません※**」と案内されます。

これは ETC システムが利用できないことをお知らせするもので、ETC ユニットが故障したわけではありません。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、「**ポーン ETC ゲートを通過できません**」または、「**ポーン ETC カードが挿入されていません**」という音声になります。

利用履歴の確認について

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。

ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯している状態で停車中に利用できます。

1 ETC ユニットの を押す

最新の履歴が案内されます。

2 履歴をさかのぼるときは、再度 ETC ユニットの を押す

押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。

最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。

案内終了後、約 1 秒以上たってから  を押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

注意

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC レーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ 利用履歴について

- 利用履歴は ETC カードに記録されるため、記録件数は使用する ETC カードにより異なります。(最大 100 件)
- 利用履歴は消去することができません。ただし、利用履歴の最大記録件数を越えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

音量調整について

ETC ユニットから出力される音声案内の音量を調整するには、ETC ユニットの  を押す

押すごとに、4 段階に調整することができます。

音量	音声案内
1 ～ 4	「音量〇〇です」
0	「音声案内を中止します」

知識

■ 音量調整について

- 音量調整は、以下のような案内に有効です。
 - ・ 未セットアップ状態の通知
 - ・ エラー発生時のブザー音
 - ・ カード抜き忘れ警告
 - ・ 利用履歴の確認
 - ・ 音量調整時の案内
- 音声案内を中止（音量 0）に設定してあっても、エラー発生時には音量 1 で出力されます。
- ETC ユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ETC ユニットの消音（音量 0）にすると出力されません。

ETC ユニットでのセットアップ情報の確認

ETC ユニットのセットアップ情報を音声で確認できます。

- カード未挿入状態で ETC ユニットの電源を入れ、緑ランプと橙ランプが点灯中  を押し続けると、セットアップ情報通知モードが起動します。
- セットアップ情報通知モードに入ると車載器管理番号を通知します。その後、 を押すごとに、型式登録番号、型式、セットアップカード発行年月日を順に通知します。セットアップカード発行年月日の通知の後に  を押すと車載器管理番号の通知に戻ります。
- セットアップ情報通知モード起動後は、以下の操作を行うことによりモード状態を抜け、ETC ユニットは通常の動作となります。
 - ・ ETC カード挿入
 - ・ エンジンスイッチの操作
 - ・ セットアップ情報通知の発話終了から 1 分後

統一エラーコード一覧

ETC の利用中にエラーが発生したときは、問題の概要とともに、統一エラーコード（エラー 01 ～ 07）を音声でお知らせします。

この場合は、以下の表にもとづき処置をしてください。

（例）エラー 01 が発生したときは、次のように音声で案内されます。

音声案内：「ピーッ カードが挿入されていません」※

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、「**ポーン ETC カードが挿入されていません**」または、「**ポーン ETC ゲートを通過できません**」という音声で車両のスピーカーから通知されます。併せてナビゲーション画面に「**ETC カードが挿入されていません 01**」または、「**ETC ゲートを通過できません 01**」と表示されます。

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ETC カード 挿入異常	- ETC カードが通信時に挿入されていない - ETC カードの挿入状態が悪い	ETC カードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	- ETC カードへの読出し、書込みエラー - ETC カードと ETC ユニットの接点不良（ETC カードアクセス中の瞬断） - 読出し中、書込み中カードのイジェクト	▶ ETC カード挿入時 挿入された ETC カードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。それでも異常のときは、トヨタ販売店へお問い合わせください。 ▶ ETC ゲート通過前 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 ▶ ETC ゲート通過後 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC/一般 共用レーンを含む）へ進入してください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
03	ETC カード 異常	・ ETC カードが故障している ・ ETC カード以外のカードが挿入され、通信しない ・ ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、トヨタ販売店へお問い合わせください。
04	ETC ユニット 故障	自己診断結果により、ETC ユニットが故障していると判断された	再度エンジンを始動してみてください。それでも異常のときは、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ETC カード 情報の異常	・ ETC カードとの認証エラー ・ ETC カード以外の IC カードが挿入 ・ 認証中 ETC カードのイジェクト ・ 未セットアップ状態での ETC カードの挿入	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 それでも異常のときは、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ETC ユニット 情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ETC ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	
	アンテナ接続 異常	ETC アンテナの結線が外れている場合	カードを抜くと異常警告が止まります。ETC の利用を中止して、トヨタ販売店へお問い合わせください。

 知識

■ 統一エラーコードについて

- ETC カード未挿入お知らせアンテナなどと通信した際に、統一エラーコード〔01〕と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。
- ETC ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコードが〔01〕もしくは〔07〕と表示されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。
- ETC と連動するナビゲーションシステムを装着されている場合、ETC 音声案内を「しない」に設定したときは、エラーが発生しても音声案内は出力されません。ETC ユニットからブザー音のみが出力されます。

■ ETC ゲート通過後のエラー発生時は

- ETCゲート通過後にエラーが発生した場合、ETCカードを抜くとエラー音が停止します。
この場合、再度 ETC カードを挿入すると、「ポーン ETC カードが挿入されました」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。

記録されているエラーコードを確認するには

ETC ユニットは、最後に発生した統一エラーコードを記録しています。

1 ETC カードが挿入されている場合は、ETC カードを抜く

2 ETC ユニットの  を約 2 秒以上押す

最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....288

内装の手入れ.....291

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット294

ガレージジャッキ296

ウォッシャー液の補充297

タイヤについて298

タイヤの交換.....301

エアコンフィルターの交換 ...311

電子キーの電池交換314

ヒューズの点検・交換316

電球（バルブ）の交換319

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ アルミホイール★

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■大型ムーンルーフの清掃（大型ムーンルーフ装着車）

次のことをお守りください。お守りいただかないと、大型ムーンルーフの表面を損傷するおそれがあります。

- 洗車前には、あらかじめ大型ムーンルーフ表面についたほこりや、泥・砂などの異物を水で取り除いておく
- 硬いブラシやたわし、先のとがったものなどは使用せず、やわらかい布・スポンジなどを使って清掃する
- 汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ガラスコート・カーワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類・研磨剤の入ったものは使用しない
洗車後は、洗剤が残らないように水を十分にかけて洗い流してください。
- 鉄粉が付着したときは、乾いた布でこすらず、水を流しながら軽く拭きとるようにして取り除く

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス★について

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P. 32)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

**■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
(LKA[レーンキーピングアシスト]装着車)**

白線認識用カメラ(→P. 200)にさわらないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LKA(レーンキーピングアシスト)の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■ バックドアガラスやクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線・アンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパーUVカットガラス★を清掃するときは

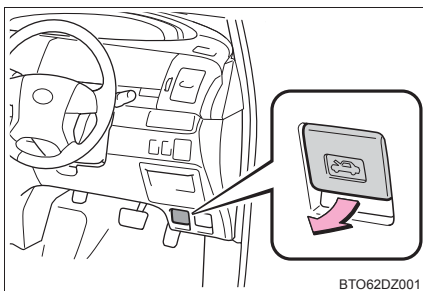
フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品(ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど)を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

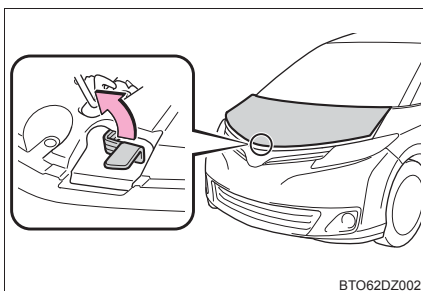
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

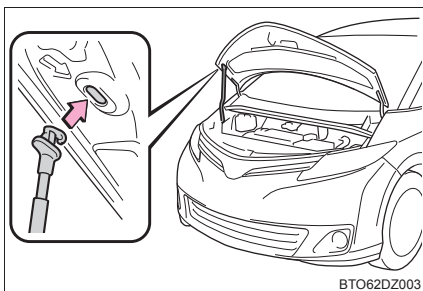
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



■ 閉め方

- 1 ボンネットステーをはずす
- 2 ボンネットを約 20 ～ 25cm の位置から静かに落として閉める
- 3 ロックされていることを確認する

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

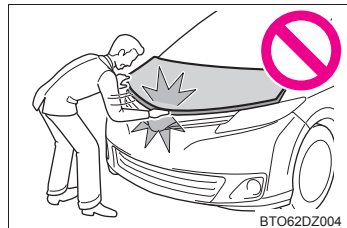
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

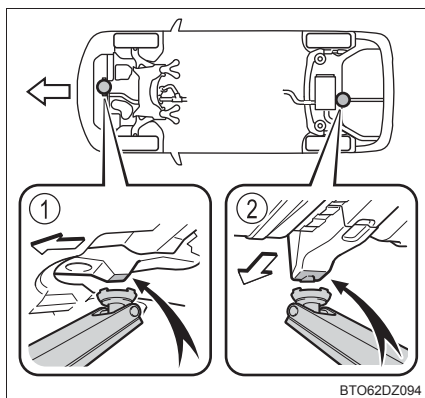
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

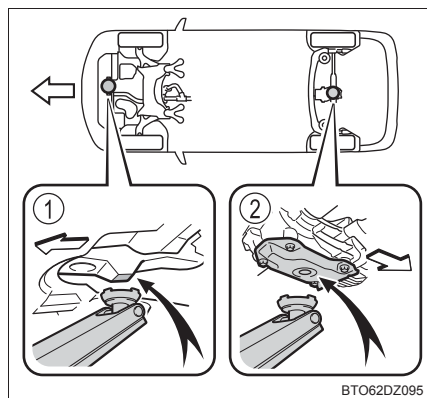
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

▶ FF 車



① フロント側

▶ 4WD 車

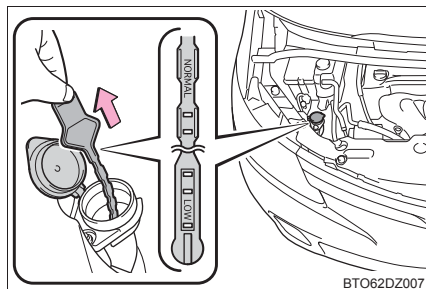


② リヤ側

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。

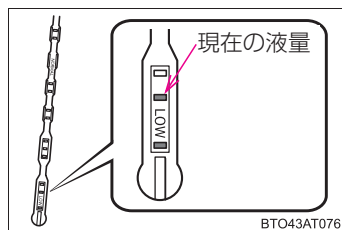


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴より下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

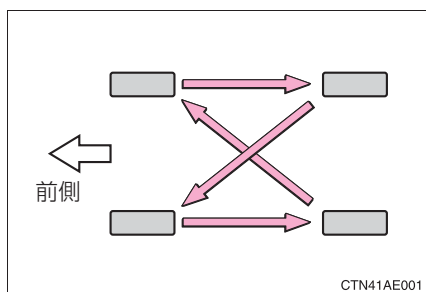
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

■ タイヤ空気圧の数値

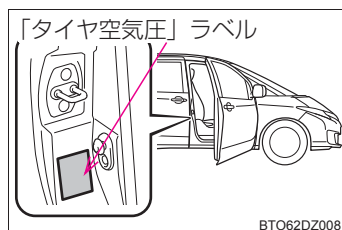
タイヤサイズ	ホイール サイズ	空気圧※ ¹ kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
215 / 60R16 95H	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)	
215 / 55R17 93V	17 × 7 J		
215 / 60R17 96H			
225 / 50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	

スペアタイヤ※² : 420kPa (4.2kg/cm²) ※¹

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※¹ タイヤが冷えているときの空気圧

※² 販売店装着オプション



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

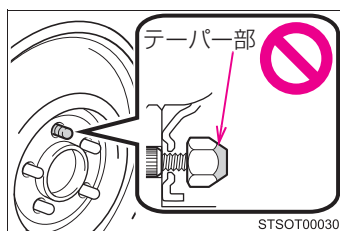
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。

テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

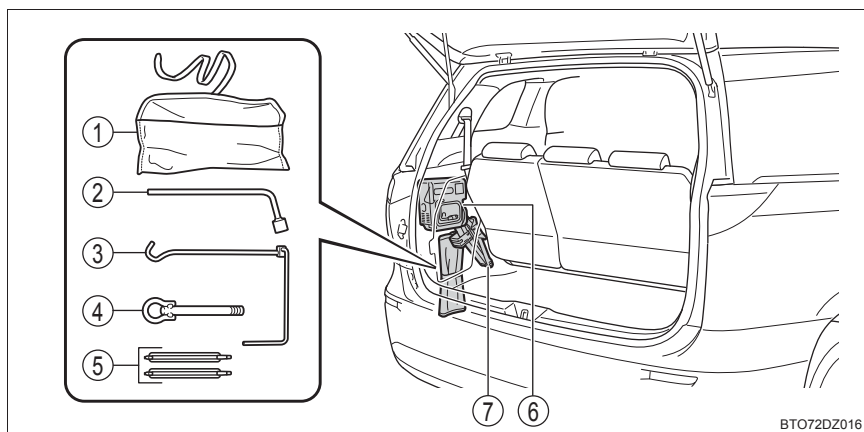
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキの位置



- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ① 工具袋 | ⑤ 停止表示板固定用ストラップ
(→P. 256) |
| ② ホイールナットレンチ | ⑥ タイヤパンク応急修理キット
(→P. 368) |
| ③ ジャッキハンドル | ⑦ ジャッキ |
| ④ けん引フック (→P. 351) | |

 警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

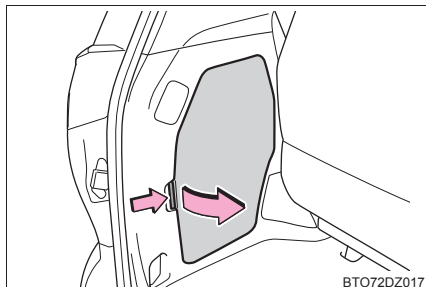
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使
用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に
使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけ
てから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1** ラゲージルーム左側のカバーをはずす

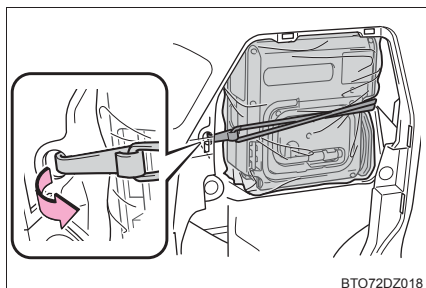
ツマミを押しながら、カバーを手前に引いてはずします。



BTO72DZ017

- 2** タイヤパンク応急修理キットを取り出す

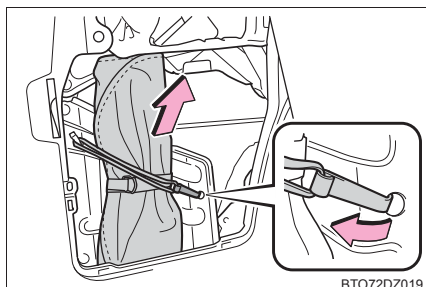
フックをはずして、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



BTO72DZ018

- 3** 工具袋を取り出す

フックをはずして、工具袋を取り出します。



BTO72DZ019

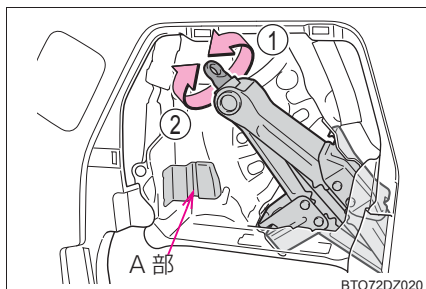
- 4** ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

- ・ A 部で指などをけがしないように注意してください。

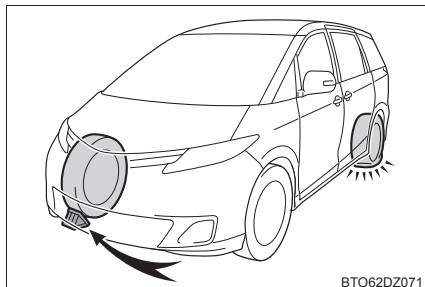


BTO72DZ020

タイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

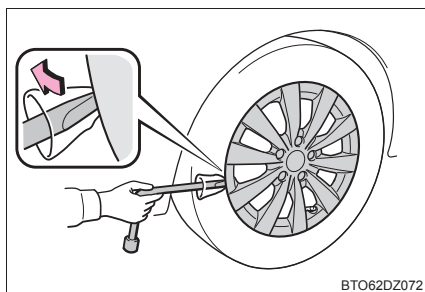


BTO62DZ071

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

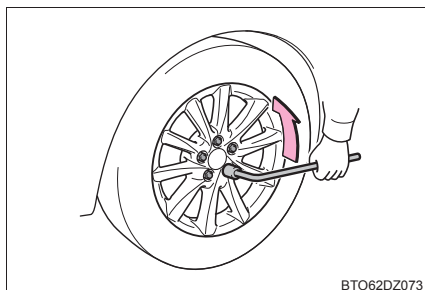
2 フルホイールキャップをはずす (スチールホイールのみ)

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



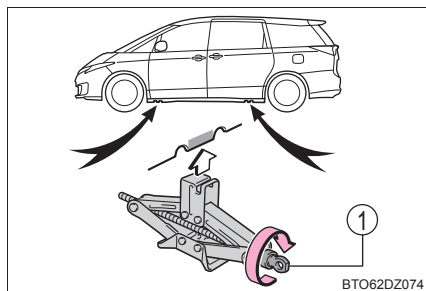
BTO62DZ072

3 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる

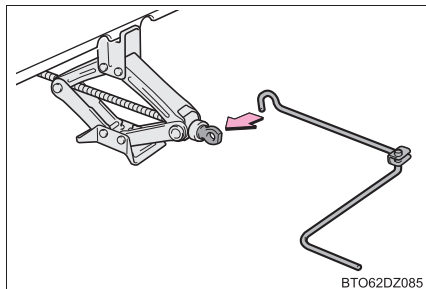


BTO62DZ073

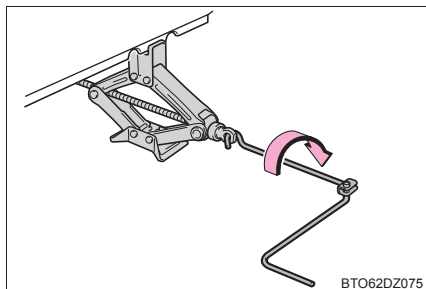
- 4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



- 5 ジャッキにジャッキハンドルを組み付ける

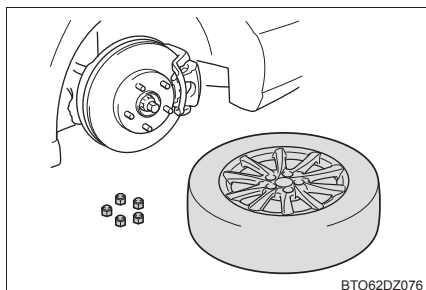


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



 警告**■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 300)

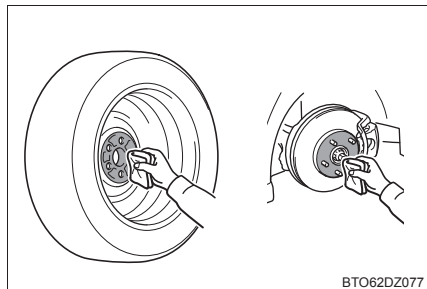
■ パワースライドドア・パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換をする際は、パワースライドドアメインスイッチ (→P. 82)・パワーバックドアメインスイッチ (→P. 93) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ・パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア・バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

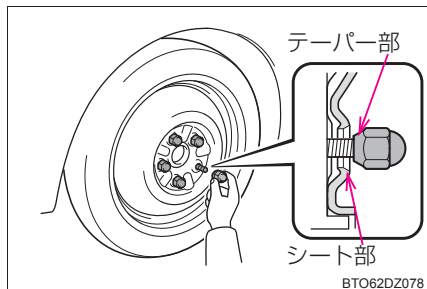
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



BTO62DZ077

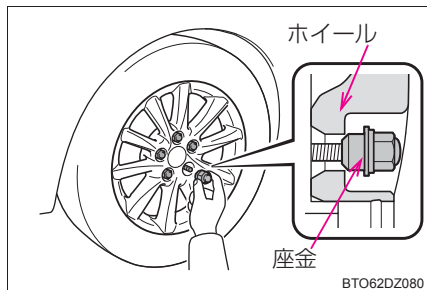
- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



BTO62DZ078

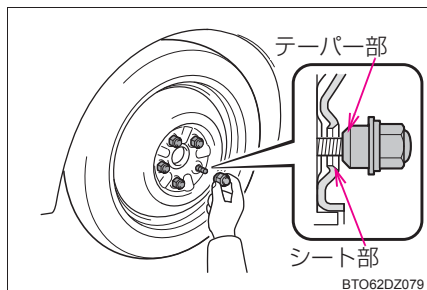
アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



BTO62DZ080

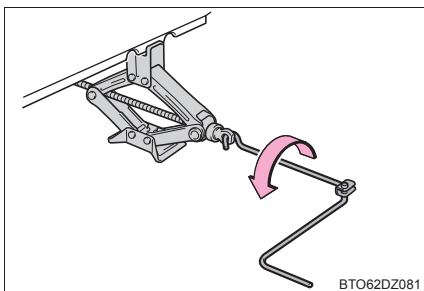
アルミホイールからスペアタイヤ*にかえるとき：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

* 販売店装着オプション



BTO62DZ079

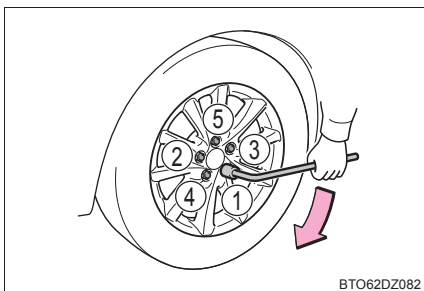
3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)

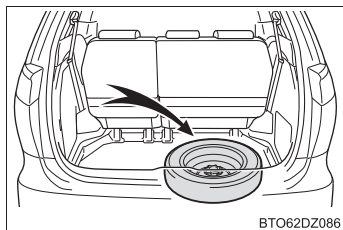


5 すべての工具・ジャッキを収納する

知識

■ スペアタイヤについて（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- 販売店装着オプションのスペアタイヤがラゲージルームに格納されています。取りはずし方については、付属の取り扱い説明書をご覧ください。



- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P. 399）

■ スペアタイヤを装着しているとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

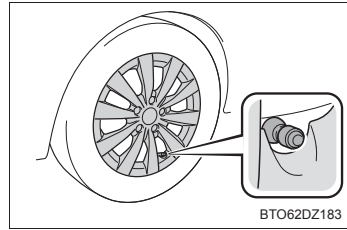
■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- 1 後輪をスペアタイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ ホイールキャップを取り付けるときは（スチールホイール装着車）※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。

※ スチールホイールのみ（スペアタイヤに取り付けることはできません。）



警告

■ スペアタイヤを使用するとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ スペアタイヤを装着しているとき（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ・ ABS | ・ TRC |
| ・ ブレーキアシスト | ・ VSC |
| ・ LKA（レーンキーピングアシスト）★ | ・ S-VSC |
| ・ レーダークルーズコントロール★ | ・ PCS ★ |
| ・ クルーズコントロール★ | ・ GPS ボイスナビゲーション★ |
| ・ ヒルスタートアシストコントロール | ・ バックガイドモニター★ |
| ・ クリアランスソナー★ | ・ パノラミックビューモニター★ |
| | ・ AFS ★ |

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ アクティブトルクコントロール 4WD システム★

■ スペアタイヤ使用時の速度制限（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）

スペアタイヤ使用時の速度制限については、販売店装着オプションのスペアタイヤに付属の取扱説明書をご覧ください。

スペアタイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ タイヤチェーンの装着について（販売店装着オプションのスペアタイヤ装着車）**

スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

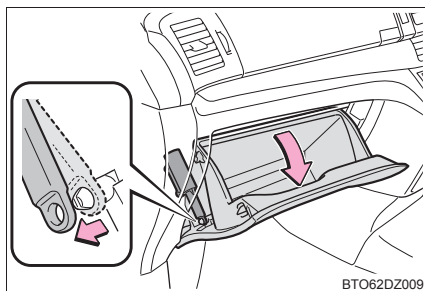
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

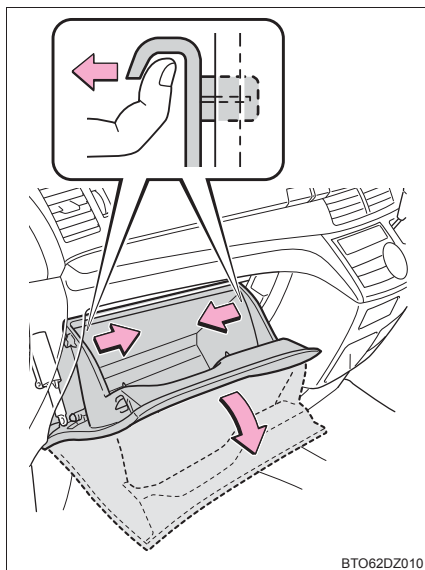
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

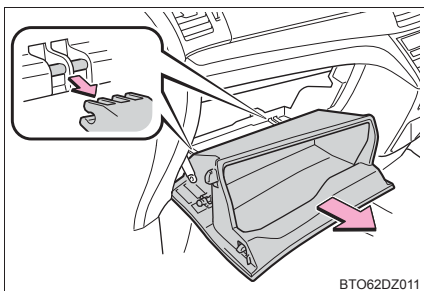
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーasteのピンをはずす



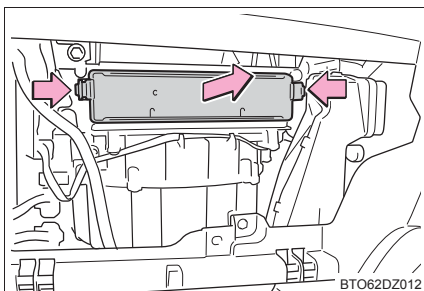
- 3 グローブボックス側面を内側に引いて上部のツメを片側ずつはずす



- 4 下部のツメを下方向へ引きながら
はらずしてグローブボックスを
取りはずす

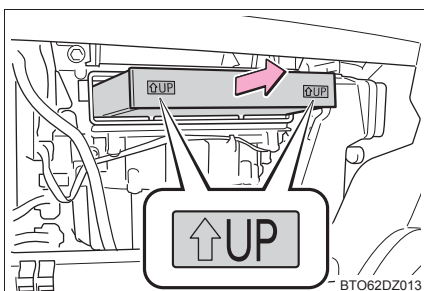


- 5 フィルターケースの固定を解除
し取りはずす



- 6 フィルターを取りはずし、新しい
フィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くよう
に取り付けます。



- 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km※]ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意**■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

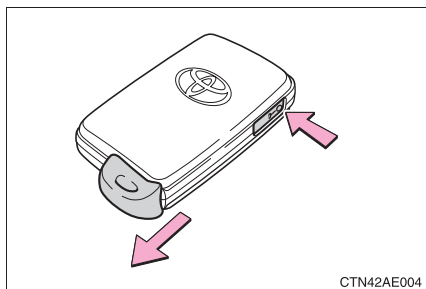
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

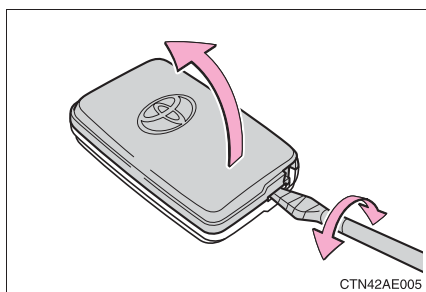
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

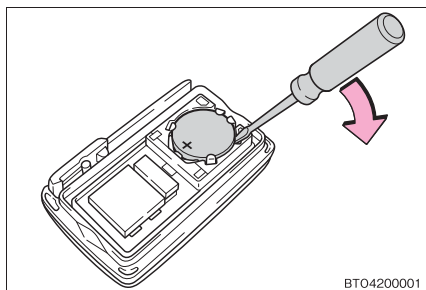
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

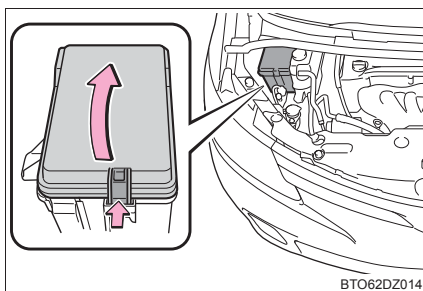
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

❶ エンジンスイッチを OFF にする

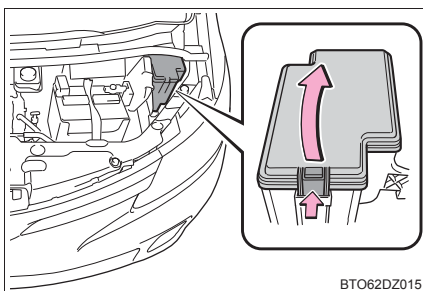
❷ ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)



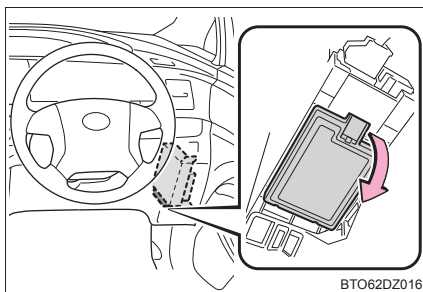
ツメを押しながら、カバーを取りはずす

▶ エンジンルーム (2)



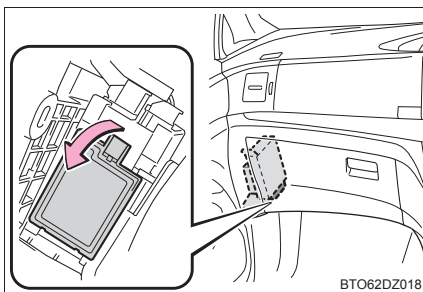
ツメを押しながら、カバーを取りはずす

▶ 運転席足元



ヒューズボックスのカバーを取りはずす

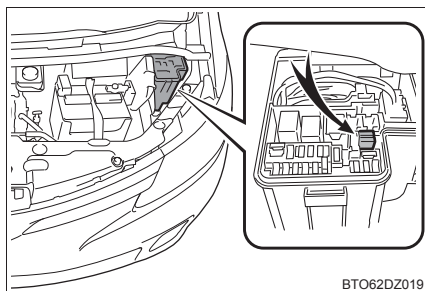
▶ 助手席足元



ヒューズボックスのカバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズは必ずヒューズ引き抜き器を使用して引き抜くことができます。



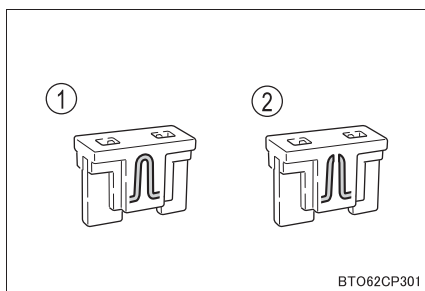
BT062DZ019

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

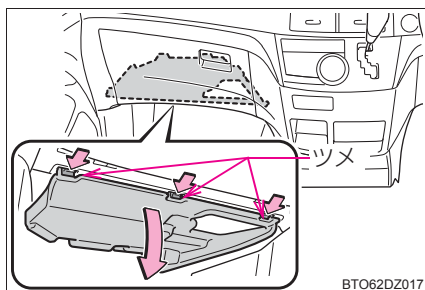
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



BT062CP301

■ 助手席足元ヒューズカバーを取りはずすときは

ツメを押しながらカバーを取りはずす



BT062DZ017

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 319)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

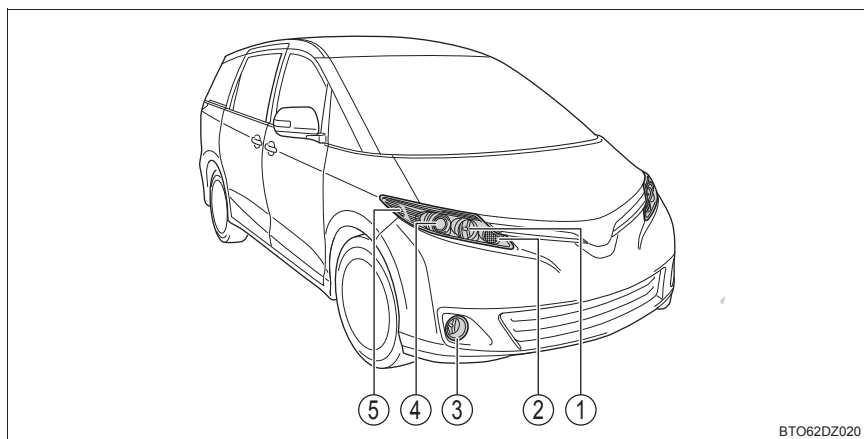
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 400）

バルブ位置

■ フロント

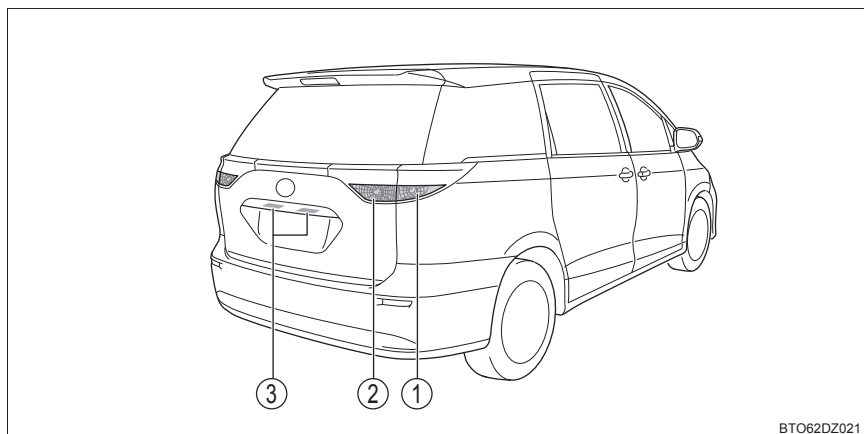


バンパー、グリルなどの形状は、グレードなどで異なります。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① ヘッドランプハイビーム | ③ フロントフォグランプ |
| ② フロント方向指示灯
／非常点滅灯 | ④ ヘッドランプロービーム※ |
| | ⑤ 車幅灯 |

※ ディスチャージヘッドランプ装着車を除く

■ リヤ



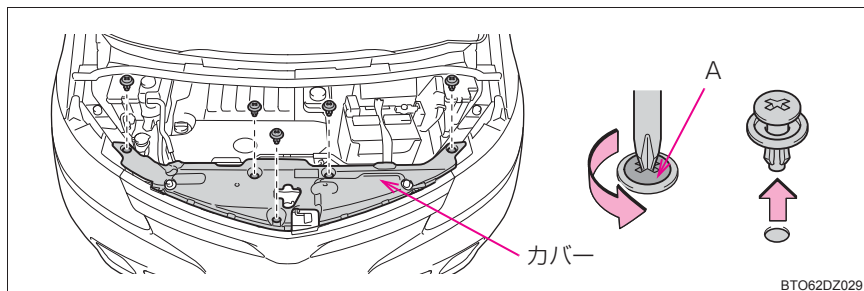
BTO62DZ021

バンパーなどの形状は、グレードなどで異なります。

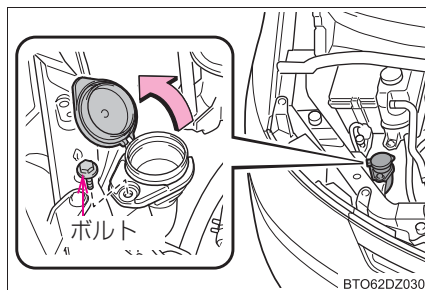
- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

運転席側のヘッドランプハイビームまたは、運転席側のフロント方向指示灯／非常点滅灯を交換する前に

- 1 ボンネットを開けてクリップの A 部を + ドライバーでゆるめ、クリップをはずし、エンジンルームのカバーを取りはずす

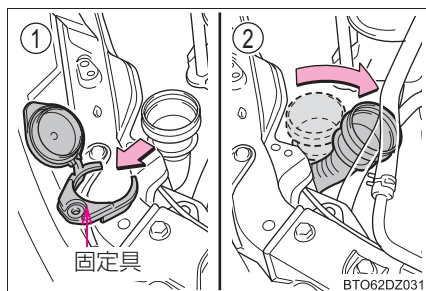


- 2 ウォッシャー液注入口のフタを開け、固定具のボルトを取りはずす



- 3 ウォッシャー液注入口をずらす

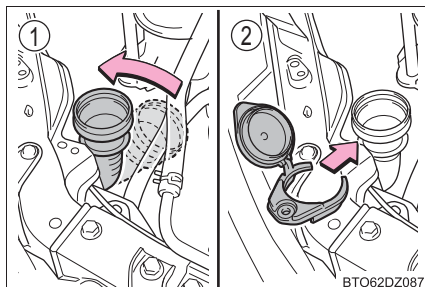
- ① 固定具を引き抜きます。
- ② ウォッシャー液注入口をずらします。



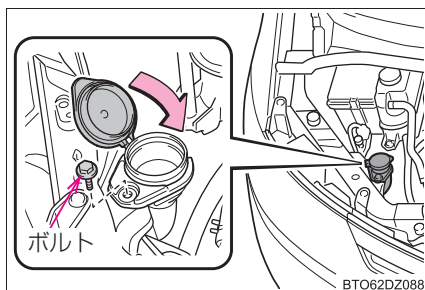
■ もどし方

1 ウォッシャー液注入口をもどす

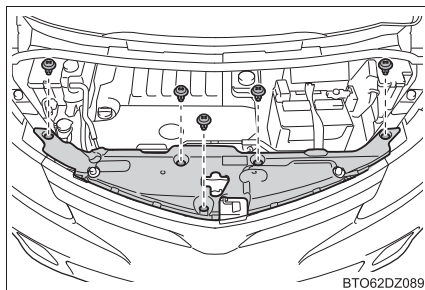
- ① ウォッシャー液注入口をもどします。
- ② 固定具を挿し込みます。



2 固定具をボルトで固定し、ウォッシャー液注入口のフタを閉める

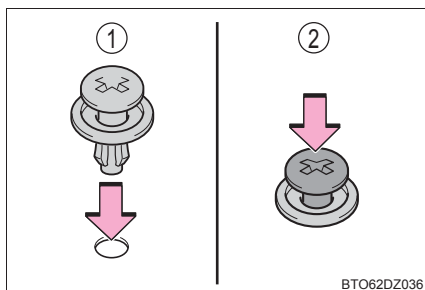


3 エンジンルームのカバーを取り付け、クリップで固定する



● クリップの取り付け方

- ① 挿し込む
- ② クリップ中央部分を押す



4 ボンネットを閉じる

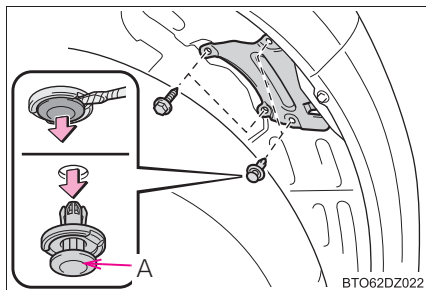
電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車を除く）

- 1 クリップ（2本）とボルト（2個）をはずし、カバーを取りはずす

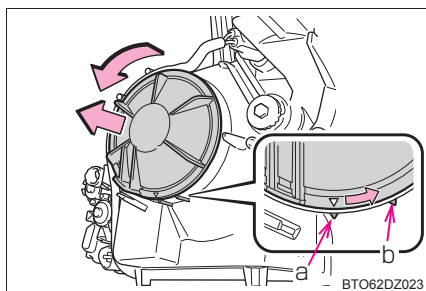
フロントフェンダー内側から行います。

- ・ クリップは、A 部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。
- ・ 助手席側を交換するときは、ハンドルを右いっぱい、運転席側を交換するときは、ハンドルを左いっぱいにまわしておくとスペースが広がります。

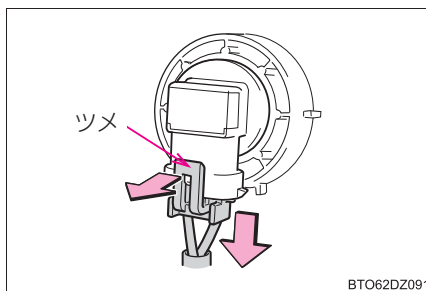


- 2 カバーを左にまわして取りはずす

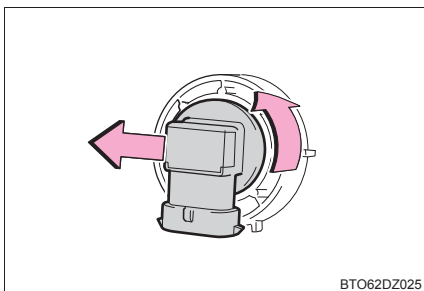
カバーにある三角マークを a から b に移動し、カバー全体を手前に引き取りはずします。



- 3 ツメを引きながらソケットを取りはずす



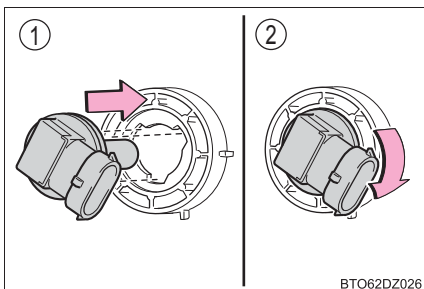
- 4 電球を左にまわして取りはずす



BTO62DZ025

- 5 新しい電球を取り付ける

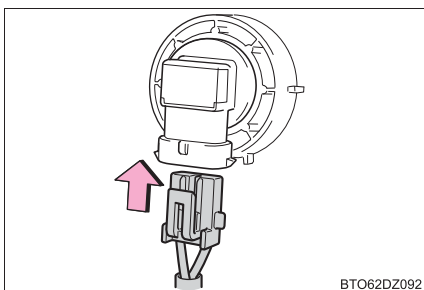
- ① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約 45° 傾けながら挿し込みます。
- ② 電球を右にまわして固定します。



BTO62DZ026

- 6 ソケットを取り付ける

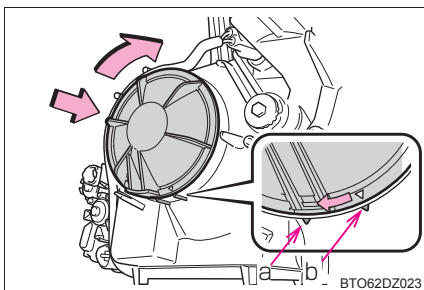
取り付けたあとは、電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



BTO62DZ092

- 7 カバーを取り付ける

カバー全体を押しながら、カバーにある三角マークをbからaに移動し取り付けます。

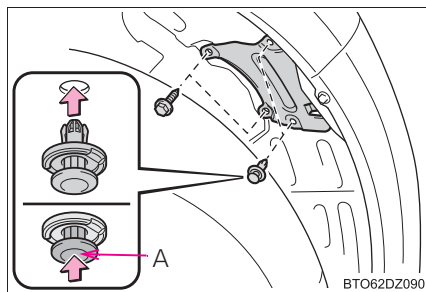


BTO62DZ023

- 8 カバーを取り付け、クリップ（2本）とボルト（2個）で固定する

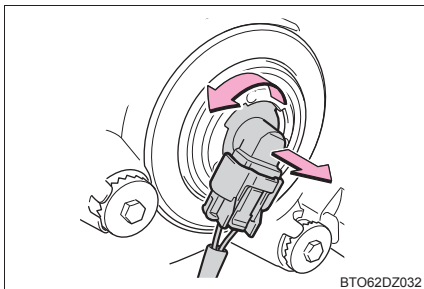
フロントフェンダー内側から行います。

クリップは、A 部を押してロックします。

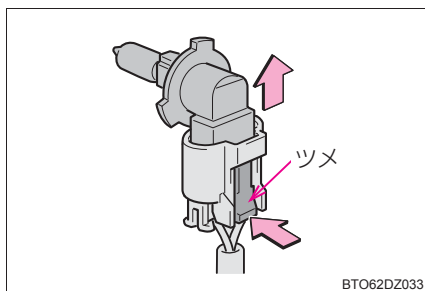


■ ヘッドランプハイビーム

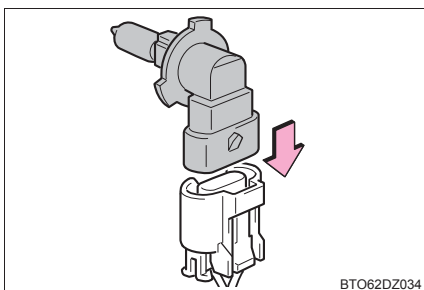
- 1 運転席側を交換するときは、エンジンルームのカバーを取りはずし、ウォッシャー液注入口をずらす (→P. 321)
- 2 電球を左にまわして取りはずす



- 3 ツメを押しながらソケットから電球を取りはずす



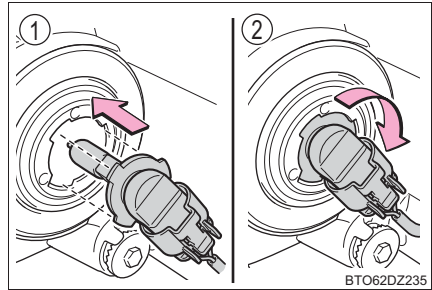
- 4 新しい電球をソケットに取り付ける



5 電球を取り付ける

- ① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約 45° 傾けながら挿し込みます。
- ② 電球を右にまわして固定します。

取り付けたあとは、電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください

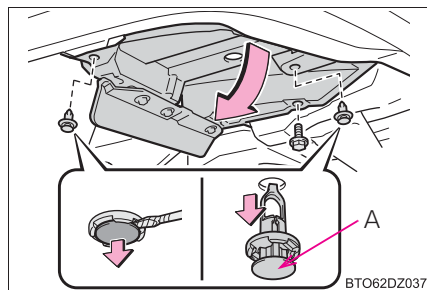


- 6** 運転席側を交換したときは、ウォッシャー液注入口をもどし、エンジンルームのカバーを取り付ける（→P. 322）

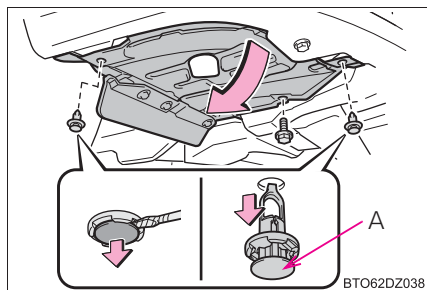
■ フロントフォグランプ

- 1 クリップ（2本）とボルトをはずし、フェンダーライナーをずらす
 クリップとボルトをはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。
 ・ クリップは、A 部を引き出してロックを解除し、引き抜きます。

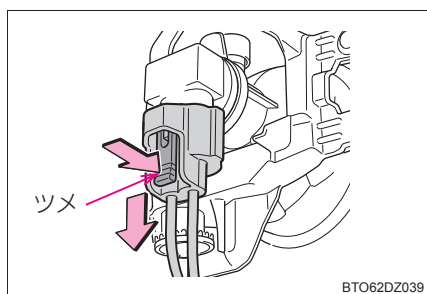
▶ アエアスを除く



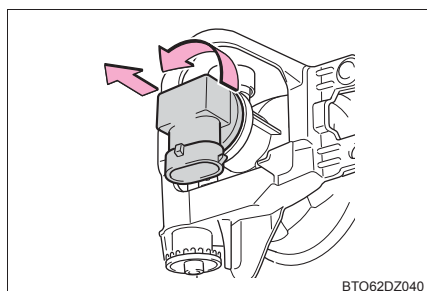
▶ アエアス



- 2 ツメを押してソケットを取りはずす

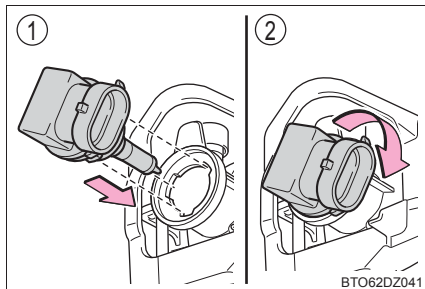


- 3 電球を左にまわして取りはずす



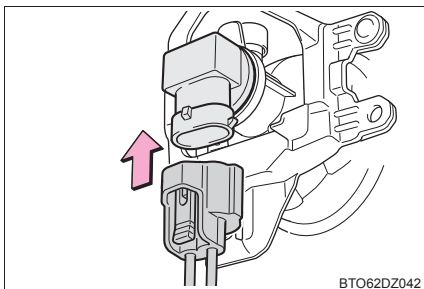
4 新しい電球を取り付ける

- ① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約 45° 傾けながら挿し込みます。
- ② 電球を右にまわして固定します。



5 ソケットを取り付ける

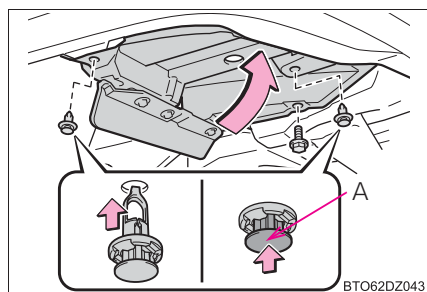
取り付けたあとは、電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



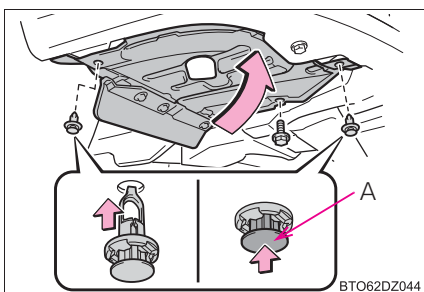
6 クリップ（2本）とボルトを取り付け、フェンダーライナーを固定する

クリップは、A 部を押してロックします。

▶ アエアスを除く



▶ アエアス

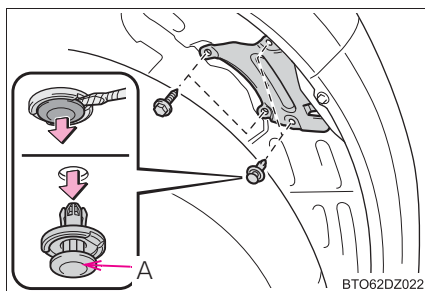


■ 車幅灯

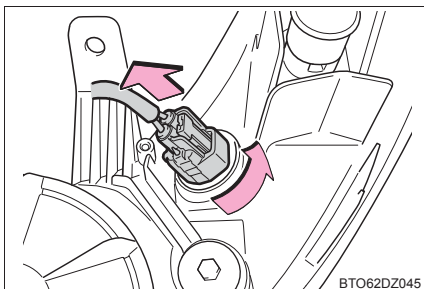
- 1 クリップ（2本）とボルト（2個）をはずし、カバーを取りはずす

フロントフェンダー内側から行います。

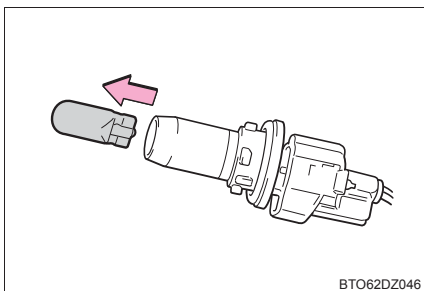
- ・ クリップは、A 部を引き出してロックをはずし、引き抜きます。
- ・ 助手席側を交換するときは、ハンドルを右いっぱい、運転席側を交換するときは、ハンドルを左いっぱいにまわしておくとスペースが広がります。



- 2 ソケットを左にまわして取りはずす

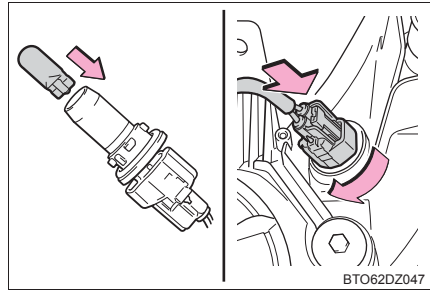


- 3 ソケットから電球を抜き取る



- 4 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

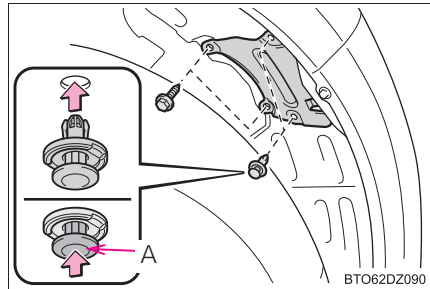
取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん車幅灯を点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



- 5 カバーを取り付け、クリップ（2本）とボルト（2個）で固定する

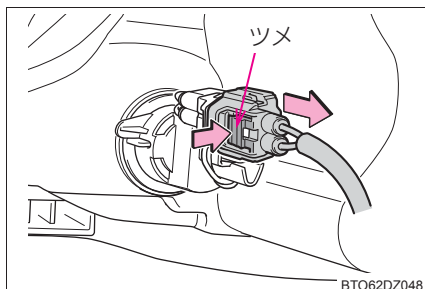
フロントフェンダー内側から行います。

クリップは、A 部を押してロックします。

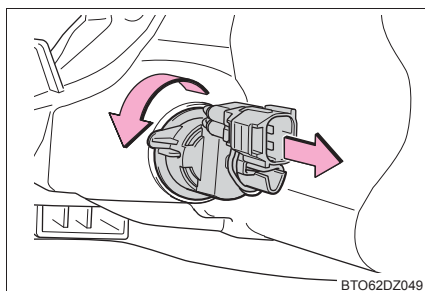


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

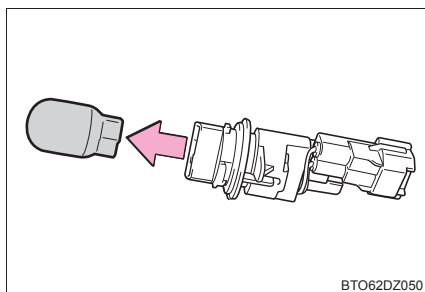
- 1 運転席側を交換するときは、エンジンルームのカバーを取りはずし、ウォッシャー液注入口をずらす (→P. 321)
- 2 ツメを押してコネクターを取りはずす



- 3 ソケットを左にまわして取りはずす



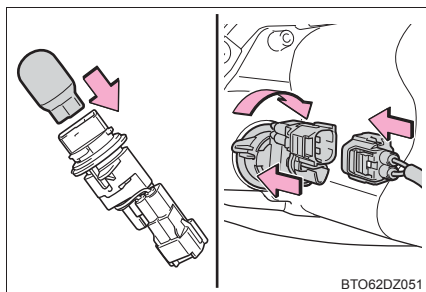
- 4 ソケットから電球を抜き取る



- 5 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付け、コネクターを取り付ける

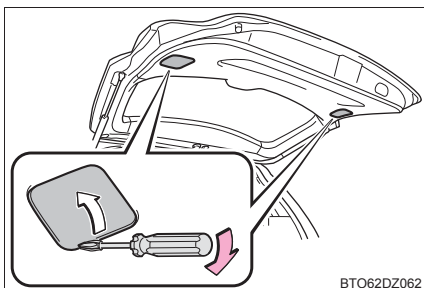
取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロント方向指示灯／非常点滅灯を点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

- 6 運転席側を交換したときは、ウォッシャー液注入口をもどし、エンジンルームのカバーを取り付ける (→P. 322)

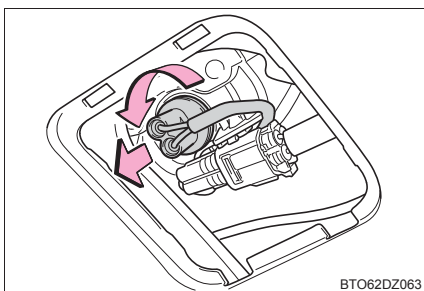


■ 後退灯

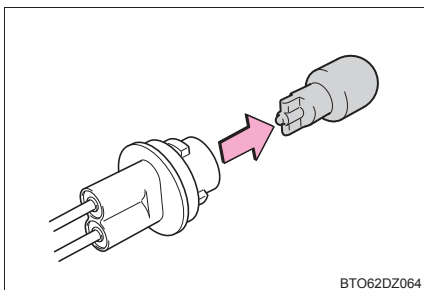
- 1 バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んで取りはずす
傷付き防止のため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。



- 2 ソケットを左にまわして取りはずす

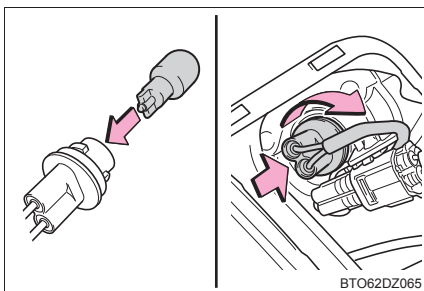


- 3 ソケットから電球を抜き取る



- 4 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

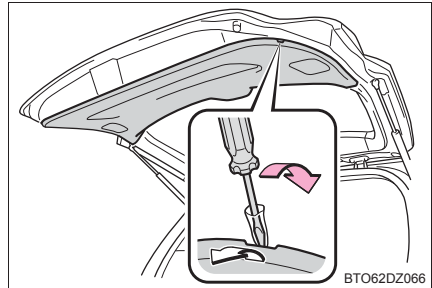
取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん後退灯を点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



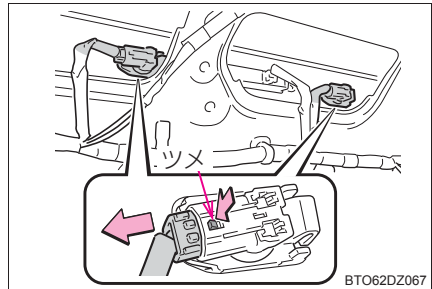
- 5 バックドアのカバーをもとにもどし、バックドアを閉じる

■ 番号灯

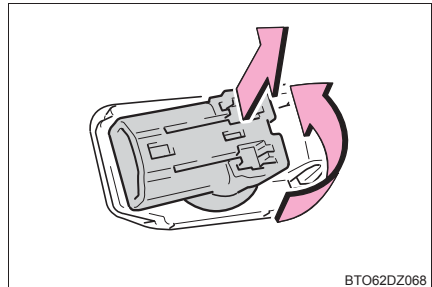
- 1 バックドアを開け、内張りの切り欠きにマイナスドライバーなどを挿し込んで取りはずす
傷付き防止のため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。



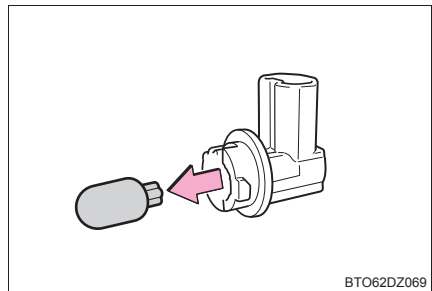
- 2 ツメを押してコネクターを取りはずす



- 3 ソケットを左にまわして取りはずす

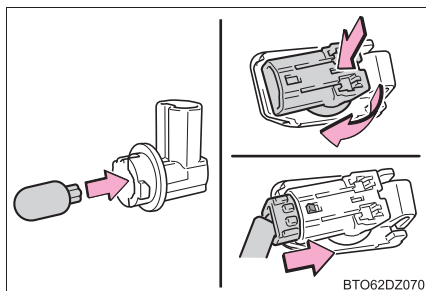


- 4 ソケットから電球を抜き取る



- 5 新しい電球をソケットに取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付け、コネクターを取り付ける

取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん番号灯を点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



- 6 バックドアの内張りをもとにもどし、バックドアを閉じる

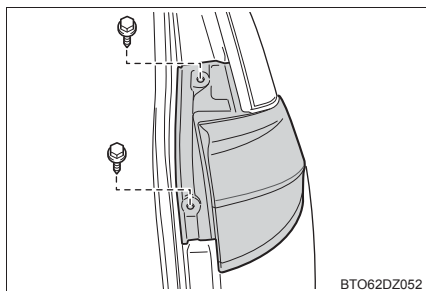
 注意

バックドアの内張りを取りはずすときは、内張りを固定しているクリップの破損や紛失に注意してください。

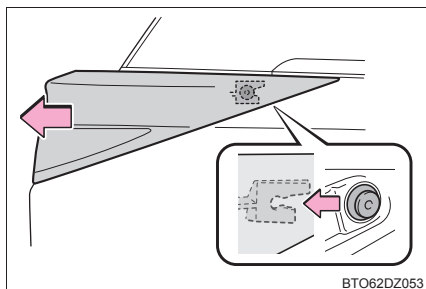
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯※

※ リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換には、トヨタ販売店で部品（ガスケット）の購入が必要となります。交換作業が難しいと感じられる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

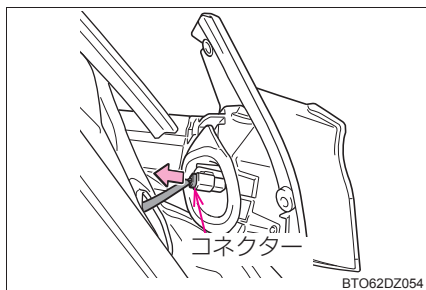
- 1 バックドアを開け、スクリュー（2本）を取りはずす



- 2 ランプ本体を車両後方に向かって引く



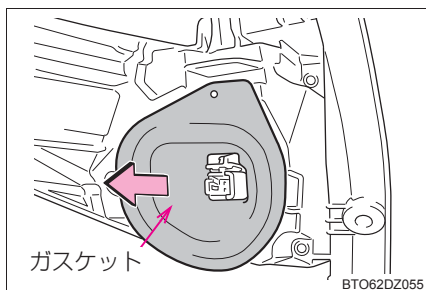
- 3 コネクターを取りはずす



- 4 ガスケットをはがす

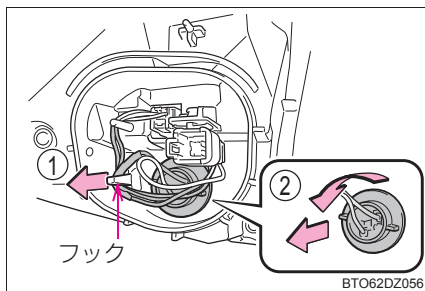
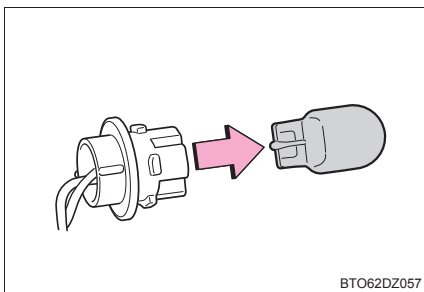
確実にもとの状態に戻せるようにガスケットをはがす前には、ガスケットの貼り付け位置をよく確認しておいてください。

また、ボデー側に残ったガスケットはすべてはがしてください。



5 電球を取りはずす

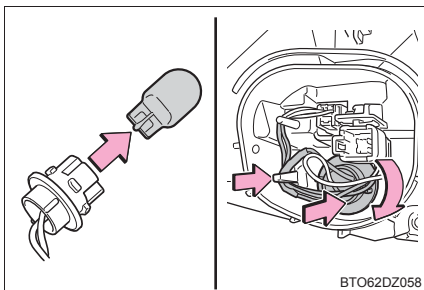
- ① フックから配線をはずします。
- ② ソケットを左にまわして取りはずします。

**6** ソケットから電球を抜き取る**7** ソケットに新しい電球を取り付け、ランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

配線はもとどおりフックに固定します。

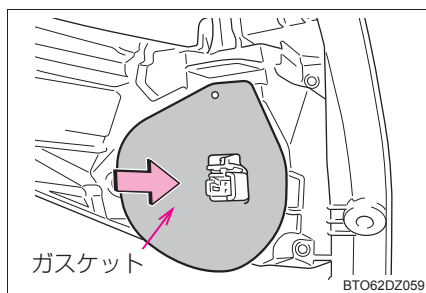
ソケットを取り付けたあとは、ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん手順 **3** で取りはずしたコネクターを取り付けリヤ方向指示灯／非常点滅灯を点灯させて、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

光がもれていないことが目視確認できたら、再度手順 **3** のコネクターを取りはずしてください。

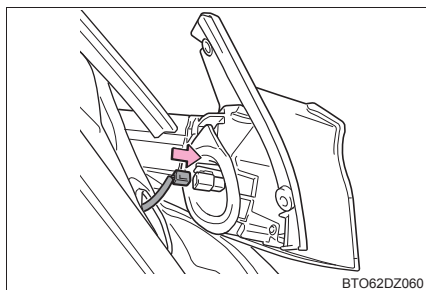


8 新品のガスケットを貼り付ける

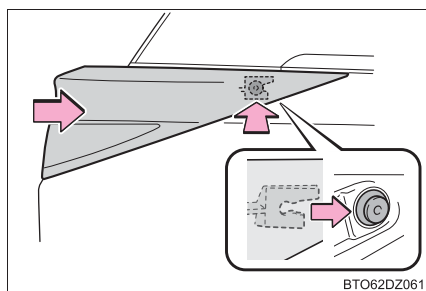
手順 **4** で確認した貼り付け位置に確実に取り付けてください。



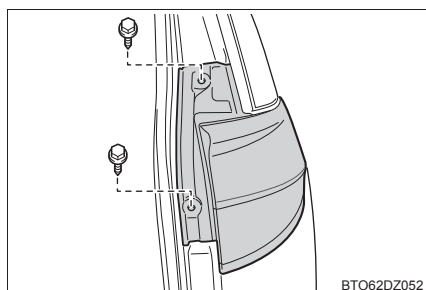
9 コネクターを取り付ける



10 ランプ本体側と車両側のツメの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押す



11 スクリュー (2 本) で固定する



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム（ディスチャージヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 尾灯／制動灯
- ハイマウントストップランプ



知識

■ ディスチャージヘッドランプの作動（ディスチャージヘッドランプ装着車）

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。

■ LED ランプについて

サイド方向指示灯／非常点滅灯、尾灯、尾灯／制動灯、ハイマウントストップランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→P. 318

 警告**■ けがを防ぐために**

エンジンルームのカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ ディスチャージヘッドランプについて（ディスチャージヘッドランプ装着車）

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

 注意**■ エンジンルームカバー取り付け後の確認**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換について

リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換には、新品のガスケットが必要となります。ガスケットをはがす時は、次のことをお守りください。ランプ内へ水が浸入するおそれがあります。

- 一度はがしたガスケットは絶対に再使用しないでください。
- ガスケットを貼り付けるときは、リヤ方向指示灯／非常点滅灯の交換手順 4 で確認した貼り付け位置に確実に貼り付けてください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	344
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	345
発炎筒.....	346
車両を緊急停止するには.....	348

7-2. 緊急時の対処法

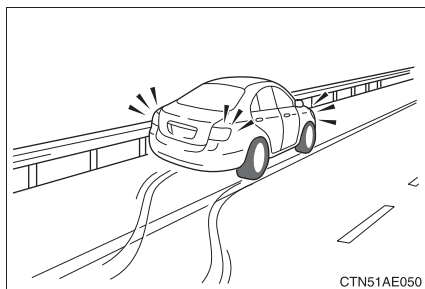
けん引について.....	349
警告灯がついたときは.....	355
警告メッセージが 表示されたときは.....	360
パンクしたときは.....	367
エンジンが 始動できないときは.....	379
シフトレバーが シフトできないときは.....	381
電子キーが正常に 働かないときは.....	382
バッテリーが あがったときは.....	384
オーバーヒートしたときは.....	388
スタックしたときは.....	391

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

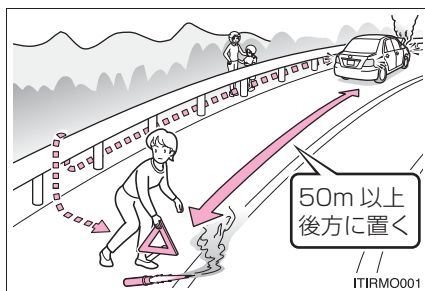
非常点滅灯（→P. 345）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

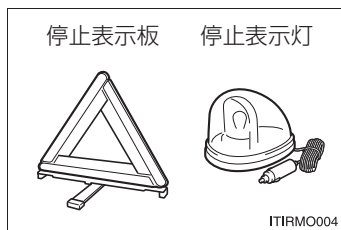
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 346）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

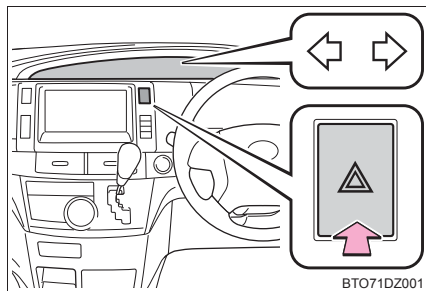


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

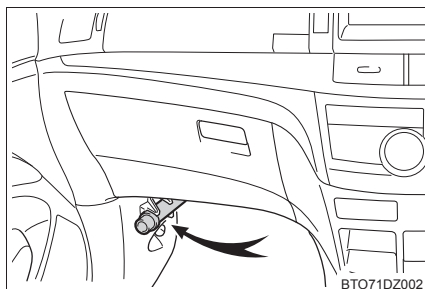
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

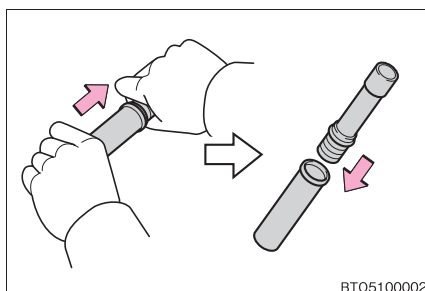
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

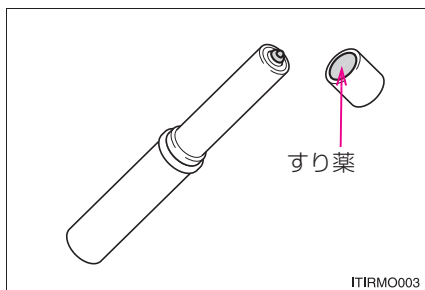
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

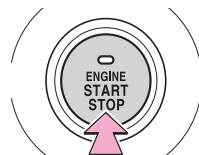
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTY52AD216

- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

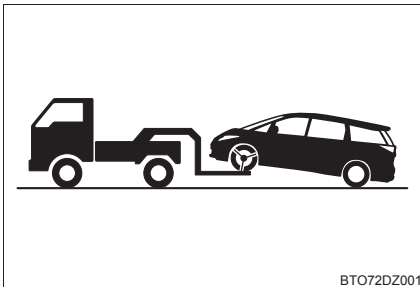
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

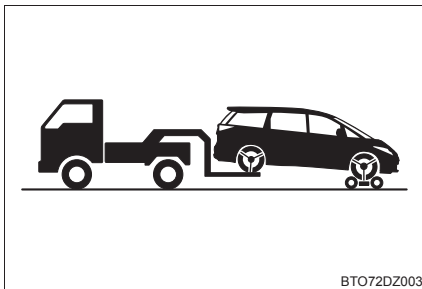
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは
(FF 車)



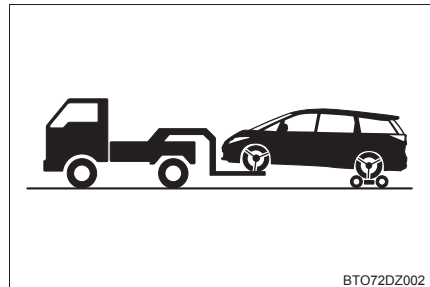
パーキングブレーキを解除する

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

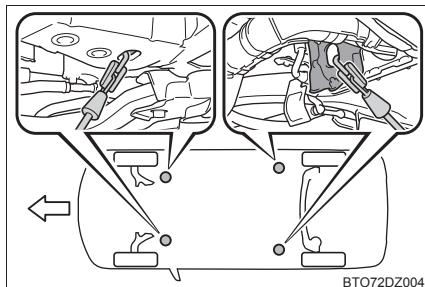
- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)



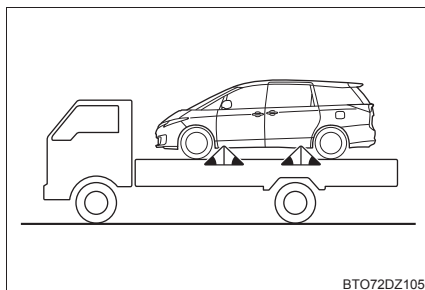
台車を使用して後輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するときは

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



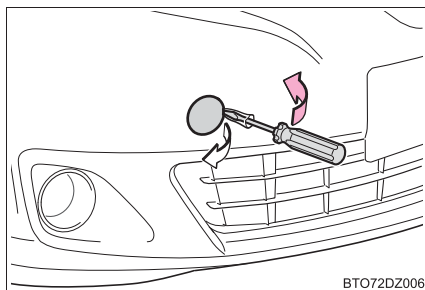
けん引されるとき

1 けん引フックを取り出す (→P. 301)

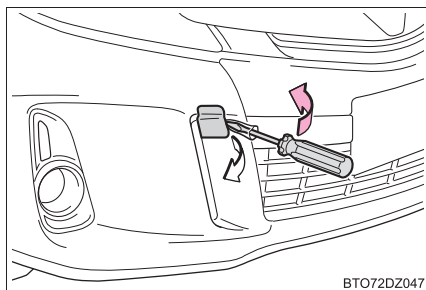
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ アエラスを除く

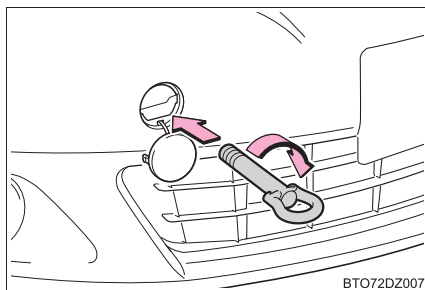


▶ アエラス

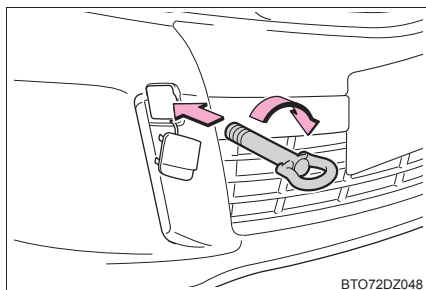


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ アエラスを除く

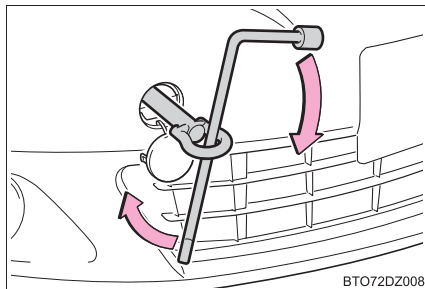


▶ アエラス

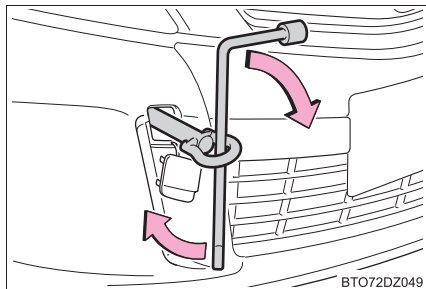


4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

▶ アエラスを除く



▶ アエラス



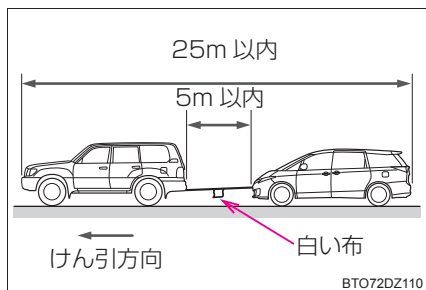
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 381

知識

■ けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

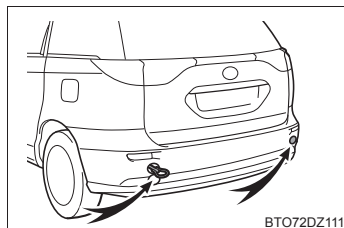
■ ホイールナットレンチについて

工具袋に収納されています。(→P. 301)

■ リヤ側フックについて

このフックは、自転車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときを使用することができます。

- ・ フックの取り付け穴は、リヤバンパーの左右どちらでも使用することができます。



警告

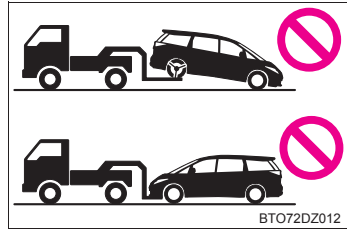
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けん引されるとき

▶ FF 車

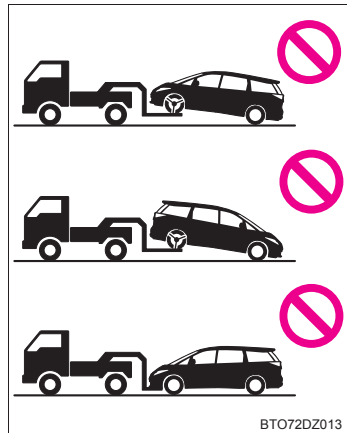
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



BTO72DZ012

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



BTO72DZ013

■けん引中の運転について

- ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

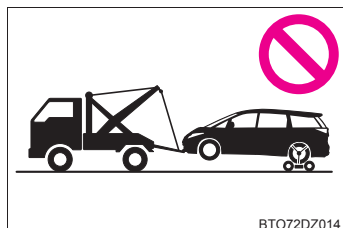
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・ EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	PCS 警告灯★（点灯したままのとき） プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・ システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→219) ・ プリクラッシュブレーキを OFF にすると点滅します。 (→220) ・ システムが一時的に使用できないときに点滅します。 (→P. 361) → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	充電警告灯 ・ 充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	油圧警告灯 ・ エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	半ドア警告灯 ・ いずれかのドア／スライドドア／バックドアが確実に閉まっていない → 開いているドア／スライドドア／バックドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10 L 以下になった → 燃料を補給する
	マスターウォーニング★ システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 360
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・ VSC 異常 ・ TRC 異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ ² ） 運転席シートベルトの非着用 → 運転席シートベルトを着用する
	助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ ² ） 助手席シートベルトの非着用 → 助手席シートベルトを着用する
	4WD 警告灯★ 4WD システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ディスタージヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 → 走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときに、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま使用できます。 警告灯が消灯しない、または再度点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スマートエントリー&スタートシステム警告灯 → P. 359, 365

※¹ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

パーキングブレーキが解除されず、車速が約5km/h以上になると警告ブザーが鳴ります。

※¹ シートベルト非着用警告ブザー：

警告灯が点滅している状態で、車速が約 20km/h 以上になると、断続音が約 120 秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約 30 秒後にブザーの音が変わります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。

ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ 走行するとき

半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドア・スライドドア・バックドアが確実に閉まっていないため、走行中にドア・スライドドア・バックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム警告灯・警告ブザー一覧 (マルチインフォメーションディスプレイ非装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	 (8 秒間点灯)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーが P の位置でエンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	エンジンスイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす
連続	連続		シフトレバーが P 以外の位置でエンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを車内にもどす

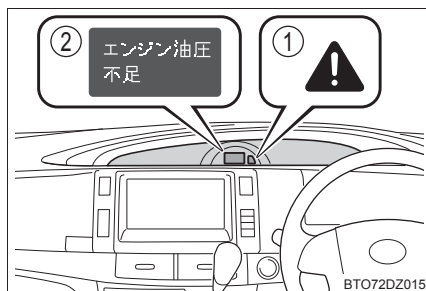
警告メッセージが表示されたときは (マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

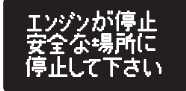
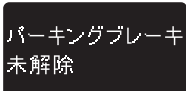
警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
エンジン油圧不足 !	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 →ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
4WD システムチェック !	4WD システム★の異常 警告ブザーが鳴ります。 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パワーステアリングシステムチェック  	パワーステアリングシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	(レーダークルーズコントロール★の車間制御中) 衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 →ブレーキで減速する
ブレーキ! PCS (速い点滅)	衝突の可能性が高くプリクラッシュブレーキ★が作動している 警告ブザーが鳴ります。 →ブレーキで減速する
PCS 現在使用できません PCS (点滅)	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★が現在機能していない →グリルまたは、レーダーセンサーの汚れおよび氷などを取り除いてください。 プリクラッシュシートベルト★が短時間にくり返し作動した 過熱保護のためシステムが一時的に停止します。 →しばらくするとシステムが復帰します。
PCS システムチェック PCS 	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★の異常 警告ブザーが鳴ります。 →ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
3rd SEAT	電動格納式サードシート★の格納・復帰作動が途中で中断された 警告ブザーが鳴ります。 → P. 122

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ドア／スライドドア／バックドアが確実に閉まっていない 開いているドア／スライドドア／バックドアが表示されます。 → 開いているドア／スライドドア／バックドアを閉める
 	エンジン停止中の警告（停車中） 車両が停車中にエンジンが突然止まったとき ・ 警告ブザーが鳴ります。 → シフトレバーをPにしたあと、トヨタ販売店へ連絡してください。
 	エンジン停止中の警告（走行中） 車両が走行中にエンジンが突然止まったとき ・ 警告ブザーが鳴ります。 → 路肩など安全な場所に停車し、シフトレバーをPにしたあと、トヨタ販売店へ連絡してください。
  (点減)	パーキングブレーキが解除されず、車速が約 5km/h をこえたとき 警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除してください。
	(LKA[レーンキープアシスト] ★制御中) 車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、白線表示が点滅します。 ・ 警告ブザーが連続して鳴ります。 → 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LKA システムチェック LKA (点滅)	LKA (レーンキーピングアシスト) ★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → LKA を OFF にして、安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してから再度 LKA をセットしてください。再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
条件確認中 LKAできません	LKA (レーンキーピングアシスト) ★の一時停止 ● 白線認識用カメラが作動範囲外の高温状態／低温状態 ● EPS の作動制限中 ・ 警告ブザーが鳴ります。 → LKA を OFF にして、しばらく走行してからシステムを再起動する
レーダー汚れ 清掃必要 CRUISE  (点滅)	レーダークルーズコントロール★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 ・ 警告ブザーが鳴ります。 → グリルまたは、レーダーセンサーの汚れおよび氷などを取り除いてください。
悪天候 クルーズ できません CRUISE  (点滅)	レーダークルーズコントロール★の車間制御の測定不可 ・ 警告ブザーが鳴ります。 → ワイパーを止めるか、高速作動以外にかえる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   (点滅)	クルーズコントロール★またはレーダークルーズコントロール★の異常 ・警告ブザーが鳴ります。 → ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	TRC (トラクションコントロール) が OFF になっている → TRC を ON にする (→ P. 215)

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

→ P. 358

■ レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

■ LKA (レーンキーピングアシスト) ★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白 (黄) 線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

- LKA の作動条件以外の車速のとき
- 白 (黄) 線を認識できていないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  	電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → 電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトレバーがPの位置でエンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → エンジンスイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす
連続音	連続音	キーが 見つかりません Pレンジに 入れて下さい (交互に表示)  	シフトレバーが P 以外の位置でエンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → ・シフトレバーを P にする ・電子キーを車内にもどす

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい 	シフトレバーが P 以外の位置で エンジンスイッチを OFF にせず に運転席ドアが開閉された →シフトレバーを P にする
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残量が少ない →新しい電池と交換する。 (→P. 314)
1 回	なし	エンジン始動時 ブレーキを 踏んでください 	ブレーキを踏まずにエンジンス イッチを押して、エンジンスイ ッチの切りかえを 2 回くり返した →ブレーキを踏んでエンジンス イッチを押す
1 回	なし	ステアリング ロック 未解除 	エンジン始動時、ステアリング ロックが解除されず、エンジンが 始動しなかった →ブレーキを踏んでハンドルを 左右にまわしながらエンジン スイッチを押す
1 回	なし	ステアリング ロック システム確認 	ステアリングロックシステムの 異常 →ただちにトヨタ販売店で点検 を受けてください。

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 364

■ 警告ブザーについて

→P. 358

パンクしたときは

エスティマは、工場出荷時の状態ではスペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ パンクしたままの走行について

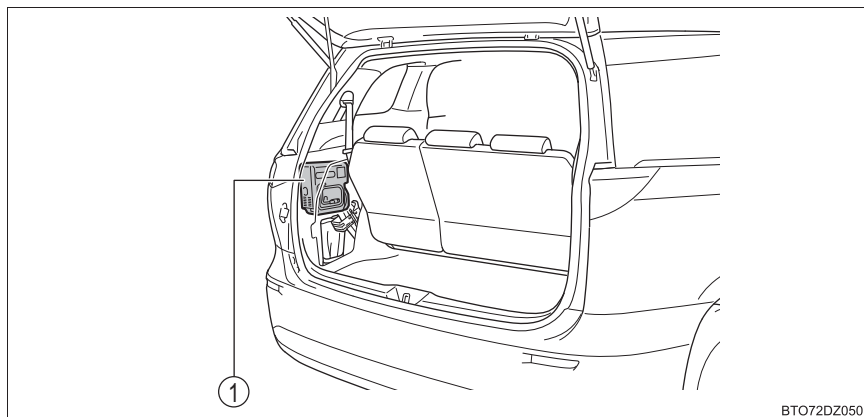
タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

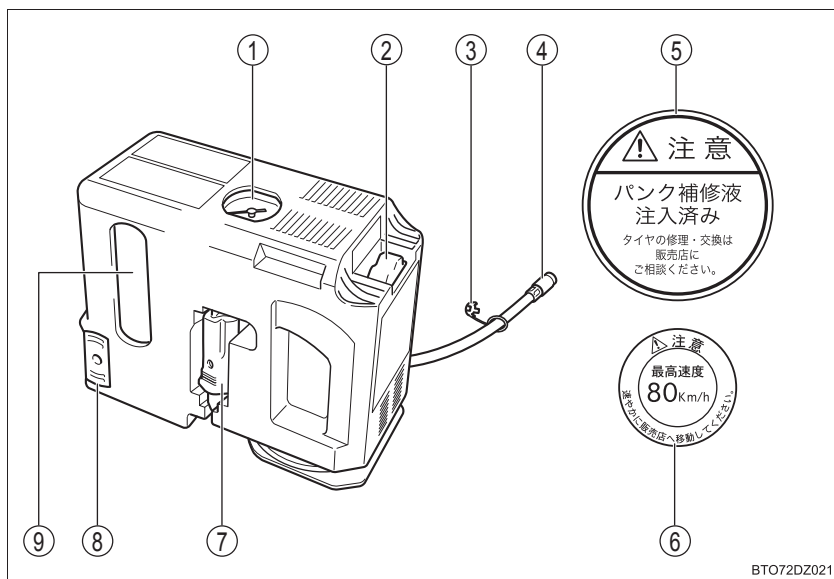
タイヤパンク応急修理キットの搭載位置



BT072DZ050

- ① タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



BT072DZ021

- | | |
|-----------------|-------------|
| ① 空気圧計 | ⑥ 速度制限ラベル |
| ② 電源スイッチ | ⑦ 電源プラグ |
| ③ 空気逃がしキャップ | ⑧ 挿し込みパーツ |
| ④ ホース | ⑨ パンク修理液ボトル |
| ⑤ パンク補修液注入済みラベル | |

応急修理キットの取り出し方

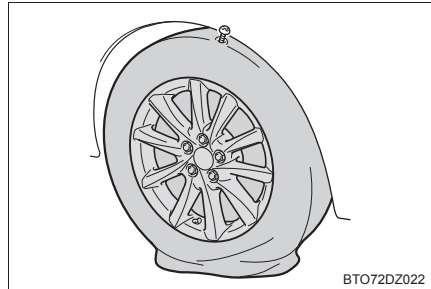
- 1 ラゲージルーム左側のカバーをはずす (→ P. 303)
- 2 応急修理キットを取り出す (→ P. 303)

応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

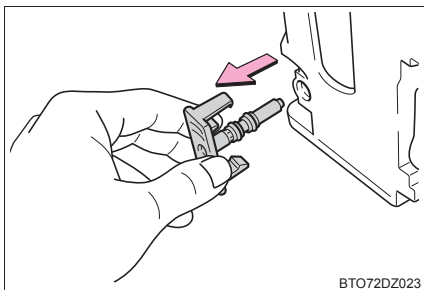
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



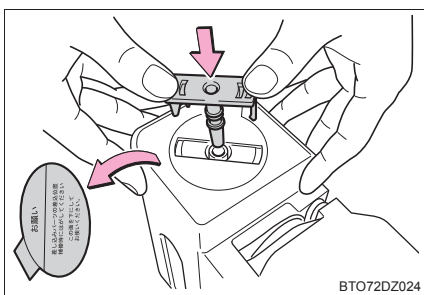
応急修理するとき

- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す。
- 2 応急修理キットから挿し込みパーツを引き抜く



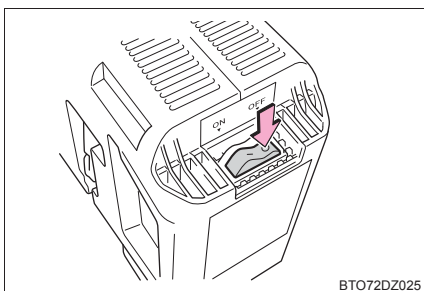
- 3 応急修理キット底面を上に向けて置き、挿し込みパーツを押し込む

シールをはがし、挿し込みパーツを“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

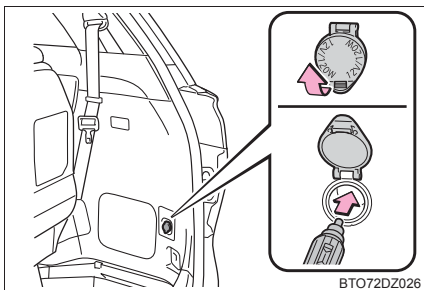


- 4 応急修理キットの向きをもとにもどし、スイッチが OFF であることを確認する

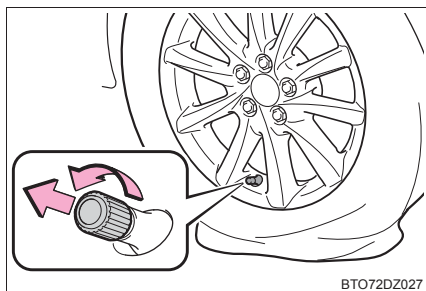
応急修理キットは、スイッチがある面を上にしてご使用ください。



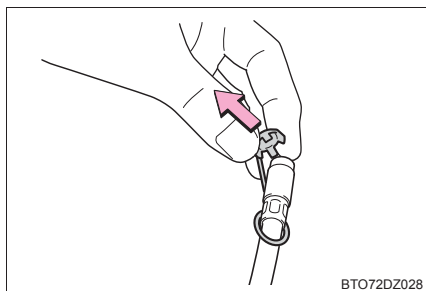
- 5 応急修理キットの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む



- 6 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

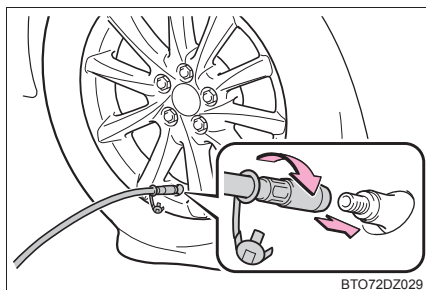


- 7 ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

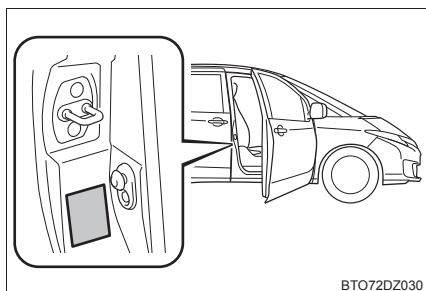


- 8 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと奥までねじ込みます。

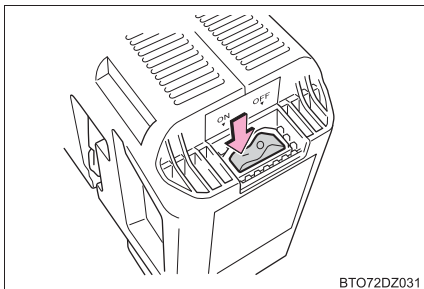


- 9 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 299)



- 10 エンジンを開始する (→P. 159)

- 11** 応急修理キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

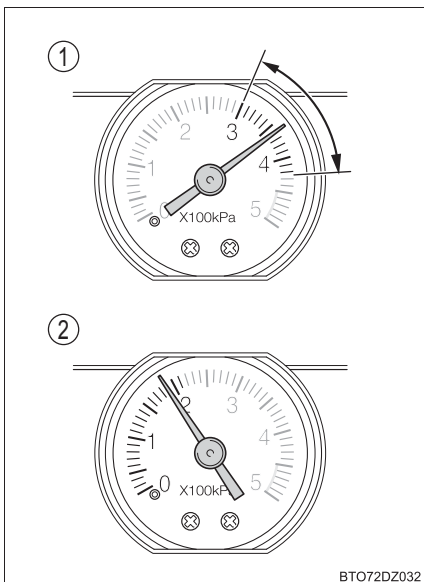


BTO72DZ031

- 12** 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

- ① 一時的に空気圧計が 300 ～ 450kPa まで上昇し、徐々に減少します。
- ② 1 分程度で実際の空気圧表示になります。

応急修理キットのスイッチを OFF にして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。



BTO72DZ032

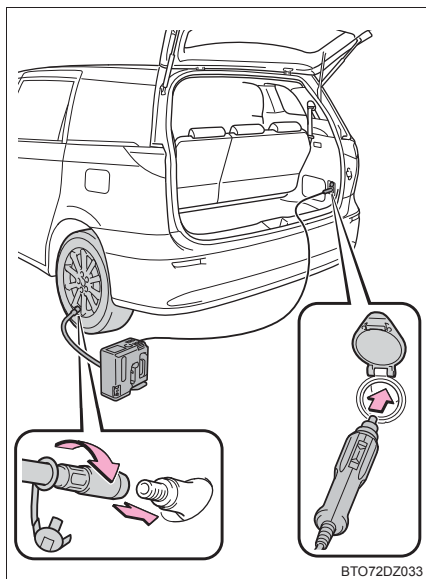
空気圧の針が赤いゾーン（450kPa 以上）に達した場合、タイヤまたは応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。応急修理キットのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気圧を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 399）

- 13** 応急修理キットのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす
- 14** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- 15** いったん応急修理キットを収納する

- 16** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km の距離を低速で慎重に走行する
- 17** 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度応急修理キットを接続する

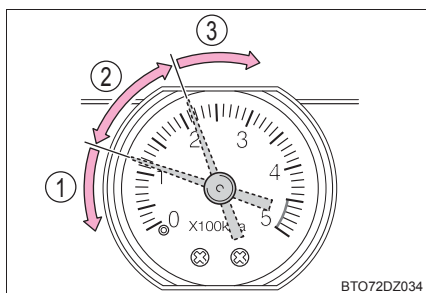


- 18** 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kpa 未満の場合：
応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kpa 以上、指定
空気圧未満の場合：手順 **19** へ

③ 空気圧が指定空気圧 (→P. 399) の場合：手順 **20** へ

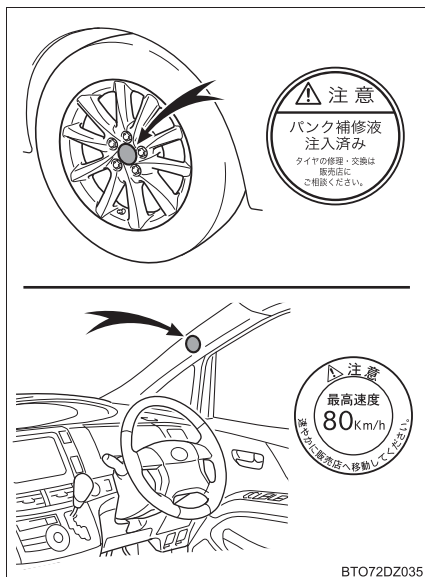


- 19** 応急修理キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **17** から実施する
- 20** 応急修理キットをビニール袋に入れて、所定の位置に収納する

21 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

急ブレーキや急ハンドルを避け、80km/h以下で最寄りのトヨタ販売店まで慎重に走行してください。



知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

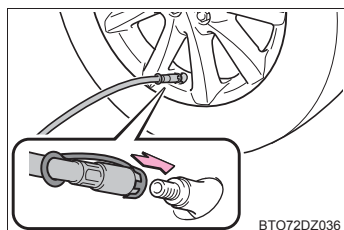
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温がー30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

 警告**■ 応急修理キットについて**

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。

 警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

■ パワースライドドア・パワーバックドア装着車のタイヤパンク修理について

タイヤパンク修理をする際は、パワースライドドアメインスイッチ (→P. 82)・パワーバックドアメインスイッチ (→P. 93) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ・パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア・バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンが始動できないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 159）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 159）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 57）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 384）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 380）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 384）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

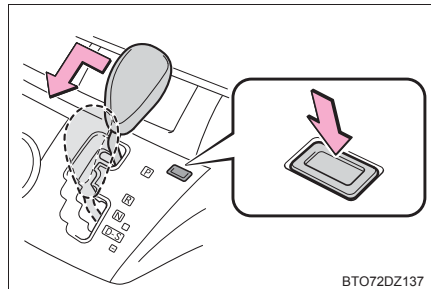
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってシフトロック解除ボタンを押す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



BTO72DZ137

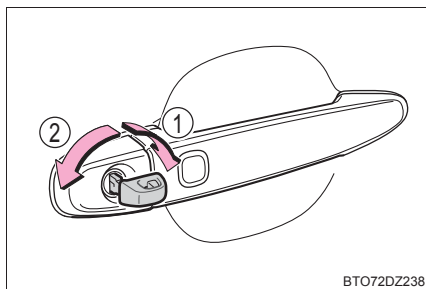
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 103）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 72）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠

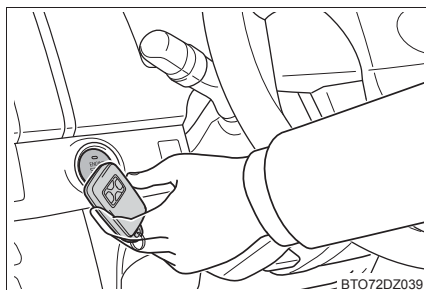


エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む

- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、エンジンスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンはかかりません。



- 3 ブザーが鳴ってから5秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識**■ エンジンの停止方法**

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 314)

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動の方法の手順 **[3]** でブザーが鳴ってから 5 秒以内にブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにエンジンスイッチのモードが切りかわります。(→P. 160)

■ 電子キーが正常に働かない場合

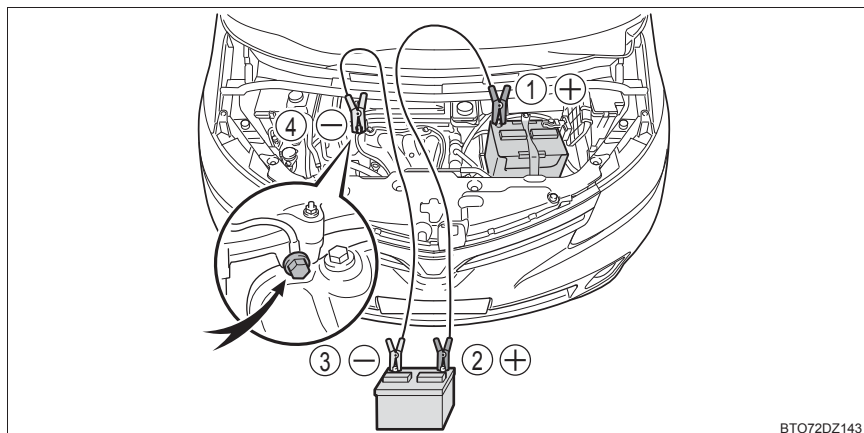
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P. 402)

バッテリーがあがったときは

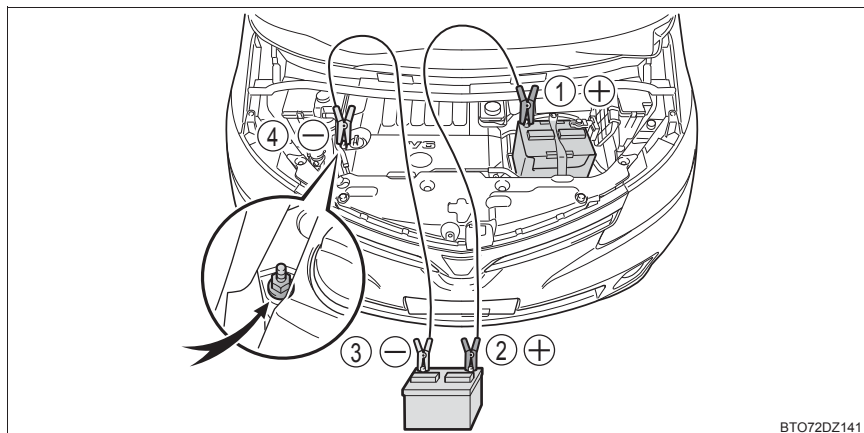
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→P. 294)
 - 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
- ▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



- ▶ 2GR-FE エンジン搭載車



- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
 - 4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
 - 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する
 - 6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラーム★が作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→P. 59)
- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをははずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーを交換するときは

工場出荷時に装着されているバッテリーと同等以外のものを使用した場合、燃費性能など本来の性能が発揮されないことがあります。

交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- メーター内の水温計（→P. 66）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

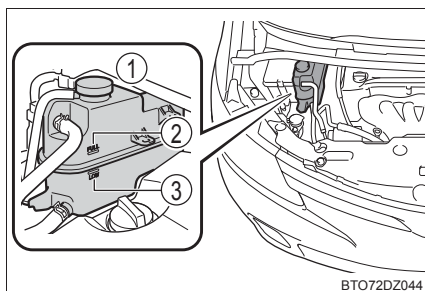
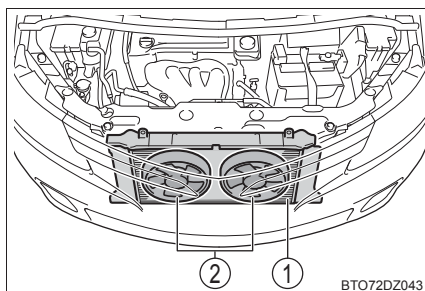
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

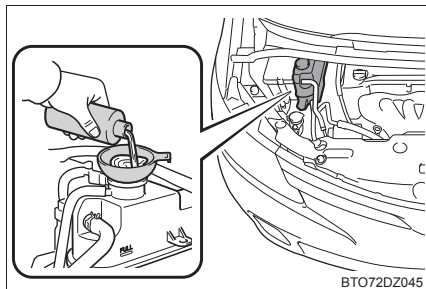
- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバタンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

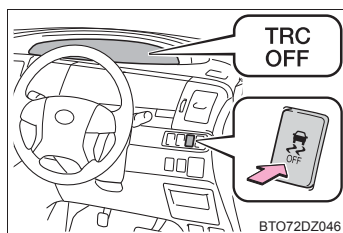
- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

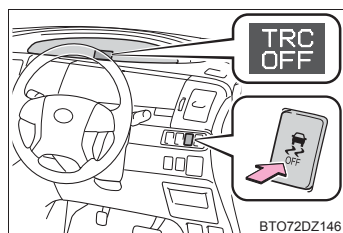
■脱出しにくいとき

VSC OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

▶ マルチインフォメーション
ディスプレイ非装着車



▶ マルチインフォメーション
ディスプレイ装着車



 警告**■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ （指定燃料・オイル量など）	394
-------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧.....	402
-------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	406
------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
▶ 2AZ-FE エンジン搭載車 無鉛レギュラーガソリン ▶ 2GR-FE エンジン搭載車 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※	65

※ 無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※ ¹)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20 ※ ² — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20	2AZ-FE	4.1	4.3
トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	2GR-FE	5.7	6.1

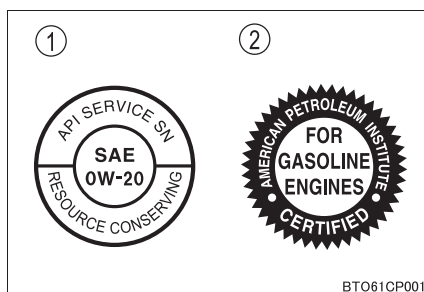
※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

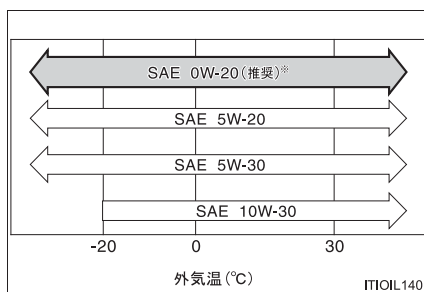
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イル
 サックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
 粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正 スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	2AZ-FE	リヤエアコン 装着車	8.2
		リヤエアコン 非装着車	6.3
	2GR-FE	リヤエアコン 装着車	10.6
		リヤエアコン 非装着車	8.7

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード FE	2AZ-FE	8.7
トヨタ純正オートフルード WS	2GR-FE (FF 車)	6.5
	2GR-FE (4WD 車)	6.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

 注意

■ CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動など不具合発生や破損に至るおそれがあります。

リアディファレンシャル (4WD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5、SAE 85W-90)	0.45

ブレーキ**■ ブレーキフルード**

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	103 以上

※ エンジン回転時に 500N (51.0kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ※数	4 ～ 6

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215 / 60R16 95H	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)	
	215 / 55R17 93V	17 × 7 J		
	215 / 60R17 96H			
	225 / 50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	
スペアタイヤ (販売店装着オ プション)	T145/90D16 106M	16 × 4T	420 (4.2)	

電球 (バルブ) ※¹

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ	
	▶ ハロゲンヘッドランプ装着車 ハイビーム (バルブタイプ: HB3)	60
	ロービーム (バルブタイプ: H11)	55
	▶ ディスチャージヘッドランプ装着車 ハイビーム (バルブタイプ: HB3)	60
	ロービーム (バルブタイプ: D4S)	35
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ	
	▶ アエラスを除く (バルブタイプ: H11)	55
車内	▶ アエラス (バルブタイプ: H16)	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ²	21
	番号灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※ ²	21
	後退灯	16
	フロントパーソナルランプ／フロントルームランプ	5
	バニティランプ	8
	リヤパーソナルランプ	5
	フロントドアカーテシランプ★	5
	ラゲージルームランプ	5

※¹ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※² アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
エスティマ	ACR50W	2AZ-FE (2.4L ガソリン)	FF (前輪駆動)
	ACR55W		4WD (4 輪駆動)
	GSR50W	2GR-FE (3.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
	GSR55W		4WD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、メーカーオプションのナビゲーションシステム（装着車のみ）の操作により、設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

メーカーオプションのナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

- ① メーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- ② 車両側のスイッチなどで設定変更可能
- ③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 101）

機能	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステムの作動	する	しない	○	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P. 75, 101）

機能	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図（非常点滅灯）	する	しない	○	—	○
作動の合図（ブザー）	する	しない	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	する	しない	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P. 75, P. 81, 91)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	する	しない	—	—	○
ワイヤレスリモコンの  スイッチ操作 (→P. 91) でパワーバックドア★を開ける	長押し	短押し	—	—	○
		2 回押し			
		しない			
ワイヤレスリモコンの  ★スイッチ操作 (→P. 81) でパワースライドドアを開ける	長押し	短押し	—	—	○
		2 回押し			
		しない			

■ ドアロック (→P. 77)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
車速感応オートドアロック	する	しない	○	○※	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない	○	○※	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	しない	する	○	○※	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車を除く

■ パワーバックドア★ (→P. 92)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
パワーバックドアスイッチの作動	長押し	短押し	—	—	○
開閉作動中の断続音 (ブザー)	する	しない	—	—	○

■ パワースライドドア (→P. 82)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
パワースライドドアスイッチの作動	長押し	短押し	—	—	○
開閉作動中の断続音 (ブザー)	する	しない	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム★ (→P. 171)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 5	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

■ エコドライブインジケータランプ (→P. 65)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
エコドライブインジケータランプの点灯	する	しない	—	—	○

■ イルミネーション (→P. 245)

機能	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを閉じてから室内灯が消灯するまでの時間	15 秒	7.5 秒	○	—	○
		30 秒			
解錠時の室内灯の点灯	する	しない	—	—	○
パワースイッチ OFF 後の室内灯の点灯	する	しない	—	—	○

■ その他

機能	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度	0	— 2 ~ +2	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度	0	— 2 ~ +2	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感应オートドアロック」と「シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
 - ・シフトレバーをP以外に入れると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ 車両側のスイッチで設定を行ったときは

ナビゲーションシステム装着車で、ナビゲーション画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーション画面の項目表示は、すぐに切り替わりません。

いったんエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると画面表示が切り替わります。

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき★

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが作動している状態で操作を行ってください。

 警告

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき★

エンジンが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワースライドドア	バッテリーを再接続したとき、	P. 85
パワーバックドア★	バッテリーがあがったとき、 ヒューズが切れたときなど	P. 95

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....408

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）411

アルファベット順さくいん.....413

五十音順さくいん414

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。（→P. 73）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P. 74）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P. 314）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→P. 160）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→P. 103）



スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→P. 83）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P. 159）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P. 160）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P. 101）
- ステアリングロックされていませんか？（→P. 161）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→P. 382）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P. 384）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 381）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P. 161）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P. 143）

**バックドアが開かない**

- バックドアを内側から開けることができます。（→P. 94）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P. 161）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P. 411）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 355, 360 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P. 368）
- スペアタイヤ（販売店装着オプションの応急タイヤ装着車）
車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P. 301）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P. 391）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム★）が作動した※	P. 58
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 102, 365
	シフトポジションがP以外になっている	
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	
	電子キーを車内に置き忘れている	
	シフトポジションがP以外になっている	

※ スマートエントリー&スタートシステムまたは、ワイヤレスリモコンでドアまたはバックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	パーキングブレーキが解除されていない	P. 355
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 357
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 167
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 154
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 195
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 219
車線からはずれそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用している	P. 200

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 230, 238, 241

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 214

AFS

(アダプティブフロントライティングシステム) 174

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 214

ETC

(エレクトロニックトールコレクション) 267

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 401

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 396

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス) 41, 49

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) 219

LKA

(レーンキーピングアシスト) 200

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32

TRC

(トラクションコントロール) 214

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 214

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール) ... 214

五十音順さくいん

あ

アームレスト	263
アウターミラー（ドアミラー） ..	139
操作	139
リバース連動機能	140
アクセサリソケット	261
アクセサリコンセント	261
アクセサリモード	160
アクティブヘッドレスト	127
アシストグリップ	265
アダプティブフロント ライティングシステム（AFS）	174
アラーム	
オートアラーム	58
音さくいん	411
警告ブザー	355, 360
アンチロックブレーキシステム （ABS）	214
アンテナ（スマートエントリー& スタートシステム）	101

い

ETC カード	
カードについて	273
挿入のしかた	275
取り出し方	276
有効期限切れ通知	276
ETC システム	
ETC カード	273
ETC システムについて	267
ETC ユニット	272
統一エラーコード一覧	283
利用履歴の確認	281

ETC ユニット

音量調整	282
各部の名称	272
装着位置	272
統一エラーコードの確認	283
ランプ表示と通知音	279
イージークローザー	
スライドドア	83
バックドア	94
イグニッションスイッチ （エンジンスイッチ）	159
位置交換 （タイアローテーション）	298
イベントデータレコーダー （EDR）	8
イモビライザーシステム	57
イルミネーテッドエントリー システム	247
インテリジェント AFS	174
インジケーター（表示灯）	64
警告メッセージ	360
インナーミラー	138

う

ウインカー（方向指示灯）	169
電球（バルブ）の 交換	332, 337, 340
方向指示レバー	169
ワット数	400
ウインドウ	143
ウォッシャー	177, 179
パワーウインドウ	143
リヤウインドウ デフォッガー	233
ウインドウロックスイッチ	143
ウォーニングランプ（警告灯）	355

ウォッシャー	177, 179
液の補給	297
スイッチ	177, 179
タンク容量	398
冬の前の準備・点検	225
動けなくなったときは (スタック)	391
運転	150
運転を補助する装置	214
寒冷時の運転	225
正しい運転姿勢	24
手順	150

え

エアコン	
フィルターの交換	311
フロントエアコン	230
リヤエアコン	238
リヤクーラー	241
エアバッグ	32
警告灯	355
作動条件	36
配置	32
AFS (アダプティブフロント ライティングシステム)	174
エコドライブインジケーター	65
エレクトリック	
パワーステアリング (EPS)	214
機能	214
警告灯	355
警告メッセージ	361

エンジン

エンジンイモビライザー システム	57
エンジン回転計 (タコメーター)	66
エンジンスイッチ (イグニッションスイッチ/ エンジンスイッチ)	159
エンジンの始動方法	159
オーバーヒート	388
警告灯	355
警告メッセージ	362
ボンネット	294
エンジンオイル	395
警告メッセージ	360
冬の前の準備・点検	225
メンテナンスデータ	395
エンジンスイッチ	159
エンジンフード (ボンネット)	294
開け方	294

お

オイル (エンジンオイル)	395
応急用タイヤ	308
空気圧	399
交換方法	301
大型ムーンルーフ	146
フロントムーンルーフ	146
リヤサンシェード	146
オートアラーム	58
オートドアロック・ アンロック機能	77

オートマチックトランスミッション	
シフトダウン	
制限警告ブザー	167
操作	164
7速スポーツシーケンシャル	
シフトマチックモード	166
メンテナンスデータ	397
オートマン	110
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	175
オーバーヒート	388
オープナー	
給油口	181
ボンネット	294
お子さまを乗せるとき	40
ウインドウロックスイッチ	143
お子さまの安全のために	40
子供専用シート	41
シートベルトの着用	29
チャイルドシートの取り付け ...	49
チャイルドプロテクター	83
オドメーター	66
機能	66
表示の切りかえ・	
リセットスイッチ	67

か

カーテシランプ	
装着位置	245
ワット数	400
カーテンシールドエアバッグ	32
カードホルダー	258
カーペット	22
洗浄	292
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	233

外装の電球 (バルブ)	319
交換要領	319
ワット数	400
カスタマイズ機能	402
型式	401
カップホルダー	251
カメラ	
白線認識用カメラ (LKA)	200
ガラスの曇り取り	
(リヤウインドウデフォグガー)	
.....	233
ガレージジャッキ	296
冠水路走行	157
寒冷時の運転	225

き

キー	72
エンジンが始動できない	382
キーナンバープレート	72
キーの構成	72
キーレスエントリー .. 75, 81, 91	
キーをなくした	73, 74
正常に働かない	382
施錠・解錠ができない	382
電子キー	72
電池が切れた	314
メカニカルキー	72
ワイヤレスリモコン	72
キーレスエントリー	75, 81, 91
スマートエントリー&	
スタートシステム	101
ワイヤレスドアロック	72
給油	181
給油のしかた	181
メンテナンスデータ	394
緊急始動機能 (エンジン)	380

緊急時の対処

エンジンが始動できない.....	379
オーバーヒートした	388
キーの電池が切れた	314
警告灯がついた	355
警告メッセージが 表示された	360
けん引.....	349
故障したときは	344
シフトレバーが シフトできない	381
車両を緊急停止する	348
スタックした	391
電子キーが正常に動かない....	382
発炎筒.....	346
バッテリーがあがった.....	384
パンクした.....	367

く

空気圧 (タイヤ).....	399
メンテナンスデータ	399
区間距離計 (トリップメーター)...	66
機能	66
切りかえ・リセットスイッチ...	67
曇り取り	233
ミラーヒーター	233
リヤウインドウ デフォグガー	233
クラクション (ホーン)	136
クリアランスソナー	208
操作	208
クリアランスランプ (車幅灯) ...	171
電球 (バルブ) の交換.....	330
スイッチ.....	171
クリップ エンジンルームカバー.....	321
フロアマット	22

クルーズコントロール.....	186
クルーズコントロール	186
警告メッセージ	364
レーダークルーズ コントロール.....	190
グローブボックス	249

け

警告器 (ホーン)	136
計器類 (メーター)	66
照度調整.....	67
マルチインフォメーション ディスプレイ	68
メーター	66
警告灯.....	63
運転席シートベルト非着用	357
ABS & ブレーキアシスト	355
SRS エアバッグ ／プリテンショナー	355
エンジン	355
充電.....	356
助手席シートベルト非着用	357
スマートエントリー & スタートシステム	357
スリップ	356
ディスチャージヘッドランプ オートレベリング	357
燃料残量	356
パワーステアリング	355
半ドア	356
PCS.....	356
ブレーキ	355
マスターウォーニング	356
油圧	356
4WD.....	357

警告ブザー

シートベルト非着用	357
シフトダウン制限	167
接近警報（レーダークルーズ コントロール）	195
パーキングブレーキ 未解除走行時	355
パワーステアリング	355
ブレーキ	355
リバース	168
警告メッセージ	360
化粧ミラー（バニティミラー） ..	258
けん引	349
けん引のしかた	349
フック	351

こ

コインボックス	249
交換	
キーの電池	314
タイヤ	301
電球（バルブ）	319
ヒューズ	316
工具（ツール）	301
後席確認ミラー	259
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	334
ワット数	400
子供専用シート	41
選択方法	41
取り付け方	49
小物入れ	249
コンソールボックス	253
コンライト （自動点灯・消灯装置）	171

さ

サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	169
電球（バルブ）の交換	340
方向指示レバー	169
サイドミラー（ドアミラー）	139
操作	139
リバース連動機能	140
サードシート	113
格納	116, 119
調整	113
テーブル状態	115, 118
三角表示板収納スペース	255
サンシェード	
リヤサンシェード	146
サンバイザー	258

し

シート	106, 108, 113
子供専用シート	41
正しい運転姿勢	24
調整	106, 108, 113
手入れ	291
ヘッドレスト	126
シートアレンジ	130
スーパーリラックスモード ..	131
セカンドシート・ サードシートフラット モード	132
フラットラゲージモード	133
フロントシート・ セカンドシートフラット モード	133
シートヒーター	243

シートベルト	26
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	357
高さ調整	29
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26, 27, 28
手入れ	292
妊娠中の方の着用	30
シートベルト非着用警告灯	357
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー警告灯	355
室内灯（ルームランプ）	246
始動のしかた	159
シフトポジション	165
シフトレバー	164
シフトレンジの切りかえ	164
シフトロックシステム （解除ボタン）	381
操作	164
リバース警告ブザー	168
シフトレバーが シフトできないときは	381
締め付けトルク（ホイール）	308
ジャッキ	
ガレージジャッキ	296
車載ジャッキ	301
ジャッキハンドル	301
車幅灯	171
電球（バルブ）の交換	330
ランプスイッチ	171
車両型式	401
車両仕様（スペック）	394
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	348
ジュニアシート	42

収納装備	248
仕様（車両仕様）	394
衝撃感知ドアロック 解除システム	79

す

水温計	66
スイッチ	
イグニッション	159
ウインドウロック	143
ウォッシャー	177, 179
エアコン	230, 238, 241
エンジンスイッチ	159
快適温熱シート	243
クルーズコントロール	
.....	186, 190
サードシート	113, 114
車間距離切りかえ (レーダー	
クルーズコントロール)	192
ドアミラー	139
ドアロック	77
「ナノイー」	233
パワーウインドウ	143
パワースライドドア	82
パワーバックドア	92
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	345
VSC OFF	215
フォグランプ	176
PCS OFF	220
フロントシート	106
ヘッドランプ	171
方向指示レバー	169
ホーン (警音器)	136
ランプ	171
リヤウインドウ	
デフォッガー	233
リヤサンシェード	146
レーダークルーズ	
コントロール	190
ワイパー	177, 179
スタック	391

ステアリングホイール	
(ハンドル)	136
位置調整	136
ステアリングスイッチ	266
ステアリングロック	161
解除できないとき	161
警告メッセージ	366
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	340
スノータイヤ (冬用タイヤ)	225
スピードメーター	66
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	308
空気圧	399
交換方法	301
スペック (車両仕様)	394
スマートエントリー&	
スタートシステム	101
アンテナの位置	101
エンジンの始動	159
カスタマイズ設定	402
警告ブザー	102
警告メッセージ	365
作動範囲	101
正常に働かないとき	382
節電機能	103
電波がおよぼす	
影響について	105
ドアの解錠・施錠	75, 80
バックドアの解錠・施錠	91
スモールランプ (車幅灯)	171
電球 (バルブ) の交換	330
ランプスイッチ	171

スライドドア	80
スライドドア	
イーजीクローザー	83
スライドドアハンドル	81
ドアガラス	143
半ドア警告灯	356
パワースライドドア	82

せ

清掃	288, 291
アルミホイール	288
大型ムーンルーフ	290
外装	288
シートベルト	292
内装	291
レーダーセンサー	199
制動灯	
電球（バルブ）の交換	340
積算距離計（オドメーター）	66
機能	66
表示の切りかえ	67
セカンドシート	108
セキュリティ	
インジケーター	57, 58
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）	195
センサー	
ライトセンサー	174
レーダーセンサー	196, 220
洗車	288

前照灯（ヘッドランプ）	171
電球（バルブ）の交換	
.....	323, 326, 340
ディスチャージヘッド	
ランプに関する注意	341
ライトセンサー	174
ランプ消し忘れ防止機能	174
ランプスイッチ	171
ワット数	400

そ

速度計（スピードメーター）	66
---------------------	----

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	169
電球（バルブ）の交換	
.....	332, 337, 340
方向指示レバー	169
ワット数	400
タイヤ	298
応急用タイヤ	308
空気圧	399
交換	301
締め付けトルク	306
点検	298
パンク応急修理キット	368
パンクしたときは	367
ホイールサイズ	399
ローテーション	
（位置交換）	298
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	391
タイヤチェーン	225

ち

チェーン (タイヤチェーン)	225
チャイルドシート	41
ISOFIX バーでの取り付け	51
シートベルトでの固定	50
選択方法	41
チャイルドプロテクター	83
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	170
操作	170
未解除走行時警告ブザー	355
メンテナンスデータ	398
チルト&テレスコピック	
ステアリング	136

つ

ツール (工具)	301
----------------	-----

て

停止表示板収納スペース	255
ディスチャージヘッドランプ	
オートレベリングシステム	175
電球 (バルブ) の交換	340
ランプスイッチ	171
ディファレンシャル	
リヤディファレンシャル	397
手入れ	288, 291
アルミホイール	288
外装	288
シートベルト	292
内装	291
レーダーセンサー	199
デッキフック	255
デッキボード	257
テールランプ (尾灯)	171
電球 (バルブ) の交換	340
ランプスイッチ	171

デフォグガー (リヤウインドウ

デフォグガー)	233
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	319
ワット数	400
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	394
電子キー	72
作動範囲	101
正常に働かないとき	382
節電機能	103
電池が切れた	382
電池交換	314
電池交換 (キー)	314

と

ドア	75, 80, 91
オートドアロック・	
アンロック機能	77
警告灯	356
警告メッセージ	362
衝撃感知ドアロック解除	
システム	79
スマートエントリー&	
スタートシステム	101
チャイルドプロテクター	83
ドアガラス	143
ドアロックスイッチ	77
半ドア警告表示	362
ロックレバー	77, 80
ワイヤレスリモコン ..	75, 81, 91
ドアカーテシランプ	245
位置	245
ワット数	400
ドアミラー	139
操作	139

盗難防止装置

エンジンイモバイザー	
システム	57
オートアラーム	58
時計	260
トップテザーアンカー	49
トラクションコントロール	
(TRC)	214
トランスミッション	164
Sモード	166
シフトダウン	
制限警告ブザー	167
操作	164
7速スポーツシーケンシャル	
シフトマチックモード	166
メンテナンスデータ	397
トリップメーター	66
機能	66
切りかえ・リセットスイッチ ..	67

な

内装

収納装備	248
手入れ	291
「ナノイー」	236

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	158
ラゲージルーム	255

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック)	391

ね

熱線式ウインドシールド	
デアイサー	234
燃費	
瞬間燃費	69
平均燃費	69
燃料	394
給油	181
種類	394
燃料残量警告灯	356
容量	394
燃料計	66

は

パーキングブレーキ	170
警告メッセージ	362
操作	170
未解除走行時警告ブザー	355
メンテナンスデータ	398
バックドア	91
イージークローザー	94
警告メッセージ	362
パワーバックドア	93
ラゲージルーム内装備	255
パーソナルランプ	246
ワット数	400
排気ガス	56
ハイビーム (ヘッドランプ)	172
電球 (バルブ) の交換	326
ランプスイッチ	171
ワット数	400
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	340
ハザードランプ (非常点滅灯)	345
スイッチ	345
電球 (バルブ) の交換	
.....	332, 337, 340
ワット数	400

挟み込み防止機能

パワーウインドウ 143

リヤサンシェード 146

発炎筒 346

バックアップランプ（後退灯）

電球（バルブ）の交換 334

ワット数 400

バッテリーがあがった 384

バニティ（化粧用）ミラー 258

バニティミラーランプ 258

装備について 258

ワット数 400

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ） 319

ワット数 400

パワーウインドウ 143

ウインドウロックスイッチ 143

閉めることが

できないときは 144

操作 143

挟み込み防止機能 143

パワーステアリング 214

警告灯 355

警告メッセージ 361

パワースライドドア 82

操作 82

挟み込み防止機能 85

パワーバックドア 93

操作 93

挟み込み防止機能 95

パンクした 367

番号灯

（ライセンスプレートランプ）... 171

電球（バルブ）の交換 335

ランプスイッチ 171

ハンドル

（ステアリングホイール） 136

位置調整 136

オーディオスイッチ 266

ひ

ビークルスタビリティ

コントロール（VSC） 214

ヒーター

快適温熱シート 243

フロントエアコン 230

リヤエアコン 238

リヤクーラー 241

非常点滅灯（ハザードランプ） 345

スイッチ 345

電球（バルブ）の交換

..... 332, 337, 340

ワット数 400

尾灯（テールランプ） 171

電球（バルブ）の交換 340

ランプスイッチ 171

ヒューズ 316

表示灯 64

日よけ（サンバイザー） 258

ヒルスタートアシスト

コントロール 214

ふ

ブースターケーブルの

つなぎ方 384

フォグラмп 176

スイッチ 176

電球（バルブ）の交換 328

ブザー

LKA..... 200

電動格納式サードシート..... 122

シートベルト非着用警告..... 357

シフトダウン制限警告..... 167

接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 195パーキングブレーキ未解除
走行時警告..... 355

PCS..... 219

ブレーキ警告..... 355

リバース警告..... 168

フック

買い物フック..... 264

けん引フック..... 351

デッキフック..... 255

フロアマット固定フック..... 22

フューエルメーター（燃料計）..... 66

フューエルリッド（給油口）..... 181

給油のしかた..... 181

冬の前の準備（寒冷時の運転）... 225

冬用タイヤ..... 225

プリクラッシュセーフティ

システム（PCS）..... 219

機能..... 219

警告灯..... 356

警告メッセージ..... 361

ブレーキ

警告ブザー..... 355

パーキングブレーキ..... 170

ブレーキ警告灯..... 355

メンテナンスデータ..... 398

ブレーキアシスト..... 214

ABS & ブレーキアシスト

警告灯..... 355

機能..... 214

ブレーキ付近からキーキー音が

聞こえる..... 154

ブレーキフルード..... 398

フロアマット..... 22

フロントアームレスト..... 263

フロントシート..... 106

快適温熱シート..... 243

正しい運転姿勢..... 24

調整..... 106

手入れ..... 291

ヘッドレスト..... 126

フロントパーソナルランプ..... 246

スイッチ..... 246

ワット数..... 400

フロントフォグランプ..... 176

スイッチ..... 176

電球（バルブ）の交換..... 328

フロント方向指示灯..... 169

電球（バルブ）の交換..... 332

方向指示レバー..... 169

ワット数..... 400



平均燃費..... 69

ヘッドランプ..... 171

電球（バルブ）の交換

..... 323, 326, 340

ライトセンサー..... 174

ランプ消し忘れ防止機能..... 174

ランプスイッチ..... 171

ワット数..... 400

ヘッドランプオートレベリング

システム..... 175

ヘッドレスト..... 126

アクティブヘッドレスト..... 127

調整..... 126

取りはずし..... 128

ベビーシート..... 42

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	301
メンテナンスデータ	399
方向指示灯	169
電球 (バルブ) の交換	
.....	332, 337, 340
方向指示レバー	169
ワット数	400
ホーン (警音器)	136
保証	9
補助確認装置	142
ボトルホルダー	252
ボンネット	294
開け方	294

ま

マスターウォーニング	356
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	68
LKA 表示	201
クルーズ	
インフォメーション	68
警告メッセージ	360
レーダークルーズ	
コントロール表示	190

み

ミラー	
インナーミラー	138
後席確認ミラー	259
ドアミラー	139
バニティミラー	258
補助確認装置	142

む

ムーンルーフ	146
操作	146
挟み込み防止機能	146

め

メーター (計器類)	66
警告灯	355
照度調整	67
表示灯	64
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	68
メーター	66
メカニカルキー	72
メンテナンスデータ	394

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	402
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	391
油脂類	394

よ

4WD オートモード	185
------------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ	
(番号灯)	171
電球 (バルブ) の交換	335
ランプスイッチ	171
ラゲージルームランプ	93
ワット数	400
ラジエーター	
オーバーヒート	388
メンテナンスデータ	397

ランプ

室内灯	246
電球（バルブ）の交換	319
パーソナルランプ	246
非常点滅灯 （ハザードランプ）	345
フロントパーソナルランプ	246
フロントフォグランプ	176
ヘッドランプ（前照灯）	171
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）	169
ライトセンサー	174
ランプ消し忘れ防止機能	174
ルームランプ	246
ワット数	400
ランプ消し忘れ防止機能	174

り

リヤアームレスト	263
リヤウインドウデフォッガー スイッチ	233
リヤサンシェード	146
リヤ方向指示灯	169
電球（バルブ）の交換	337
方向指示レバー	169
ワット数	400

る

ルームミラー （インナーミラー）	138
ルームランプ（室内灯）	246

れ

冷却水	397
水温計	66
冬の前の準備	225
メンテナンスデータ	397

冷却装置（ラジエーター）	397
オーバーヒート	388
メンテナンスデータ	397
レーダークルーズコントロール 接近警報	195
レーダーセンサー	196
レバー シフト	164
方向指示	169
ロック（ドア）	77
ロック（スライドドア）	80
レーンキーピングアシスト 車線表示	202

ろ

ロック ウインドウロック	143
シフトロック	381
スマートエントリー& スタートシステム	101
チャイルドプロテクター	83
ドア	77, 80
ワイヤレスリモコン	75, 91
ロングスライドコンソール	253

わ

ワイパー & ウォッシャー	177, 179
ワイパーデアイサー	234
ワイパーブレード（寒冷地用）	226
ワイヤレスリモコン	75, 81, 91
作動の合図	76, 83, 94
操作	75, 81, 91
電池の交換	314
半ドア警告ブザー	76
ワックス	288
ワット数	400

ガソリンスタンドでの情報

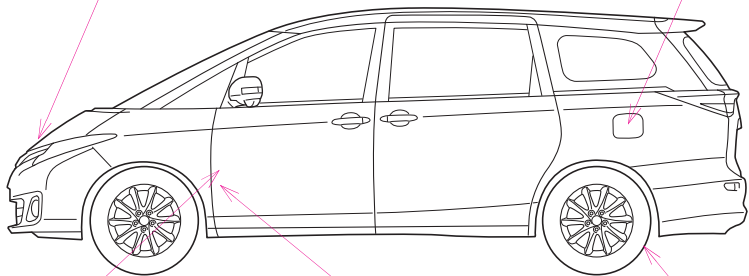
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 294

給油扉

P. 183



ボンネット解除レバー

P. 294

給油扉オープナー

P. 183

タイヤ空気圧

P. 399

燃料の容量（参考値）

65L

燃料の種類

P. 394

タイヤが冷えている
ときの空気圧

標準タイヤ：

タイヤサイズ	前輪 kPa(kg/ cm ²)	後輪 kPa(kg/ cm ²)
215 / 60R16 95H	240 (2.4)	230 (2.3)
215 / 55R17 93V		
215 / 60R17 96H		
225 / 50R18 95V		

スペアタイヤ（販売店装着オプション）：
420kPa（4.2kg/cm²）

エンジンオイル容量
（参考値）

P. 395

エンジンオイルの種類

トヨタキャスルモーターオイル

P. 395

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 28856

01999-28856

ZB-2015年 6 月26日

2014年 9 月 2 日 初版

2015年 7 月 3 日 3 版

エスティマ